



伊太利高法

大藏
翻譯課

1044



2772

伊太利商法目錄

第一編 一般商業ノ事

第一卷 商人ノ事

第二卷 簿冊ノ事

第三卷 商人集會場手形賣買世話人并ニ商業世話人ノ事

第一章 集會場ノ事

第二章 手形賣買世話人及商業世話人ノ事

第四卷 商業取扱人ノ事

第一章 一般仲買人ノ事

第二章 水陸運送取扱人ノ事

第三章 運人ノ事

第五卷 商事上ノ契約ノ事

第六卷 賣買ノ事

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

第七卷 商業會社及商業仲間ノ事

第一章 商業會社ノ事

第一款 規則

第二款 合名會社ノ事

第三款 通常差金會社ノ事

第四款 合名會社及通常ノ差金會社ニ通シ用ユベキ

規則

第五款 不致差金會社ノ事

第六款 無名會社ノ事

第七款 株式會社及無名會社ニ通シ用ユベキ規

則

第八款 會社ノ約及章程ノ法式

第九款 會社ノ解散及決算ノ事

第十款 連帶ノ義務ヲ免カルノ事

第二章 商業仲間ノ事

第一款 共々仲間ノ事

第二款 共立仲間ノ事

第八卷 質物ノ事

第九卷 為替手形、切手及其經時効ノ事

第一章 為換手形ノ事

第一款 為換手形ノ法式

第二款 為替手形ヲ拂フベキ金高ヲ備ルノ事

第三款 手形ノ承諾ノ事

第四款 人干渉ノ手形ノ承諾ヲ為スノ事

第五款 拂期限ノ事

第六款 裏書ノ事

第七款 連帶ノ事

第八款 保証ノ事

第九款 手形ノ事

第十款 他人干渉レテ手形ノ金高ヲ拂フ事

第十一款 手形持主ノ權利及義務ノ事

第十二款 拒ミノ証書ノ事

第十三款 返シ為替ノ事

第二章 切手ノ事

第一款 金高ニテ拂フヘキ切手ノ事

第二款 商品ニ付テノ切手ノ事

第三章 経時効ノ事

第二編 海上貿易ノ事

第一卷 海船ノ事

第二卷 船舶ヲ貨物ト為ス事 船舶ヲ差押フル事及船舶ヲ

裁判所ニテ賣拂フ事

第三卷 船ノ持主ノ事

第四卷 船長ノ事

第五卷 乗組人雇入レノ事并ニ其雇賃ノ事

第六卷 船舶借入契約ノ事

第一章 総規則

第二章 積荷目録ノ事

第三章 船舶借入賃ノ事

第四章 船客ノ事

第七卷 引込、引取、引渡、引渡ノ事

第八卷 海上受合ノ事

第一章 受合ノ契約其法式及其物件

第二章 受合ヲ為サレムル者及受合ヲ為ス者ノ義務ノ事

第三章 受合品拋棄ノ事

第九卷 海上損失ノ事

第十卷 投荷ノ事及投荷ニ付擔當スル割合ノ事

第十一卷 訴ヲ拒ム事

第十二卷 経時効ノ事

第三編 分散及財産ノ事

第一卷 分散ノ事

総則

第一章 分散公告ノ事其公告ノ効及分散人ノ身体ニ付テノ處置

第二章 掛リ裁判官ヲ任スル事

第三章 分散人ノ財産ニ封印ヲ為ス事

第四章 分散管財人ノ事

第一款 総規則

第二款 管財人ノ職務

第三款 封印ヲ取除ク事及目錄ノ事

第四款 物品及動産ヲ賣拂フ事并ニ分散人ノ得可キ

金高ヲ受取ル事

第五款 分散人ノ權利ヲ保護スル處置

第六款 債主ノ權ヲ検査スル事

第五章 分散ノ和解契約書及債主ノ連結

第一款 債主ヲ呼集ムル事及共會議

第二款 分散ノ和解契約書

第一節 分散ノ和解契約書ヲ作ル事

第二節 分散和解契約ノ効

第三節 分散和解契約ノ取消及解除ノ事

第三款 債主ノ連結

第四款 分散人ノ財産分散ノ手續ヲナスニ足ラザル

ニ付其手續ヲ止ムル事

第六章 債主ノ種類及分散ノ場合ニ於テ其権利

第一款 分散人ト共ニ義務ヲ負フタル者及保証人ノ

事

第二款 動産ノ質ヲ有スル債主及動産上ニ特權ヲ有

スル債主

第三款 不動産ニ付書入質ノ權及特權ヲ有スル債主

ノ權利ノ事

第四款 分散人ノ婦ノ權利ノ事

第七章 各債主ノ間ニ金高ヲ分派スル事及動産ヲ賣却

シテ負債ヲ仕拂フ事

第八章 分散人ノ不動産ヲ賣拂フ事

第九章 手形又ハ商品ヲ取戻ス事

第十章 分散ノ事ニ付為シタル裁判言渡ニ故障ヲ述ブ

ル事及控訴スル事

第二卷 倒産ノ事

第一章 通常倒産

第二章 詐偽倒産

第三章 分散人ニ非ザル者分散ノ事ニ付犯シタル罪

第四章 倒産ノ場合ニ於テ其倒産人ノ財産ヲ支配スル

事

第三卷 復權ノ事

第四編 高法裁判所ノ管轄及民事上拘留ノ事
 第一卷 裁判所ノ管轄ノ事
 第二卷 民法上拘留ノ事

伊太利商法目錄終

伊太利商法

第一編 一般商業ノ事

第一卷 商人ノ事

第一條 凡ソ商業ヲ行ヒ之ヲ以テ其常職トナス者ハ商人トス

第二條 凡ソ商業トナスモノ左ノ如シ

第一 商品ヲ自然ノ物又ハ製作ヲ加ヘテ賣拂フタメ又ハ之ヲ賃貸スルタメ買入ルノ事
 然レモ家用ニ供スルタメ商品ヲ買入ル、并ハ其必用ノ高ヲ超ヘズ又之ヲ賣拂ハサルニ於テハ商業ト視做スベカラズ

第二 製造、仲買、水陸運輸ノ業

第三 供給、口入、取次、見セ物ノ業

第四 金銀為替、商業世話人ノ業

一條
 六百三十三條

第五 銀行ノ業

第六 何人ノ間ヲ向ハス為替手形為替金ヲ拂フベキ保証状返シ為替金銀ノ送致ヲ為ス事

第七 商事ニ係ルコトニ限り商人ニ非ル者ノ手署セル切手及商事ニ係ルコトニ限り上ニ指示シタル商人ニ非ル者ノ手署セル為換金ヲ拂フヘキ保証状又ハ返シ為替ヲ為ス事

第八 請負人製作及建築ノ業ヲ為スニ其材料ヲ給シタル

并ハ其業

第九 航海ニ用ルル船舶ヲ造營及賣買スル業

第十 海上運輸ノ業

第十一 航海ノタメニ備フル船具食糧ノ買賣

第十二 船舶ノ貸借船舶ヲ抵當トシテ金ヲ貸借スルコト其

他總テ海上貿易ニ関スル諸契約

第十三 乗組人給料ニ付テノ契約

第十四 船中使役ノ為メノ乗組人傭入ノ契約

第十五 海上請合ニ於テハ請合フ者ト請合ハシムル者トノ双方

第十六 陸地請合ニ於テハ請合ヲナス一方

第十七 諸商社ノ株金ノ賣買

第三條 左ノ件々モ亦商業ト看做スベキモノトス

第一 商人已ノ商業ニ属スル商品ヲ賣リ及貸ス事

第二 商事ニ関セザル旨ヲ記セザル所ノ商人ノ手署セル切手并商人ノ手署セル為替金ヲ拂フベキ保証状及返シ為替

第三 事實商事ニ関セザルコトヲ証セザル所ノ總ノ商人ノ

契約及義務

四二条

第四條 男女ヲ問ハズ後見ヲ免カレタル幼者ハ商業ヲ行ハズ
 メ及其行フ所ノ商業ヨリ生スル義務ニ関シ丁年ノ者ト同視
 セラル、タメニハ必其父母ノ承諾ヲ受ケザルヲ得ズト雖モ
 裁判所ノ許可ヲ得ルヲ要セズ然レモ其幼者親族會議又ハ後
 見人ヨリ後見ヲ免ゼラレタルモノナルモハ民法第三百九条
 ニ循ヒ裁判所ノ許可ヲ受ク可シ
 後見ヲ免スル証書及商業ヲ行フヲ許可スル証書ハ之ヲ幼
 者ノ居住セントスル地ノ商法裁判所ノ書記局ノ簿冊ニ登記
 シ又其訟庭ニ一ケト間之ヲ貼付シ置ク可シ
 幼者ハ右証書ノ登記及貼付ノ前ニ商業ヲ行フヲ得ズ
 第五條 商人ニ非ル幼者ト雖モ第二條ニ循ヒ商業ト看做スヘ
 キ事件ヲ行ハントスルモハ前條ノ定規ヲ通シ用ユヘシ

四三条

四六条

第六條 商人タル幼者ハ已ノ不動産ヲ書入質トナスヲ得ヘシ
 然レモ民法第三百九条ノ定規ニ循フニ非レバ之ヲ賣却フ
 ヲ得ズ

四四条

第七條 有夫ノ婦ハ夫ノ明許又ハ黙許アルニ非レバ商人タル
 ヲ得ズ
 婦職業トシテ商業ヲ行フヲ公布シ又公ケノ証書ヲ以テ之
 ヲ証スルモハ夫ノ之ヲ承諾センモノト看做スベシ但シ夫其
 承諾ヲ與ヘザル旨ヲ故ヲニ申述スルモハ格別ナリトス
 有夫ノ婦ノ商人ト為ルニ付民法第三百三十五條第一項ニ記シ
 タル場合ニ於テハ裁判所ノ許可ヲ得ザル可ラズ
 法律ニ循ヒ別居シタル有夫ノ婦商業ヲ行ハントスルニ夫共
 承諾ヲ与フルヲ拒ムモハ裁判所ヨリ其許可ヲ与フベシ且
 此裁判所ニ於テハ民法第三百三十六條ニ從ヒ夫ノ申出ヲ聞ク

可シ

第八條 有夫ノ高婦其商業ニ係ル事件ニ付裁判所ニ出ルハ別

段夫ノ許可ヲ受ルヲ要セス

此場合ニ於テ高婦若シ第二婚ノ夫ト財産共通ノ法ヲ以テ結
婚セシハハ第二婚ノ夫ハ猶ホ民法ノ定規ニ循ヒ其共通ノ利

益保護ニ従事ヲナスヘシ

婦ハ夫ノ商品ヲ零賣スルノニニテハ商人ト看做スヘカラズ

但別ニ自ラ商業ヲ行フハ之ヲ商人ト看做スヘシ

第九條 高婦ハ夫ノ承諾ヲ得ズシテ其不動産ヲ書入質トナシ

又賣却スルヲ得ベシ但シ幼年ノ有夫ノ婦ニ関シ第六條ニ云

フ所ハ格別ナリトス取者曰ク此項ニ但シ幼年ノ有夫ノ婦ニ

幼年ノ有夫ノ婦ヲ論セス蓋シ一般ニ幼年商人ヲ論スルモノ

然レモ如何ナル場合ニ於テモ嫁資ニ属スル財産ハ之ヲ書入

四五条二項

ハニナ

質トナシ又ハ賣却スルヲ得ズ但シ民法ニ示ス所ノ場合ハ此
限ニ非ス

第十條 父母親属會議又ハ後見人ヨリ幼者ニ商業ヲ行フニ付

キ与ヘタル承諾及テヨリ婦ニ商業ヲ行フニ付与ヘタル承諾

ハ何レノ時ヲ問ハス取消スルヲ得ル此取消書ハ商法裁判所

ノ書記局ニ登記シ且之ヲ其訟庭ニ貼付スベシ

取消書ノ効ハ高婦及幼年ノ商人ノ已ニ為シタル事件ニ及ス

ベオラズ但シ民事裁判所ニ於テ高婦及幼年ノ商人ヲ呼出し

密室ニ於テ吟味ノ上取消書ヲ見認メタル場合ハ取消ノ効ア

リトス

其取消ノ効ハ他人ニ及スベカラズ但シ未タ全ク方付カザル

取引アル中ハ此限ニ非ス

第十一條 夫婦中ノ一人商人ナルハ其婚姻契約書ノ捺キ書

ヲ作り之ヲ第四條ノ定規ニ循テ登記及貼付スルタハ其商人
タル者ノ住居セントスル地ノ商法裁判所ノ書記局ニ送ルベ
シ
此核キ書ニハ其婚姻ハ嫁資法ナルカ又財産共通法ナルカヲ
記入スヘシ

第十二條 婚姻契約書ヲ作りタル公証人ハ前條ニ掲ケタル手
續ヲ取行フベシ此規ニ違フハ二十五リル罰金ヲ科シ且其職ヲ免セラルベ
シ若シ其レガタメ損害ヲ受ケタル者アルハ其責ニ任スベ
シ
第十三條 婚姻ヲナシタル後商業ヲ行ハントスル者ハ其商業
ヲ始メタル日ヨリ一ヶ月内ニ前條ニ記シタル手續ヲナスベ
シ此規ニ違フハ罰金ノ半ニ於テハ通常倒産人トナルベシ

第十四條 夫婦中ノ一人商人タルハ其共通財産ヲ復タ分派ス
ルノ訟ヲナスハ民法ニ循フベク且之ヲ第四條ノ定規ニ循テ
登記及貼付スヘシ
此登記及貼付ハ遅トモ財産分派ノ言渡ヲ受クル一ヶ月前
ニ之ヲナスヘシ
此登記及貼付ハ遅トモ財産分派ノ言渡ヲ受クル一ヶ月前
ニ之ヲナスベシ
其裁判言渡書モ亦タ其日附ヨリ一ヶ月内ニ登記及貼付スベ
シ
前項ノ手續ヲ履行セザルハ其商人ノ債主ハ自己ノ利益ニ関
スルコトアルニ於テハ財産ヲ復タ分派スルノ言渡ニ付故障ヲ
申立ルコトヲ得又未タ分派ノ終ラザル部分ニ付テハ之ヲ分派
セザル様ニナスコトヲ得但シ故ラニ債主ノ利益ヲ裁クノ目的

ヲ以テ財産ヲ分派シタルコトニ付民法第四百二十二条ニ定
メタル場合ハ此限ニ非ス

第十五條 商婦其婚姻ノ契約書ニ已レノ嫁資財産ヲ他年其子
ノ婦ニ與フベキ事ヲ記載シアルハ第十一条及第十二条ノ
定規ヲ適用スベシ

第二卷 商業簿冊ノ事

八八条

第十六條 凡ソ商人ハ日記帳ヲ設ケ置キ其貸高借高商賣ノ取
引手形ノ承諾及裏書其他總テ如何ナル名義ヲ問ハズ已レノ
受取高ト拂高トヲ毎日記入シ且家事費用高ヲ毎月一纏ニシ
テ記入スベシ但シ通常商賣ニ用ユル他ノ帳簿ヲ設ケ置クヲ
得ルト虽取ラ之ヲ必要トセス
又商人ハ人ヨリ受取りレ書状及電報ヲ一束ニナシ置キ人ニ
贈リタル書状及電報ハ別ニ設ケ置キタル簿冊ニ記入スベシ

八九條

第十七條 商人ハ毎年自己ノ動産不動産并ニ貸高及借高ノ目
録ヲ作り且之ヲ別ニ設ケ置キタル簿冊ニ記入スベシ

第十八條 前數條ニ記シタル三箇ノ簿冊ハ商人ノ住地ノ「治」
官ノ裁判所官ノ裁判所ニ高法裁判所ノ裁判官無税ニテ其毎葉ニ

番號ヲ附シ捺印スベシ且各簿冊取終ノ末葉ニ其總枚數ヲ記
シ又其記載ノ下ニ年月日ヲ記シテ手署スベシ

日記帳ハ毎年一度高法裁判所又ハ「治」
裁判官或ハ「治」
= 捺印スベシ

第十九條 高法裁判所ニ於テ一箇ノ簿冊ヲ設ケ置キ商業簿冊
ヲ差出シタル商人ノ姓名其簿冊ノ種類及捺印并ニ手署シタ
ル枚葉ノ總數ヲ記スベシ
「治」
簿冊ニ捺印及手署コルハ

八十条

毎年商法裁判所ニ其旨ヲ通知スベシ

第二十条

前數条ニ記シタル諸簿冊ハ空白ナク欄外ノ附記ナク日付ノ順序ニ從ヒ記スベシ且略語ヲ記スルヲ禁ス若シ又塗抹セサルヲ得ガルトキハ塗抹ノ文字ハ猶讀ミ得ベキ様ニナスヘシ

八十二条

第二十条

規則ニ循ヒ記シタル商業諸簿冊ハ商人ノ間ニ於テ商事件ニ付キ證據トナスヲ得

八十三条

第二十二條

商人ノ必要トスル簿冊ニシテ前ニ定メタル法式ヲ履マザルモノハ其簿冊ヲ有スル者ノタメニ證據トナスヲ得ス但シ此法第三編ニ記シタル事ニ付テハ此限ニアラス

第二十三條

商人ノ諸簿冊ハ如何ナル方法ヲ以テ記シタルヲ問ハズ其記シタル者ノ為メニ不利ナルノ證據トナルベシ然レモ他人其簿冊ヲ以テ已レヲ利セントスル者ハ其部分ノ外

八十一条

記載シタル事柄ノ真実ナラザルノ証ヲ立ルヲ得ス此条商人者ニ對スルヲ云フ

第二十四條

商人ハ法律ニ於テ命シタル諸簿冊ヲ十年間保存スベシ受取リタル諸書状及諸電報ニ於ルモ亦同シ

八十四条

第二十五條

諸簿冊諸書状諸電報ヲ檢視ノ為メ他人ニ渡スルハ相續會社ノ散又ハ財産共通ノ場合ニ非レハ裁判所ニ於テ之ヲ命ス可ラス

諸簿冊ヲ檢視ノタメ他人ニ渡スルハ双方ノ協議ノ上定メタル方法ニ循ヒナスベシ但シ此方法ナキハ其諸簿冊ヲ裁判所ノ書記局ニ差出スベシ

八十五条

第二十六條

裁判官ハ訴訟中何時ニテモ相手方ノ願ニ依リ又ハ公務ヲ以テ商業諸簿冊ヲ檢視スルタメ又ハ其訴訟ニ関スル事件ヲ校書スルタメ其諸簿冊ヲ裁判所ニ差出スベキヲ

命スルヲ得

第二十七條 一方ノ者其相手方ノ簿冊ヲ真實ナリト見認ムベキヲ申立タルニ付其簿冊ヲ差出スベキヲ命シタル中其相手方ノ者之ヲ拒ム中ハ裁判官ハ一方ノ者ニ誓ヲナスベキヲ命スルヲ得

第三卷 商人集會場手形賣買世話人并ニ商業世話人ノ事

第一章 商人集會場ノ事

第二十八條 商人集會場トハ諸商人諸船長手形賣買世話人商業世話人ノ集會スル場所ヲ云フ

商人集會場ハ勅令ニ依リ設ケルモノトス

第二十九條 手形賣買ノ相場商品ノ相場請合契約ノ請合貨諸船舶ノ貸借債海陸ノ運送貨諸公債書ノ相場其他商人集會場ニ於テ相場ヲ立テ得ベキ手形ノ相場ハ商人集會場ニ於テナ

シタル諸取引及取扱ヒタル事柄ニ依リ之ヲ定ム

第三十條 手形賣買世話人商業世話人ハ公ケノ世話人タルノ身分ヲ有スル者ニシテ規則ヲ以テ定メタル法式ニ循ヒ諸相場ヲ認ムベシ

第三十一條 分散シタル商人ニシテ未タ復権ヲ得サル者及職業ヲ行フヲ禁ゼラレ或ハ中止セラレタル公ケノ世話人ハ商人集會場ニ立入ルヲ禁ス

第二章 手形賣買世話人及商業世話人ノ事

第三十二條 法律ニ於テ手形賣買世話人ト商業世話人トヲ商業ノ世話人トス

手形賣買世話人及ニ商業世話人ハ法律上ニ定メタル法式ニ循ヒ其職業ヲ行フノ權ヲ得タル中ハ公ケノ世話人タルノ身分ヲ有ス

公ケノ世話人条例及其職業ヲ行フノ權ヲ得ルニ付テノ條件
ハ別段ノ法律及別段ノ規則ヲ以テ之ヲ定ム

第三十三條 公ケノ世話人タルノ身分ヲ有セザルニ於テハ何
人タリトモ手形賣買世話人トナリ又ハ私ニ其職務ヲ行フヲ
得ス

第三十四條 各種世話人ノ職務ニ於テ商業世話人ノ職務ノミ
ハ公ケノ世話人タルノ身分ヲ有セザル者ト雖モ之ヲ行フヲ
得

然レモ公ケノ世話人タルノ身分ヲ有セザル商業世話人ハ法
律上ニ定メタル公ケノ世話人ノ權利ト義務トヲ有セザルモ
ノトス

第三十五條 法律及勅令ヲ以テ特別ニ公ケノ世話人局ニ任シ
タル所ノ事ヲ取扱フノ權ハ獨リ公ケノ世話人ニノミ屬スベ

前項ノ事柄ヲ若シ他人公ケノ世話人アル地ニ於テ為シタル
中ハ其効ナシトス

第三十六條 公ケノ諸手形及其他商人集會場ニ於テ相場ヲ立
ルヲ得ベキ諸手形ノ取引ヲナシ又ハ為替手形切手及其他ノ
取引ヲナスヲ得ベキ商業上ノ諸手形ノ相場ヲ造ムルノ權ハ
特リ手形賣買世話人ニ屬スベシ

手形賣買世話人ハ亦商品ノ取扱世話人ト同シク貨幣及金銀
ノ物品ヲ賣買スルノ權アルモノトス且其相場ヲ造ムルノ權
ハ手形賣買世話人ノミ之ヲ有スルモノトス

第三十七條 手形賣買世話人ニ限リ公債事務局ニ出席シ手形
賣買ノ事ヲ取扱フヲ得手形賣買世話人ノ外此事ニ干預ス
ルヲ得ス

此事ヲ取扱フニ付キ手形賣買世話人ノ負數且其収締規則及保証ヲ立ルハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
此事ノ取扱ヒヲ命スルハ勅令ヲ以テスベシ
政府ハ勅令ヲ以テ規則ト時々適宜ノ心得書トニ循ヒ公ケノ手形ヲ競賣スベキコトヲ商人集會場ニ命スルヲ得

第三十八條 商業世話人ヲ分テ諸商品取扱世話人諸請合世話人諸船舶貸借世話人海陸運送世話人トス

第三十九條 諸商品取扱世話人ハ商品ノ契約ニ付テノ世話人トナリ且諸商品ノ相場ヲ慥ムルノ權ヲ有ス○又手形賣買世話人ト同シク貨幣及金銀ノ物品ノ賣買ニ付世話人タルヲ得

第四十條 請合世話人ハ諸船舶及諸商品請合ノコトヲ取扱ヒ又公証人ト同シク請合ノ証書ヲ作り且手署ヲ以テ其真正ナルコトヲ慥ム可シ又海上川筋湖上ノ旅行請合料ノ相場ヲ慥ムベシ

第四十一條 諸船舶貸借ノ世話人ハ諸船舶貸借ニ付世話人タル者ニシテ其貸借ノ價額ヲ慥ムベシ

若シ通辨ノ職ヲ兼ヌルハ訴訟ノ際諸申上書船舶借入ノ諸契約書積荷ノ諸目錄及其他商業ニ関スル諸契約書或ハ諸書類ノ翻訳ヲ要スル片ハ之ヲ訳スルノ權ヲ有ス又海關稅及商業上ノ事件ニ付諸外國人諸商人諸船長諸乗組人及其他航海ニ関スル各人ノタメニ通辨ノ職ヲ行フヲ得但シ商事件ニ付法律或ハ規則ヲ以テ別ニ通辨者ノ設ケアル時ト虽共ニ其職ヲ行フノ權アルモノトス

第四十二條 海陸運送世話人ハ其職ヲ行フベキ定メノ場所ニ於テ其運送ノ事件ニ付世話人タルノ權ヲ有ス

第四十三條 海陸運送世話人ハ各種ノ商業世話人及手形賣買

世話人ノ職ヲ兼有スルヲ得、但シ此場合ニ於テハ、其等ノ職ヲ行フニ付、法律及規則ヲ以テ定メタル保証金ノ要件及其他ノ要件ヲ履ムヲ要ス

第四十四條 商法裁判所ノ訟庭、商事會議局、商人集會場及諸世話人ノ勘定整理局ニハ、公ケノ世話人表ヲ作り之ヲ貼付シ置クベシ

商事會議局ナキ場所ニ於テハ、其表ヲ邑ノ事務局ニ貼付シ置クベシ

此表ニハ之ニ記スベキ世話人ノ種類ヲ記載スベシ
第四十五條 契約者ハ其取結バントスル事柄ニ付必ス公ケノ世話人ヲ用キ、ルヲ要セスト、虽モ公ケノ世話人タル者ハ其依托ヲ受ケタル所ニ職務ヲ行フヲ拒ムコトヲ得ス

第四十六條 公ケノ諸世話人ハ左ノ諸簿冊ヲ設ケ置クベシ

第一 法式ヲ用ヰガル一箇ノ簿冊 此簿冊ニハ取引ノ際職務上ニ於テ取扱フタル諸事ノ主意ト要件トヲ鉛筆或ハ墨ヲ以テ略記シ且直ニ其寫ヲ取引ヲナシタル双方ノ者ニ渡スヘシ

第二 第十八條ノ定規ニ循ヒ捺印手署并ニ番號ヲ附シタル一箇ノ簿冊 此簿冊ニハ空行ナク欄外ノ記入ナク畧語ナク數字ヲ用ヰルコトヲ諸賣買諸請合諸取引及其他總テ職務上ニテ取扱ヒタル諸事件ヲ日附ノ順序ニ從ヒ毎日精密ニ記載スベシ。若シ塗抹或ハ書直ヲ要スル所ハ其原字ノ猶讀ムヲ得ベキ様ニ之ヲナスベシ

公ケノ世話人ハ双方ノ契約ヲ已レノ簿冊ニ記入スル所其望ニ從ヒ双方ノ手署シタル契約書ノ寫一通ヲ渡スベシ且双方ノ者其寫ノ相違ナキヲ認ムル所ハ手署ヲ以テ其寫ヲ造メ

シムルヲ得ベシ此場合ニ於テ公ケノ世話人ハ又其手署ヲ造ムヘシ

第四十七條 裁判所ハ公ケノ世話人ヨリ契約者双方ニ渡シタル写ヲ其原書ト對較シ詳解ヲ得ルタメ其世話人ニ簿冊ヲ差出スベキコトヲ命スルヲ得

第四十八條 公ケノ世話人ヨリ渡シタル寫ノ契約者双方ノ手署アルモノニシテ公ケノ世話人其手署ヲ認メタルニ於テハ裁判上完全ノ証拠トナルヘシ

第四十九條 若シ相手方ノ者取引ノ成立ヲ全ク認メザルニ非ズルニ於テハ公ケノ世話人ノ簿冊ハ其取引ノ要件ニ付其双方ノ間ニ証拠トナスヲ得

第四十六條ノ定規ニ循ヒ世話人ヨリ契約者ニ渡シタル寫及覽書ハ其契約者ノ手署ナキモ裁判所ニ於テ之ヲ參考ニ供ス

ルヲ得

第五十條 手形賣買世話人ハ為替手形切手及其他取引上ノ諸手形ニ記セル最終ノ手署ノ正當ナルコトニ付民法上ノ責任ヲ負フベキモノトス

第五十一條 公ケノ世話人一方ノ者ヨリ依託ヲ受ケ契約ヲ結ブニハ前以テ其者ニ他ノ相手方ノ姓名ヲ通知スヘシ但一方ノ者ヨリ取引スベキ物件及其代價ノコトヲ全ク委任シタルモハ此限ニ非ズ

第五十二條 手形賣買世話人ハ其職務ヲ以テ取引シタル諸事件ヲ毎日商人集會場ニ報告スベシ

其他ノ公ケノ世話人ハ職務上ニ取扱フタル諸事件ヲ一週間毎ニ一度商人集會場ニ報告スベシ若シ商人集會場ナキ場所ニ於テハ邑ノ事務局或ハ商事會議局ヨリ規則ヲ以テ指定シ

タル役所ニ其規則ニ定メタル法式ト期日トニ循ヒ其報告ヲ
 ナスヘシ
 公ケノ手形及ヒ条ノ取引其代價五千リール以上ナルハ及其
 他ノ商品ノ取引其代價千リール以上ナルハ必ス其報告ヲ
 ナスヲ要ス
 商事會議局及邑ノ事務局ハ種物及其他耕作物取扱ヒ世証人
 ニハ一千リール以下ノ取引ト虽モ報告ノ部ニ加フベキトヲ
 命スルヲ得
 商事會議局邑ノ事務局及勘定整理局ハ公ケノ世証人ノ其報
 告ヲナシタルカヲ族視スルタノ其簿冊ヲ差出サシムルノ權
 アリ
 第五十三條 公ケノ世証人ハ何レノ場合ト如何ナル名義トヲ
 問ハス已レノタメ商業或ハ銀行ノ業ヲナスヲ得ス

自己ノ名前ナルト他人ノ名前ナルトヲ問ハス商業ノ目論見
 ニ於テモ亦決シテ加入スルヲ得ズ
 其依託人ノタメニ拂金ヲ受取り又其拂方ヲ為スヲ得ス
 散ヲナスベキノ明ニ知レタル人ニ屬スル諸商品ヲ賣リ
 或ハ為替手形切手又ハ其他ノ手形ヲ取引スルヲ得ス
 第五十四條 公ケノ世証人ハ職務上ニ於テナシタル契約ノ執
 行ヲ保証スルヲ得ズ
 第五十五條 會社ヲ結ビ公ケノ世証人ノ職務ヲ行フヲ禁ス
 其會社ハ無効ノモノトス
 然レモ其職務ヲ行フタメ特別會社ヲ結ブヲ得但シ此場合
 ニ於テハ其會社ノ公ケナルト其負數三人ヲ過キザルト
 何レノ場合ヲ問ハス他人ノ之ニ代リテ事ヲ行フナキトヲ
 要ス

但し此定規ハ父子兄弟ノ間ニ結ヒタル會社ニ適用スルヲ得
不

第五十六條 手形賣買世話人ハ其手代或ハ如何ナル名義ヲ以
テ設ケタル代理人タルヲ問ハス已レノ職務ヲ行ハシムル
ヲ得ス

然レ氏商人集會場外ニ於テ其分限ニ関セザル事柄ニ付テハ
他人ヲ用井ルヲ得

第五十七條 公ケノ世話人ハ其職務ヲ行フタルニ付謝金定則
表ニ定メタル謝料ヲ求ムルノ權ヲ有ス

謝金定則表ハ商事會議局若シ其局ナキ場所ニ於テハ邑ノ事
務局之ヲ制定シ農商事務長官之ヲ認ムベシ但シ勸定整理局
アルキハ之ヲ制定スル前ニ其見込ヲ聞クベシ

此定則表ハ第四十四條貼付ノ場所ニ於テ公ケノ世話人表ノ

傍ラニ之ヲ貼付シ置クベシ

第五十八條 公ケノ世話人謝金ノ請求權ハ其取引ノ日ヨリ十
年間ヲ過クレハ消滅スルモノトス

然レ氏負債ノ認メ証書或ハ取消シニ至ラザル訴訟アルキハ
其經時効ノ時間ハ中止スベシ

第五十九條 公ケノ世話人規則或ハ法律ニ定メタル保証金ヲ
納メズ或ハ之ヲ補ハズシテ職務ヲ行フキハ百リ以上ニ
百五十リ以下ノ罰金ヲ科セラルベシ再犯ノキハ其罰
金ヲ二倍スベシ

第四十六條第五十一條第五十二條及第五十六條ニ背クキハ
二百五十リ以上五百リ以下ノ罰金ヲ科セラルベシ
但虚妄ノ報告ヲナシタルニ付刑法ニ於テ定メタル罰ト相觸
ル、勿レ〇再犯ノキハ其罰金ヲ二倍スベシ

第五十五条ノ定規ニ違背スルハ三ヶ月ヨリ六ヶ月迄ノ停職ニ處セラレ再犯ノハ免職ニ處セラレハシ
其他別段罰ヲ定メザル違則ニ付テハ三ヶ月ノ罰金ヲ科セラレバシ

第六十条 刑法第四十二條ニ記シタル場合ニ於テハ公ケノ世話人ハ必ス停職ノ附加刑ヲ科セラレベク再犯ノハ必ス免職ニ處セラレハシ

第六十一条 公ケノ世話人共職ヲ免セラレタルハ其免職ノ日ヨリ三ヶ年ノ後ニ非ザレバ再ヒ其職ニ復スルヲ得ス

第六十二条 罰金停職及免職ハ民事裁判所ニ於テ言渡サルベシ
商事會議局及邑ノ事務局ハ違則ノ者アルヲ知リタルハ按事ニ其旨ヲ通知スヘシ

又公ケノ世話人ノ勘定整理局ハ違則ノ者アルヲ知ルハ商事會議局及邑ノ事務局ニ通知スヘシ

第六十三条 公ケノ世話人分散ヲナシタルハ引續キ其職務ヲ行フヲ禁ス但シ第七百條ニ於テ定メタル場合ハ此限ニ非ズ

第六十四条 公ケノ世話人若シ免職或ハ停職ヲ言渡サレタル後尚引續キ其職ヲ行フハ刑法第三十二條ニ依リ罰セラレベシ

第六十五条 公ケノ世話人職ヲ免セラレタルハ公ケノ世話人表中ノ姓名ヲ除去スヘシ

又停職サレタルハ其表中姓名ノ傍ニ其旨ヲ貼付スヘシ
第六十六条 公ケノ世話人ニアラザル商業世話人ハ公ケノ世話人ノ業ヲ為スノ權ナシ又囑托人ト其囑托ノ事柄ニ付別段

ノ約定ナキハ其費シタル時間ニ應スルノ外謝金ヲ求ル訴
ヲ為スノ權ナシ

此謝金ノ請求權ハ其取引ノ日ヨリ二年ヲ過クルキハ消滅ス
ベシ

然レモ第五十八條ノ場合ニ於テハ此經時効ノ時間ヲ中止セ
ラルヘシ

第六十七條 公ケノ手形ノ所有權ヲ他ニ移ス₁及其取引ニ関
スル總テノ事ニ付テハ別段ニ定メタル規則ト法律トニ循フ
ベシ

第四卷 商業取扱人ノ₁

第一章 一般仲買人ノ₁

第六十八條 仲買人トハ他人ノ依托ニ因リ謝金ヲ受ケ自己ノ
名前又ハ會社ノ名前ヲ以テ商業ヲナス者ヲ云フ

第六十九條 仲買人ハ依托者ノ姓名ヲ其取引ヲナス相手方ニ
通知スルヲ要セズ

仲買人ハ其取引ヲナス者ニ對シ已ニ屬スル取引ノ如ク直接
其義務ヲ負擔スベシ

第七十條 本主仲買人ニ依ハ仲買人ト契約シタル者ニ對シ決
シテ訴ヲナス可ラス仲買人ト契約シタル者モ亦本主ニ對シ
訴ヲナス可ラス

第七十一條 仲買人ハ本主ノ姓名ニテ事ヲ行フト雖モ其他人
ニ對スル權利義務ハ民法委任ノ定規ニ循フヘシ

第七十二條 仲買人委任ヲ承諾セザルハ其承諾セザル由ヲ
至急ニ本主ニ告ケザル可ラス然レモ其不承諾ニ拘ハラズ本
主若シ商品又ハ手形ヲ差送リタルハ仲買人ハ本主ノ其商
品又ハ手形ニ付處置ヲナス迄ハ之ヲ確カナル場所ニ置キ之

ヲ保全スルニ注意ス可シ但シ其費用ハ本主ノ擔當スヘキモノトス

第七十三條 本主ヨリ商品ノ差送リヲ受ケ又ハ受クベキコトヲ約シタル仲買人ハ本主ノタメニ立替ヘタル金高、入費高、利足金及口銭ヲ請求スルニ商品ノ代金ニ付債主ノ特権ヲ有ス可シ但シ此特権ヲ有スルハ仲買人其商品ヲ已レノ倉庫又ハ公ケノ倉庫ニ入レ置キタル時ニ限ル可シ又其商品未タ到着セスニ仲買人ハ積荷目録又ハ運送狀ヲ以テ既ニ其差送リニナリタルコトヲ証スルヲ得ヘシ

債主ノ特権ハ亦本主ヨリ委託シタル金高ニモ及ホス可シ但シ仲買人其本主ニ渡スベキ商品ヲ所持セル時ニ限ルベシ
第七十四條 本主ノタメニ商品ヲ買フタル仲買人ハ其拂フタル金高又ハ拂フベキ金高ニ付キ亦前条ノ債主ノ権ヲ有ス可シ

但シ此権ヲ有スルハ其買入レタル商品ヲ已レノ倉庫又ハ公ケノ倉庫ニ入レ置キタル時或ハ未タ其倉庫ニ著セスト雖
且仲買人ニ於テ其商品ヲ既ニ差送リタルコトヲ積荷目録又ハ運送人ノ受取書ヲ以テ証スル時ニ限ル可シ

第七十五條 仲買人本主ノタメニ商品ヲ買入レ又ハ之ヲ賣出フタル時ハ已レノ立替ヘタル金高、利足金、雜費高及口銭ニ付キ本主ニ對スル他ノ債主ニ先テ其商品ノ代金ヲ以テ已レノ貸高ノ償ヲ得可シ

第七十六條 仲買人已レト同住地ノ人ヨリ商品ヲ預リタル時其商品ニ付キ立替ヘタル金高、拂金高及貸金高ニ係リテ具有スヘキ債主ノ特権ハ民法^ガ質物ノ定規ニ循フベシ

第二章 水陸運送取扱人ノ事

第七十七條 水陸運送取扱人ハ商品ノ種類及分量ヲ日用簿冊

記入シ又必用ナリトスル時ハ商品ノ價ヲモ亦記ス可シ
第七十八條 水陸運送取扱人ハ運送状ニ定メタル期限内ニ商
品ノ到着セザル責ニ任スベシ但シ抗拒ス可ラザル力ニ因リ
其到着ノ遅延シタル確証アルハ格別ナリトス
水陸運送取扱人ハ商品ノ破損減尽シタルハ其責ニ任ス可シ
但シ之ニ及スル契約アルハ又ハ抗拒ス可ラザル力ニ因リ又
ハ商貨品ノ質不良ナルニ因リ其破損減尽シタルハ格別ナ
リトス
水陸運送取扱人ハ已レヨリ商品ヲ差送りタル他ノ取扱人ノ
所為ヲ擔當ス可シ

第七十九條 賣主又ハ差送人ノ倉庫中ヨリ既ニ運出シタル商
品ハ別段ノ契約アルニ非レバ其運送ノ途中買主ノ引受タル
可シト虽其破損減尽シタルハ買主ヨリ取扱人又ハ運送

人ニ對シテ訴ヲナスコトヲ得可シ

第八十條 運送状ハ商品差送人運送人双方ノ間又ハ差送人取
扱人運送人三方ノ間ニ契約ノ証トナル可シ

第八十一條 運送状ニハ日付并ニ左ノ件々ヲ記スベシ

運送スベキ商品ノ種類、量目、尺度

運送ノ期限

水陸運送取扱人ノ介入アル時ハ其取扱人ノ姓名住所

商品ヲ受取ルベキ者ノ姓名住所

但シ裏書ヲ以テ之ヲ他人ニ譲ルコトヲ得ベキ運送状又ハ

何人ノ所持スルヲ問ハズ之ニ宛テ商品ヲ送ルコトヲ得ベ

キ運送状ノ写トニ別ナシ

運送人ノ姓名住所

運賃

遅延シタル時ノ償ハ高

運送状ニハ商品ノ差送人又ハ取扱人姓名ヲ手署ス可シ
運送状ノ欄外ニハ運送スヘキ商品ノ記号及番号ヲ附記ス
可シ

取扱人ハ毎葉番号ヲ附シテ手署シタル簿冊ヲ設ケ置キ空
行刺白ナク運送状ヲ写シ留ム可シ

第三章 運送人ノ事

第百三條

第百三條 運送人ハ其運送スル物件ノ滅尽及破損シタル時

ハ其責ニ任ス可シ但シ抗拒ス可ラザル力ニ因リ又ハ物件ノ
質不良ナルニ因リテ滅尽及破損シタル場合ハ格別ナリトス

第百四條

第百四條 運送人若シ抗拒ス可ラザル力ニ因リ契約ノ期限

内ニ運送ヲナス能ハザルハ遅延ノ償ヲ出スニ及ハス

第百五條

第百五條 運送品ヲ受取ルベキ者其運送品ヲ受取リ且其運

賃ヲ拂フタル上ハ運送人ニ對シテ訴ヲ為スコトヲ得ス

第百六條

第百六條 運送品ヲ受取ルベキ者之ヲ受取ルコトヲ肯セズ又

ハ之ヲ受取ルニ付キ争ノ生マルハ鑑定人ヲシテ其運送品
ノ模様ヲ檢視セシムベキ旨ヲ商事裁判所ノ上席人又ハ

プロレテールニ願フベシ

其上席人又ハプロレテールハ其願書ノ末ニ其願ヲ允許スル旨
ヲ記シテ其審定人ヲ任シ其鑑定人ハ其運送品ノ模様ヲ檢視
シテ之ヲ証ス可シ

又上席人或ハプロレテールハ争ヲ生シタル運送品ヲ先ツ人ニ
預ケ置キ次ニ公ケノ倉庫ニ入ルベキヲ命スルヲ得ベシ

上席人又ハプロレテールハ運賃高運送中仕拂ヒタル雜費并ニ
鑑定人ノ証シタル運送品保存ノタメニ要シタル入費ノ高ニ
充ル迄運送人ノタメ其運送品ヲ賣拂フヘキコトヲ命スルヲ得

第百七条
トス
第百七条 此条ニ記スル所ノ規則ハ船主及運送車ノ持主ニ
モ亦之ヲ通シ用井ベシ

第百八条 商品ノ滅尽破損シタルニ因リ仲買人及運送人ニ
對シナスベキ許ハ伊太利國內ノ運送ニ付テハ六ヶ月ヲ以テ
經時効ノ期限トシ外國ノ運送ニ付テハ一年ヲ以テ其期限
トス但シ此等ノ期限ハ商品ノ滅尽シタル并ハ其引渡シヲナ
スベキ日ヨリ之ヲ算ヘ又其破損シタル并ハ之ヲ引渡シタル
日ヨリ之ヲ算フ可シ但シ取扱人又ハ運送人ニ詐偽不正アル
場合ハ此例ニ非ス

第五卷 商事上ノ契約ノ事

第八十九條 凡ソ商事上ノ契約ハ法律ト其商賣ノ習慣ト民法

トニ依リテ之ヲ定ム可シ

第九十條 商事上ノ義務ニ付テハ總テノ連借者ハ連帶シテ義
務ヲ行フベキ者ト思量セラル可シ但シ之ニ及スルノ契約アル
并ハ格別ナリトス

又商人ニ非ル者ト雖モ商事上ノ義務ヲ保証スル并ハ亦前項
ノ規則ニ循フベシ

第九十一條 契約若シ一方ニ在テ商事上ノ契約トナリ他ノ一
方ニ在テ商事上ノ契約トナラザル并ハ其契約ヨリ生スルノ
義務ハ契約者ノ身分ニ從ヒ商法又ハ民法ニ循フ可シ

然レモ若シ其書類ヲ以テ証スベキ義務ナル并ハ民法ノ定規
ニ循フニ非レバ其書類ハ受取又ハ引渡ノ証據トナスコトヲ得
ス

第九十二條 商事上ノ契約ハ左ノ件々ニ依ルベシ

公ケノ証書

私ノ証書

第四十六條ニ掲ケタル法式ニ從ヒ契約者双方ノ手署セル

公ケノ世話人ノ覺書

契約者双方ノ認メタル目錄

往復書

此編第二卷ノ定規ニ循ヒ記載セル双方ノ帳簿

此編第三卷ノ定規ニ循ヒ記載セル公ケノ世話人ノ帳簿

裁判所ニ於テ許スベシト思考スル場合ニ於テハ証人ノ証

據

其他民法ニ於テ許ス所ノ總テノ方法

第九十三條 商法ニ於テ契約ノ必ズ証書ヲ要スベキハ其証

書ナキニ於テハ契約ハ成立サルモノト見做ス可シ

商法ニ於テ契約ニ証書ノ證ヲ必要セザルハ民法中証據ノ

規則ニ循フ可シ但シ商法ニ於テ此事ニ付キ別段ノ定規ヲ設

クル場合ハ格別ナリトス

第九十四條 他人ニ對シ總テ商事上ノ契約ノ日附ハ民法ニ記

スル証據法ノ外第九十二條ニ定メタル規則ニ循ヒ之ヲ証ス

ルヲ得ベシ

然レモ爲替手形切手等ノ日附及其裏書ノ日附ハ之ニ反對ノ

証アル迄ハ之ヲ真正ノモノト見做ス可シ

第六卷 賣買ノ事

第九十五條 高賣上ニ於テハ他人ニ屬スル物品ヲ賣拂フト虽

モ無効ト爲スベカラズ賣主ハ買主ニ對シ其物品ヲ引渡スノ

義務アリ若シ之ヲ引渡サザルハ其損害ノ如何ナルヲ問ハ

之ヲ償フベシ

第九十六條 契約書ニ物品ノ價直ヲ定メザル賣買ナルハ契約者双方賣買ノ後ニ至リ或ル方法ヲ以テ其代價ヲ定ムヘキヲ約束シタルハ其効アリトス
賣買ノ時ニ定メタル物品ノ價ハ其取引ヲ終ル迄變易スベカラザルモノトス其價ハ該時相當ノ相場ヲ以テ定メタルモノト看做ス可シ

此場合ニ於テ物品ノ價直ハ其時ノ相場又ハ商人集會場ノ物價表ヲ以テ之ヲ証ス可シ時ノ相場又ハ物價表ナキニ於テハ見積價ヲ以テ之ヲ証ス可シ

若シ仲裁人ニ依リテ其價直ヲ定メントスルニ當リ其撰挙ノ
トニ付キ契約者双方ノ協議調ハザルハ裁判所ヨリ之ヲ撰
舉スベシ

第九十七條 若シ契約書ニ賣リタル物品ノ渡方ニ付テノ期限ヲ記載シ代價拂方ニ付テハ別ニ期限ヲ定メザルハ契約ヲ執行セント欲スル一方ヨリ他ノ一方ニ對シ物品渡方ノ期限内ニ物品又ハ代價ヲ提供スヘシ此場合ニ於テ若シ一方ニ於テ義務ヲ行ハザルハ義務ヲ行フタル一方ハ損害ノ償ヲ求ムルノ權アリ

物品又ハ代價ヲ提供セザルニ於テハ其契約ハ明許又ハ黙許ノ義務ヲ解除スベキ未必ノ條件トシテ之ヲ取消スルヲ得
第九十八條 商品ヲ賣リタルニ賣買契約書中ニハ其物品ヲ証スルニ唯其高種類品等ノミヲ記シタルハ、
失シタル方又ハ他ノ原由ニ因リ之ヲ送ラズ又ハ之ヲ送りテ買主ノ方ニ到着セザリシ時ハ賣主ニ於テ其契約シタル高種類品等ノ商品ヲ必ス其契約ノ期限及契約ノ場所ニ於テ買主

ニ渡サトルヲ得ズ

第九十九條 船舶ヲ指定シテ運送シ已ニ航海中ニアル商品又ハ船舶ヲ指定シテ運送スベキ商品ヲ賣リタルハ定示セル船舶ノ無難ニ到着スル時トノ意ハ契約中自ラ之ヲ包含セシモノトス

賣買契約ノ後ニ於テ賣主已ニ商品ヲ運送シタル船舶又ハ運送セントスル船舶ヲ賣買契約ノ後ニ於テ指示スヘキ場合ニ於テ未タ之ヲ指示セザル間ハ賣買ノ契約ハ不完全ノモノトス若シ又之ヲ指示スベキ期限ヲ定メテ指示スルヲナク其期限ヲ經過スルハ契約ハ成立タザルモノト看做ス可シ此ニ場合ニ於テハ買主ハ賣主ニ對シ損害ノ償ヲ求ムルノ權ナシ但シ損害ヲ償フノ契約アルハ格別ナリトス

第百條 航海中ニアル商品ノ賣買ニ付キ船舶到着期限ヲ契約

書中ニ定メアルカ又ハ後ニ於テ之ヲ定メアルハ其期限ヲ過キ船舶ノ到着セザルハ其契約ヲ拋棄スルカ又ハ更ニ到着ノ猶豫ヲ許スカハ買主ノ隨意ナリトス

第百一條 船舶到着ノ事ニ付キ別ニ期限ヲ定メザルハ航海ヲ了ルニ必要ノ期限ハ自ラ黙許セルモノトス 船舶ノ到着遅延スルハ裁判所ニ於テハ其情状ニ從テ猶豫ノ期限ヲ定ムルヲ得ベシ此期限ヲ過キテ船舶猶到着セザルハ契約ハ取消サレタルモノト見做ス可シ

裁判所ニ於テ猶豫期限ヲ定ムルハ如何ナル場合ニ於テモ運送船舶ノ其商品ヲ積込ミタル場所ヲ奪セシヨリ一年以上ニ踰ルヲ得可ラス

第百二條 指示シタル船舶ニテ商品ヲ運送スルノ際抗拒ス可ラザルカニ因リ更ニ他ノ船舶ニ積換ヘ運送シタルハ其契

約ハ効アルモノトシ其船舶ハ初メ指示セシ船舶ト看做シ之ヲ其契約ヨリ生スル總テノ事件ニ關係セシムベシ

第百三條 商品若シ運送中ニ毀損シ使用ノ目的ニ應スル能ハザルニ至ルハ契約ハ効ナシトス

其毀損猶ホ目的ニ應ズルニ堪ユベキハ買主ハ其商品ヲ到着シタル時ノ有様ノ終ニテ受取ラザル可ラス但シ其代價ハ毀損ノ景状ニ準シテ之ヲ減ス

第百四條 商品ノ性質不良アルニ付キ買主ヨリ賣買契約取消ノ訴ヲナサントスルハ民法第千五百五條ニ定メタル期限内ニ之ヲナサザル可カラス

訴訟期限ノ然リタル後ニ運送シ来リタル商品ニ付テハ此法第百五十二條ノ規則ニ循ヒ運送ノ里程ニ準シテ其訴訟期限ヲ延ス可シ

商品ノ性質ノ知リ難キ不良ヲ証スルハ其商品ヲ受取ルベキ地方ニ現行ノ法律ニ許ス所ノ方法ヲ以テス可シ

第百五條 他所ヨリ到着シタル商品ノ不良ナルニ因リ買主之ヲ受取ルヲ拒ミシニ賣主又ハ運送人買主ノ住スル場所ニ在ラザルハ商法裁判所ノ上席人又ハ「ブレ」ルハ買主ノ願ニ依リ公務ヲ以テ任シタル一名又ハ數名ノ鑑定人ヲシテ其商品ノ現ノ有様ヲ証セシメ之ヲ評價スベキヲ言渡タスヲ得ベシ

鑑定人ヲ任スル決議書中ニハ其商品ヲ先ツ他人ニ托附シ其後之ヲ公ケノ倉庫ニ入置タベキヲモ附記スベシ

若シ其商品ニ容易ナラサル毀損アラントスルハ商法裁判所ノ上席人又ハ「ブレ」ルハ賣主ノ方法并ニ其條件ヲ定メ荷主ノ利益ノタメニ之ヲ賣拂フベキヲ言渡スヲ得ベシ

第七卷 商業會社及商業仲間ノ事

第百六條 法律ニ於テ認タル所ノ商業會社ノ種類ニアリ

合名會社

通常差金又ハ株數差金會社

無名會社

其他法律ニ於テ認タルモノニ種アリ

共立仲間

共立仲間

第百七條 前條第一ノ三種ノ會社ハ他人ニ對シテハ一己人ト

社ト區別シテ成立ツモノトス

第一章 商業會社ノ事

第一款 惣規則

第百八條 會社ノ本店ハ會社ヲ結成スル證書ヲ以テ之ヲ定ム

ハシ

會社ハ數箇ノ館令ヲ有スルヲ得ヘシ契約書中ニ其諸館令ノ中孰レヲ本店トスルヤヲ定メザルハ其中心家モ主タルモノヲ以テ本店ト看做スヘシ

第百九條 既ニ結成シタル會社ニ加リ社負トナル者ハ已レノ

入社以前其會社ニ於テ取結ビタル總テノ義務ニ付テ他ノ社負ト同一ノ方法ニ循ヒ其責ニ任ス可シ仮令社名變更ノ後又リト虽モ其以前ノ義務ニ於ル亦同一ナリトス

若シ之ニ及シタル契約アルハ他人ニ對シテ無効ナリトス

第百十條 社負ノ一己ニ係ル債主ハ會社成立ノ間ハ其會社ノ平均表ニ從ヒ其社負ノ得ベキ利益高ニ就テノニ其權利ヲ行フヲ得ベシ又會社廢止ノ場合ニ於テハ其債主ハ會社ノ資本ノ中ニ就テ其社負ノ得ベキ金額ニ付テノニ其權利ヲ行フ

フヲ得ベシ
第百十一条 社負一己ニテ他ト仲間ヲ結ビタルハ仲間ノ者
ハ之ニ對シ其仲間ノ損益ヲ共分スルノミニシテ會社ト裁判
子ノ關係ヲ有セザルモノトス

第二款 合名會社ノ事

第百十二条 合名會社トハ二人以上ニテ契約ヲ結ビ共會社ノ
名前ヲ以テ商業ヲ為スヲ目的トスルモノヲ云フ

第百十三条 社中ノ者ノ名前ニ非レバ會社ノ名前ト為ス可ラ
ス

第百十四條 合名會社々中ノ一名其會社ノ名前ヲ以テ契約ヲ
為シタルハ、虽モ各社負ハ連帶シテ總テノ義務ヲ擔當スヘ
シ

結社契約書ヲ以テ社中ノ一人或ハ數人會社ノ名義ニテ他ト

契約ヲ結ブヲ許スハ其人ノ記名シタル契約ハ社中ノ各
人之ヲ擔當ス可シ

會社ノ手代ハ會社ノ利益中ヨリ給料ヲ得ル者ト虽モ其社ノ
事業ヨリ生スル總テノ結果ニ付テハ之ヲ社中ノ者ト看做ス
ヲ得ス

第百十五條 合名會社ノ社負ハ社中ノ承諾ヲ受ケズレテ他ノ
會社ニ加入スルヲ得ス

若シ社負其合名會社設立契約ノ日ヨリ前既ニ他ノ會社ニ加
入シタル旨ヲ合名會社ニ告知シ社中ニ於テ明ニ其加入ヲ止
メザルハ其承諾ヲ得タルモノト看做スベシ

第百十六條 社負ハ會社ト目的ヲ同クスルノ商業ヲ自己ノ算
計ノタメ又ハ他人ノタメニ行フヲ得ス

第百十七條 社負前二條ノ規則ニ戻ルハ會社共行フタル商

業ヲ會社ノ利益ノタメニ為シタルモノト看做シ之ヲ會社ニ引受ケ保続シ又ハ之カ為メニ會社ニ損害ヲ生シタル并ハ會社ハ其社負ニ償ヲ求ムルノ權アリ
此權ハ會社ニ於テ社負ノ高業ヲ行フタルコトヲ承知シタル日ヨリ三ヶ月後ニ至レハ之ヲ行フコトヲ得ズ但シ第百二十四條ニ記載スル所ハ格別ナリトス

第三款 通常差金會社ノ事

第百十八條 差金會社トハ諸般ノ義務ヲ擔當スヘキ一人又ハ之ヲ連帶シテ擔當スベキ數人ト元金ヲ差加フル一人又ハ數人ト互ニ取結ビタル會社ヲ云フ

此會社ノ事終ハ會社ノ名前ニテ支配スベシ會社ノ名前ニハ必ス義務ヲ擔當スル者ノ姓名ヲ用井ベシ

第百十九條 連帶シテ義務ヲ擔當スベキ者數人アリ并ハ其數

人皆會社ノ事務ヲ支配スルト其中ノ一人之ヲ支配スルコト問ハズ此等ノ者ニ付テハ合名會社トシ金高ヲ差加ヘタル者ニ付テハ差金會社トス

第百十五條 第百十六條 第百十七條ノ定規ハ一人ニテ義務ヲ擔當スベキ者ト數人連帶シテ義務ヲ擔當スベキ者トヲ問ハズ等シク之ヲ適用スベシ

第百二十條 金主ノ姓名ハ會社ノ名前ニ加ルコトヲ得ス

第百二十一條 會社ノ為メ發許ノ損失アリトモ金主ハ其差加ヘタル又ハ差加フベキ金高ニ至ル迄ノ外其損失ヲ擔當スルコト及バス

金主ニ結社証書ヲ以テ約定シタル利足ヲ拂ヒ又ハ利益高ノ幾分ヲ拂フタル并商業ノ結果ニ依リ其拂ノ正當ナルコトヲ平均表ヲ以テ示ス并ハ金主ニ於テ其受取タル利足及利益ノ割

高ヲ返還スルニ及バス
若シ損失ニ因リ資金ノ減少シタルハ利益高ヲ以テ他ノ仕
拂ヲナシ又ハ利益ノ配當ヲ為ス前ニ先ツ其資金ノ減額ヲ復
スベシ

第百二十二條 金主ハ社中ノ者ノ為メ會社ノ事務ヲ支配スベ
キ又ハ會社ノ事務ヲ取扱フベキ名代ノ任ヲ受ケタル時ト虽
モ決シテ之ヲ支配シ又ハ取扱フ可ラス

前項ノ禁ハ會社ノ算計ノタメ會社ノ金主ト結ヒタル契約又
ハ金主共金主タルノ関係外ノトニテ會社ニ對シ結ヒタル契
約上ニハ之ヲ及ボサズ

第百二十三條 金主若シ前條ノ禁ヲ犯スハ合名社中ノ者連
帶シテ義務者ト共ニ會社ノ總テノ義務ヲ連帶シテ擔當ス可
シ

第四款 合名會社及通常ノ差金會社ニ通シ用キベキ
規則

第百二十四條 左ノ社負ハ除名スルコトヲ得ベシ

會社ノ支配人自己ノ利益ノタメ會社ノ名前又ハ會社ノ資
金ヲ用井ルハ

支配人會社ノ事務ヲ支配スルコトニ付又ハ勘定上ニ付詐偽
ヲ行フタルハ

支配人再ヒ出頭スルノ意ナク或ハ因由ヲ言ハスシテ會社
ニ不參スルハ

社員結社契約証書ニ於テ會社ノ事務ヲ支配スルノ權利ヲ
有セザルモノ事務ヲ為シタルハ

社負會社ノ資金中ニ已レノ部分ノ入金ヲ為サ、ルハ
社負家資分散シタルハ

社員會社ノ義務ニ付キ容易ナラザル結果ヲ起シタルハ
除名セラレタル社員ハ除名ノ故ヲ以テ已レノ作シタル一社
ノ損害ノ償ヲ免カルベカラス

第百二十五條 社員ノ除名ヲ為ストモ會社ハ解散スルニ及ハ
サルモノトス

除名サレシ社員ハ其除名ノ日迄ニ生シタル會社ノ損失ヲ擔
當スヘシ又會社ハ其平均表ヲ造リ畢ル迄ハ除名ノ社員ニ屬
スヘキ利益ヲ差留メ置クコトヲ得ベシ

又除名ノ社員ハ法律ニ於テ定メタル式ノ如ク會社ノ約定書
或ハ除名ニ付テノ裁判言渡書ヲ登記役所ニ登記シ且ツ之ヲ
廣告スル日迄ハ他人ニ對シ會社ノ義務ヲ負フベシ

第五款 株式會社ノ事

第百二十六條 株式會社ノ元金ハ記名ノ株式數アトクテヨクノ又

ハ無記名ノ株式數アトクテヨクノ又ニ分ツコトヲ得ベシ

然レモ此會社ハ等シク第百十八條第百十九條及第百二十條
ノ定規ニ循フベキモノトス

第百二十七條 會社ノ支配人ハ株主ノ總會議ニ依テ其職ヲ罷
メラルコトヲ得ベシ

然レモ正當ノ理由ナクシテ罷メラレタルハ支配人ハ之カ
為メ償金ヲ求ムルノ權ヲ有スベシ

第百二十八條 會社ノ規則ニ依テ株主及株主ノ總會議ノ權ヲ
行フハ第百二十三條ニ定メタル連帶ノ義務ヲ生スルコトアル
ベカラズ

株主ヲシテ會社ノ事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得ベシト雖モ之ニ
手署ヲ為スノ權并ニ代理ノ權ヲ與フルルコトヲ得ス

第六款 無名會社ノ事

第百二十九條 無名會社トハ元金ヲ集合メ組立テ社中ノ者ノ名前ヲ會社ノ名前トセズ其目的ノ事業ヲ以テ名前ト為スモノヲ云フ

此會社ハ社負タルト否トヲ問ハズ又給料ノ有無ヲ論セス受任ノ定期アル名代人ニテ其事務ヲ支配スベシ

第百三十條 支配人タル名代人ハ其支配スル所ノ事務ニ付會社ニ負フタル義務ヲ一身ニ擔當スルニ及ハス

然レモ委任ヲ受タル條件ノ執行及法ニ於テ別段定メタル事件ニ付テハ擔當スベシ

第百三十一條 無名會社ノ元金ハ之ヲ株數ニ分ツベシ

第七款 株數差金會社及無名會社ニ通シ用ヰベキ規則
第百三十二條 發起人ハ會社ヲ組立ル為メ已レノ負フタル義務ヲ一身ニ擔當スベシ但シ會社ノ負フタル義務ハ此例ニ非

ス
第百三十三條 會社ニ於テ目的ト為シ企テタル商業ニ関セザル動産不動産ハ會社ノ資本中ニ差シ加フベカラス

第百三十四條 發起人ハ會社ノ組立ニ付キ已レノ利益トシテ勞力金株數ノ歩合金ヲ得ベキ約定ヲ為スヲ得ヌ又如何ナル方法ヲ以テスルヲ問ハズ株數又ハ證券ヲ格別ノ利益トシテ得ベキノ權ヲ豫メ定ムルヲ得ヌ

然レモ一度或ハ數度限リ會社ノ目的ト為ス所ノ事業ヨリ生スル利益ニ付割賦ヲ受クルノ權ヲ約定スルヲ得ベシ此場合ニ於テ發起人ニ其割賦金ヲ渡スハ平均表ヲ造リ社中ノ者

何レモ之ヲ認証シタル後タルベシ且發起人此割賦金ヲ受ルハ第百三十六條中ニ定ムル所ノ總會議ニ於テ豫テ之ヲ認可シタルアルニ非レハ其効ヲシトス

會社組立ニ付現ニ費シタル諸雜用ノ償還金ハ勞力金ト看做スベカラス

第百三十五條 會社ヲ組立ツルニハ元金高ノ五分ノ四ニ充ツル申込人各其中込ノ金高ヲ約定書ニ記入調印シ且少クトモ其記入金額ノ十分ノ一ヲ現金ニテ入金スルヲ必要ナリトス但シ會社創立免許狀ニ依テ別段入金高ヲ増スベキ旨ヲ命シタルハ此例ニ非ス

會社ハ元金ノ全額ノ入金済マサルニ於テハ株數又ハ其他ノ証券ヲ発行シ之ヲ通用セシムルヲ得ス其株數又ハ証券ノ金額ハ現金ニテ入金セシ金高ヲ越ユベカラス

第百三十六條 發起人ハ前數條ニ定ムル所ノ條件ノ如ク手續全ク整備シタル上ハ株主ヲ呼集メ總會議ヲ開キ左ノ手續ヲ為サシムベシ

第一 差入レシ現金高及資本ノ部分トシテ加ヘタル動産及不動産ノ價直ヲ認メ調印ヲ為スベキヲ若シ動産及不動産ノ價直未ク定メナキハ一人又ハ數人ノ鑒定人ヲ命シ其價直ヲ定メシムベキヲ

第二 會社ノ規則未ク確定セザル條件アルハ株主申込ノ旨ニ於テ之ヲ討論決定シテ調印スヘキヲ

第三 無名會社ニシテ申込ノ人負調印ヲ為シタル証書中ニ未ク支配人ノ定メナキハ之ヲ議定スヘキヲ

第百三十七條 株主ノ總會議ニ於テ會社創立ニ付テノ諸件ヲ未ク充分ニ熟知セザル者ハ其旨ヲ述ヘ三日間ノ延會ヲ求ムルヲ得ベシ會議ニ出席シタル者ノ中元金ノ四分ノ一ニ當ル申込人ニテ延會ノ求ヲ承諾シタルハ延會ノ効アリトス若シ三日以上ノ延會ヲ求メタルハ會員ノ多數ニ依テ之

ヲ決定スベシ

第百三十八條 會社ノ規則ニ循ヒ任ゼラレ或ハ總會議ニ於テ
選定サレシ支配人ハ二年間其職ヲ勤ムベシ又毎歲一度事務
ニ付テノ集會議員ノ半數ヲ撰定スベク其議負ハ再ヒ選ニ當
ルコトヲ得ベキモノトス初年ニハ次年ニ於テ退クヘキ議員ノ
半數ヲ定ムベシ

會社ノ「パンキエ」金銀手形取扱人及家屋造營人諸器具ノ請
負人及下請負人ハ會社ノ支配人トナルコトヲ得ス

支配人ハ全社負ノ承諾ヲタケ他人ニ已レノ職務ヲ譲リ或ハ之
ニ一時ノ任ヲ與フルヲ得ス然レモ格別ノ事件ニ付テハ名代
人ヲ任スルコトヲ得ベシ

第百三十九條 支配人ハ左ノ件々ニ付テハ株主及ヒ會社外ノ
人ニ對シ一身ニテ擔當スヘキモノトス

第一 株主ノ加入セシ元金高及株主ヨリ差入シ現金ノ確
實ナルコト

第二 拂渡シタル割賦金ノ確實ナルコト

第三 商業簿冊ノ詳明ニシテ相符スルコト

第四 總テ會社設立ニ付法律ニ於テ定メタル法式ヲ尽ス
ルコト

第百四十條 株主ハ已レノ入金セシ株金高ニ至ルマデニ非レ
ハ損失ヲ受クベカラス

第百四十一條 割賦金ハ現ニ得タル純益金ノミヲ以テ株主ニ
拂渡スコトヲ得ベシ

然レモ會社ノ元金ヲ減額シテ株主ニ利息ヲ拂フコトハ禁スル
所ニ非ズ此場合ニ於テハ會社ノ事業ヲ為ス期限ニ付相當ノ
猶豫ヲ與フベシ但シ此利息ヲ拂フカ為メニ商業上及法律上

ノ利益ヲ害スルハ此限ニアラス
株主ハ既ニ受取リタル息銀及割賦金ハ會社ニ返還スルニ及
バザルモノトス

第百四十二條 支配人元金ノ半額ニマテ減少シタルハ會社
ノ決算ヲ為スニ付株主ノ意見ヲ聞カン為メ之ヲ呼集メ會
議ヲ開カザルベカラズ

會社ノ元金三分ノ一ニ減少シタルハ必ス會社ヲ解散スベ
シ但シ株主ニ於テ之ヲ復興セント欲スルカ若クハ會社ノ目
的ニ差支ナキヲ以テ更ニ其元金ノ残額ヲ資本トシ會社ヲ繼
續セント欲スルハ此限ニ非ス

第百四十三條 會社ノ規則書ニハ株主ヲ呼集メ總會議ヲ開ク
ハ議スヘキ條件其會議ニ緊要タル株主ノ員數及投票ノ方法
ヲ掲載スベシ

第百四十四條 會社ノ元金三分ノ一ニ準スル株主ニ於テ社負
ノ利益上ニ付至急ニ臨時會議ヲ開クトヲ必要ナリト見込ム
ハ其理由ヲ開陳シ之ヲ支配人ニ求ムルコトヲ得ベシ
支配人之ヲ拒ミタル場合ニ於テハ株主ヨリ集會ヲ為マヘキ
ノ言渡ヲ受クベキコトヲ商法裁判所ニ願出ツベシ該裁判所ニ
於テ願意至當ナリト見込ムハ其集會ヲ為スヘキ旨ヲ言渡ス
ヘシ

第百四十五條 總會議ニテ為スヘキ條件ハ必ス議案ニ記載シ
置クヘシ

總會議中ニ記載ナキ條件ニ論及シタル評議ハ効ナシトス
第百四十六條 總會議ニ出席シタル三分ノ一人負ニシテ元金
ノ三分ノ一ニ準スル株主ニ於テ評議スヘキ條件ニ付未タ熟
知セザルコトアルハ當日ヨリ三日間ノ延會ヲ求ムルコトヲ得

ベシ其他ノ株主ハ此延會ノ末メニ付故障ヲ述ルコトヲ得ベカ
ラス

此延會ヲ末ルノ権ハ全事件ニ付一度ヲ限リトス但シ第百三
十六條ニ定ムル會議ノ場合ハ此限ニ非ス

第百四十七條 株主ハ總會議ニ名代人ヲ出スコトヲ得ヘシ
支配人ハ其名代人トナルコトヲ得ス

第百四十八條 支配人ハ左ノ件ニ付テ投票ヲ為スヲ得ス

第一 平均表ニ捺印スルコト

第二 已レノ責任ニ管スル評議

第百四十九條 會社規則ノ制限内ニ於テ為シタル總會議ノ決
議ハ末會セザル株主ト虽氏之ヲ遵守セザルベカラス

第百五十條 記名株主ノ所有權ハ會社ノ簿冊ニ記入シタルニ
依テ之ヲ証ス之ヲ人ニ讓渡スニハ必ス其旨ヲ會社ノ簿冊ニ

記載シ且讓渡人及讓受人ハ本人又ハ名代人ニテ姓名手署ヲ
為スヘシ

無記名株數ヲ讓渡ハ其證券ヲ買主ニ渡スヲ以テ足レリトス
無記名株數ヲ記名株數ト為スコトヲ得バク又記名株數ヲ無記
名株數ト為スコトヲ得ヘシ

第百五十一條 凡ソ記名ノ株數ハ發行ノ際未タ其株主ヨリ全
額ノ入金ヲ為サルニ於テハ之ヲ唯証券トシテ渡スコトヲ得
バク又入金半額ニ至ラサルニ於テハ之ヲ無記名ノ株數ト交
換スルコトヲ得ベカラズ

假リノ証券ハ十分ノ三ノ入金ナキハ商業上ノ手形タル保
証カヲ有セサルモノトス

第百五十二條 株數入金ノ調印ヲ為シタル者ハ假令其株數ヲ
他人ニ讓リ渡シ之ヲ無記名ノ株數ニ變改シ得ヘキヤタリ

其調印シタル金高ニ至ル迄ノ入金ヲ擔當スベシ

第百五十三條 株主假証券或ハ株數ニ付入金ノ不足ヲ補ハザルニ於テハ會社ハ株主ノ損失トシ別段ノ法式ナク手形賣買世話人ヲシテ之ヲ賣拂ハシムルノ權ヲ有スヘシ若シ記名株數ナルハ會社ハ加入者或ハ讓渡人ニ對シ其入金ノ不足高ヲ求ムルノ訴ヲ為スコトヲ得ヘシ

株數ヲ賣拂フニ當リ買主アラザルハ會社ハ入金ヲ其利益ト為シ其株數ノ權利ヲ失ヒシ者トナリシ旨ヲ陳告スルノ權アルベシ

又會社ハ其他義務者タル株主ニ對スルノ權利ヲ有スヘシ

第百五十四條 會社ニ於テ株主株數ノ權利ヲ失フタル旨ヲ陳告スルハ直ニ其旨ヲ番号ト共ニ管轄裁判所々在地ノ裁判上ノ廣告ヲ刊行スル新聞紙ニ載セ又會社ノ支店アル地ニ於

テモ公告スヘシ

第八款 會社ノ約定書ノ法式

第百五十五條 會社ノ約定ハ必ス書面ヲ以テ為スマシ

然レ氏合名會社及通常ノ差金會社ニシテ約定書ナキハタリ氏其會社ハ善意ヲ以テ契約シタル他人ニ對シ其故障ヲ迷ルコトヲ得ス

第百五十六條 株數差金會社及無名會社ハ國王ノ允許ヲ得ズ且ツ會社組立ノ約定書ノ認可ヲ得ザルニ於テハ成立セザルモノトス

第百五十七條 社員ノ間ニ於テハ會社ノ約定書中ニ記載ノ事件ナルト否トヲ問ハス總テ會社ニ関スル爭ニ付テハ証人ヲ以テ証據ト為スコトヲ得ヌ又約定書ヲ記スルハ或ハ其前後ニ言説シタル事件並ニ五百リ以下ノ金額ニ関スル事件ニ

付テモ亦証人ヲ以テ証據ト為スコト得ス

第五百十八條 合名會社及通商差金會社ノ約定書ノ抜抄ハ其日附ヨリ十五日内ニ會社所在地ノ商法裁判所ノ書記局ニ出シ書記局ハ之ヲ別段設ケタル簿冊ニ登記シ且ツ三ヶ月間其裁判所ノ訟庭ニ貼附スヘシ
若シ會社ノ分舖數ヶ所ニアリテ商法裁判所ノ管轄各異ナル
并ハ各裁判所ノ書記局ニ於テ登記及貼付等ノ手續ヲ為スベシ

第五百十九條 抜抄ニハ左ノ件々ヲ記スベシ
金主ニ非ル社員ノ姓名及住所會社ノ名前
會社ノ為メニ事務ヲ支配シ且ツ總テ證書ニ姓名ヲ署名ヲ為スノ權ヲ委任セラレシ社員ノ姓名及住所
差金ニテ入金スベキ或ハ入金シタル金額

會社ノ開業及停業ノ期日

第六十條 株數差金會社及無名會社組立ノ約定書並ニ國王ノ允許狀ハ必ス書記局ニ差出し書記局ハ之ヲ簿冊ニ登記シ且ツ貼付スベシ

第六十一條 合名會社差金會社及株數差金無名會社組立ノ約定書ノ抜抄ハ會社及其分舖アル地ノ裁判上ノ廣告ヲ刊行スル新聞紙ニ載スベシ但シ新聞紙ニ載ルハ其抜抄及前條ニ定ムル所ノ約定書ヲ裁判所ノ書記局ニ差出しタル後一ヶ月内タルヘシ

第六十二條 抜抄ニハ左ノ件々ヲ記スベシ
株數差金會社ナル中ハ支配人ノ姓名會社ノ名前及目的トナス商業ノ種類
無名會社ナルハ會社ノ目的ト為ス商業支配人並ニ手署名

權ヲ委任サレシ者ノ身分及人員

株數差金會社及無名會社トモ其會社ノ資本高申込ノ金高
及已ニ拂込込タルノ金高

記名株數又ハ無記名株數ナルヲ又或ハ株數ヲ区分シテ發
行スル場合ニ於テハ其区分及株數發行ノ順序ニ付テノ要
件

証券發行ノ免許ヲ得タルヲ

會社ノ開業及停業ノ期日

第百六十三條 諸會社ノ會議ノ決議書ハ必ス詳明ニ記シ且ツ
左ニ掲ル所ニ關係スル必要ノ事件ニ付テハ第百五十八條及
第百六十一條ニ循ヒ之ヲ書記局ニ納メ登記及貼付等ノ手續
ヲ以テ公告スヘシ

社負ノ入換リ或ハ退社シ或ハ除名セラレタルヲ

約定ヲ改正セシメ

社名ヲ變換セシメ

元金ヲ減額セシメ

定期前ニ會社ヲ解散スルノ証書

會社組立約定書ニ定メタル營業期限ノ外更ニ延期ヲ為ス
ノ約定書

第百六十四條 前條定ムル所ノ解散ノ場合ニ於テ各社負ハ未
タ其法式ヲ為シ終ラザルモ使吏ノ作ル所ノ解散証書ノ送達
ヲ受ケタル中退社スルヲ得ヘシ
此場合ニ於テハ更ニ公告ヲ得ルノ日迄ハ會社ハ解散セシモ
ノト看做スベシ
若シ以上ニ掲ケル所ノ法式ヲ行ハザリシ中ハ會社外ノ者ニ
對シ故障ヲ述フベカラス

第百六十五條 會社停業期限前ニ解散スルト雖モ會社外ノ者
ノ為ニハ解散證書ノ核抄ヲ裁判所ノ書記官ニ納メ之ヲ簿冊
ニ登記シ且公告ノ手續ヲ為シタル日ヨリ一ヶ月ノ後ニ非レ
ハ解散シタルモノト看做サルベカラス但シ其一ヶ月ノ未タ
終ラザル前ト雖モ社負又ハ他ノ關係者ハ其解散ノ旨ヲ他人
ニ報知セシ證ヲ立ルヲ得ベシ

第九款 會社ノ解散及決算ノ事

第百六十六條 會社ハ左ノ場合ニ於テ解散スルモノトス

- 第一 會社營業ノ期限終リタルキ
- 第二 目的ヲ失シ又ハ之ニ達スル能ハザルキ
- 第三 目的ノ事業成就シタルキ
- 第四 合名會社又ハ通商差金會社ニシテ組立約定書ニ別段ノ契約ナキ場合ニ於テ支配人ノ一人又ハ數人死

去或ハ治産ノ禁ヲ受タルキ

第五 假令和解契約ヲ為スト虽モ既ニ會社ノ分散シタル
キ

第百六十七條 會社ノ解散シタルキハ支配人ハ更ニ會社ノ商
業事務ヲ行フヲ得ス

第百六十八條 結社約定書中ニ決算ノ方法又ハ會社ノ財産分
派ノ方法ヲ定メサルキハ左ノ定規ニ循フヘシ

決算事務掛ノ員數ニ付社負ノ間ニ議論ノ決セザルキハ裁
判所ノ決ヲ仰クベキ

右掛ノ者未タ定マラサル間ハ會社ノ支配人ニテ決算事務
ヲ取扱フベキ

決算掛ヲ命スルノ証書ハ第百五十八條及第百六十一條ニ
循ヒ書記官ニ納メ簿冊ニ登記シ且公告ノ手續ヲ為スヘキ

第百六十九條 決算掛ハ速ニ會社ノ財産高ト負債高トノ慥力ナル平均表ヲ作ルコトニ取掛ルベシ又會社ノ諸簿冊證書及書類ノ預人タルヘシ

又一帳簿ヲ設置キ會社解散ニ関スル一切ノ事件ヲ日附ノ順序ニ從ヒ書留ムヘシ

社員ヨリ求ルルハ決算ノ結局及決算ノ方法ヲ示スベシ且總テ社員ノ通覽シ易キ様日々行フタル始末ヲ記シ置クベシ

第百七十條 決算掛更ニ會社ノ商業ノ取引ヲ為スヲ得ス然レモ其決算ニ関スル取引ハ必ず結局迄引續テ之ヲ為スヘシ

又社員ニ拂フベキ義務アリモ未夕會社ノ債主ニ拂フベキ間ハ之ヲ拂フコトヲ得ス

又決算掛ヲ命スルノ證書又ハ別段ノ證書ニ依テ任ヲ受ケタ

ルニ非レバ裁判所ノ決ヲ仰グベキ争ノ事件ヲ仲裁人ノ判断ニ附スベキノ契約ヲ為シ又ハ詞訟ノ事件ヲ和解スルヲ得ス

第百七十一條 其他名代人ノ事ニ付決算掛ハ民法ニ定メタル成規ニ循フベシ

第十款 連帶ノ義務ヲ免カルノ事
第百七十二條 社員ハ會社ニ於テ營業ノ期限ヲ定メタル約定書又ハ決算ノ證書ヲ第百五十八條及第百六十一條ニ循ヒ書

記弓ニ納メ簿冊ニ登記シ且公告ノ手續ヲ行ヒ別段故障ヲ述ル者ナキモハ決算書ノ日附ヨリ五年後ハ債主ニ對シ連帶ノ

義務ヲ免カレベシ
戰地出張ノ軍人幼者後見ヲ免カレサル間治産ノ禁ヲ受ケン

者ハ連帶ノ義務ヲ免カレヘシ已レノ利益ニ付テハ後見人又ハ管財人ニ對シ訴ヲナスノ權利ヲ失ハガレモノトス

第百七十三條 債主ハ已レノ所有スル株數ニ付其元金ニ應ス
ヘキ分派ヲ受ケザル間ハ決算掛ニ對シ訴ヲ為スノ權ヲ有シ
又已レニ関スル事件ニ付テハ社負ニ對シ人權ノ訴ヲ為ス
ヲ得ベシ

第百七十四條 貸金返済ノ期日會社ノ決算後ニアル年ハ五年
ノ訴訟期限ハ其返済スベキ期日ヨリ起算スヘシ

第百七十五條 社負ハ分散ノ場合ニ於テ連帶ノ義務ヲ免カ
ルヲ得ス

第百七十六條 決算掛已レノ所有金ヲ以テ會社ノ拂ヲ立替ヘ
過剩アル片ト雖モ社負ニ對シテハ債主ニ拂フベキ實額ノ外
其償ヲ求ムルノ訴ヲナスコトヲ得ス

第二章 商業仲間ノ事

第一款 共分仲間ノ事

第百七十七條 共分仲間ハ商人已レノ商業又ハ他ノ商業ヲ一
回或ハ數回ヲ限リ一人或ハ數人ト損益ヲ共分スベキヲ約
束スル仲間ヲ云フ

其仲間ハ商人ニ非ル者ノ商業ニ付テモ為スコトヲ得ベシ

第百七十八條 他人此仲間ノ一人ト契約ヲ為スニ付テハ其
人ノミニ對シ權利ヲ有シ且義務ヲ負ヒ其仲間ニ關係ナキモ
ノトス

第百七十九條 仲間ノ者ハ其仲間ニ差入セシ物品ニ付テハ決
テ所有ノ權ナシトス又假令其支配人タルモ所有ノ權ナキハ
同一トス

然レモ仲間ノ者ハ其差入シ資本ト損益ノ計算高ニ付テハ之
ヲ檢閲スルノ權ヲ有スベシ

第百八十條 仲間中ノ一人分散ノ場合ニ於テハ其仲間ノ者ハ

已ノ差入レシ資本又ハ已レニ擔當スベキ損失高共差入レシ
資本高ヲ越ヘタル部分ニ付テハ尋常ノ債主（公証ノ証書ヲ用
ズ私ノ証書ヲ用
タル債主）列ニ加ヘラル、ノ権ヲ有スヘシ

第百八十一條 前數條ノ定規ノ外ハ双方ノ契約ヲ以テ其仲間
ヲ結フノ法式損益ノ割合及要件ヲ定ムベシ

第百八十二條 共々仲間ニハ前章ニ掲クル所ノ會社ニ付定ノ
タル法式ヲ行フニ及バズトス

書面ノ証據アラザルモトモ高法上ニ於テ証據ト為ス所ノ
モノハ總テ効アリトス

然レモ五百リル以上ノ事件ニ付証人ヲ以テ証據ト為スモ
ハ必ス書面ノ証據ノ端緒ナカルベカラス

第二款 共立仲間ノ事

第百八十三條 共立仲間ハ必ス書面ヲ以テ契約ヲ為スベシ否

ラザルモトモ其効ナシトス

此仲間ノ組立ハ雙方ノ契約ニ依テ定ムベシ

第百八十四條 此仲間ノ事務ハ其仲間ノ者ニテ名代人トナリ
之ヲ支配スヘシ其名代人ハ仲間ノ都合ニ因リ進退セラレ又

名代人ノ事ニ付定メタル法ニ從フノ外別段ノ義務ナシトス

第百八十五條 仲間ノ者ハ其約定書ニ定メタル金高ヲ入金ス
ルノニ義務アリトス

第百八十六條 仲間中ノ一人若シ其商業ノ目的ヲ達シタルモ
ハ仲間ヲ退クヲ得ヘシ但シ正當ノ償金ヲ求ムルノ權利ハ

失ハザルモノトス

第百八十七條 此仲間ハ仲間ノ者ノ治産ノ禁ヲ受ケ又ハ死去
スルトモ解散セザル者トス

仲間ニ分散ノ者アルモ之ヲ除名スルヲ得ヘシ

第八卷 質物ノ事

第百八十八條 商人タルト否トヲ問ハズ商業ニ動産ヲ質物ト
為スノ契約ハ其金高五百リルヲ越ユルハ必ス証書ヲ作
ルベシ

契約書ノ日附ヲ証スルハ商法ニ定ル所ノ總テノ方法ヲ以テ
スルコトヲ得ヘシ

証書ヲ要スル金高ノ質物ナルニ其証書アラサルハ他人ノ
為ニハ質物ニ付テノ効ナシトス

第百八十九條 賣買スルコトヲ得ベキ手形ヲ質トナス時ハ其旨
ヲ裏書ニ記シ之ヲ證スルコトヲ得ベシ

工作、商業等ノ會社又ハ民法上ノ會社ノ記名ノ株式或ハ其他
ノ記名ノ金券ヲ人ニ譲リ渡ス并其旨ヲ會社ノ簿冊ニ登記ス
ルト同シク之ヲ質物ト為スニモ亦會社ノ簿冊ニ其旨ヲ記ス

ベシ

第百九十條 債主ハ其取置キタル質物ニ付テハ債主タルノ特
権ヲ有スベシ

然レモ債主現ニ質物ヲ已レノ方ニ引取り置クカ又ハ負債者
ト協議シテ定メタル者ニ預ケ置キタルニ非レハ其質物ニ付
債主タルノ特権ヲ有スベカラズ

債主質物タル商品ヲ已レノ倉庫又ハ船舶中ニ入レ又ハ仲買
人ノ倉庫或ハ船舶中ニ入レ又ハ運上所或ハ公ケノ倉庫ニ預
ケ置キ又ハ其商品未ダ到着セザルモ船舶ノ積荷目録或ハ規則
ノ通り裏書ヲ為シタル運送狀ヲ得タルニ因リ之ヲ已レノ方
ニ引取ルベキ手續ニ至リシ時ハ已レノ方ニ引取り置タルト
看做スベシ

第百九十一條 債主ハ其取置ク所ノ質物ノ保存方ニ付篤ク注

意ヲ加ヘザルベカラス

又債ノ債主質物ヲ取ハ元質ノ期限ニ至リシ金高元質入

限ニ至リ其質取主ハ期ハ總テ之ヲ受取ルヘシ

若シ為換手形ヲ質物ト為シタルハ債主ハ其手形持主ノ權

利及義務ヲ有スベシ

總テ立換ヘシ費用金ハ返還ヲ受クベシ

手形ノ拂ヲ得タルハ貸金高ニ越ユル分ハ債主ヨリ質入主

ニ返スヘシ

第百九十二條 負債者其債ヲ拂フベキ期限ニ至リ猶之ヲ拂ハ

ザルハ商法裁判所ハ債主ノ願ニ依リ質物ノ競賣ヲ言渡シ

且其法式及要件ヲ定ムヘシ

質物商人集會場ニ於テ賣買スベキ手形ナルハ手形賣買世

話人ニ競賣ヲ任スベク又商品日用品又ハ其他ノ動産ナルハ

ハ公ケノ商業世話人公証人又ハ其他ノ公ケノ官吏ニ委託ス
ヘシ

債主ハ裁判所々在ノ邑内ニ假ノ住所ヲ擇ムベシ

債主ノ願書并ニ競賣言渡書ノ写ハ呼出狀送達ノ法式ヲ以テ

必ス質入主ニ送達スヘシ

競賣ハ前項ニ定ムル所ノ送達ヲ質入主ニ為シタル日ヨリハ

日ノ後ニ非レハ為スヘカラス

第百九十三條 質入主競賣言渡書ニ對シ故障ヲ述ルハ競賣ノ

期日前ニ之ヲ為スヘシ

故障ノ申述ヲ為スニハ裁判所ニ出席スヘキ旨ノ呼出狀ヲ債

主ニ送達スベシ

債主前條ノ定規ノ如ク假ノ住所ヲ擇ミ置カザリシハ競賣

ノ言渡シヲ為シタル裁判所ノ書記局ニ其呼出狀ヲ送達スル

トヲ得テシ
故障ノ申述ヲ為シタルキハ質物ノ競賣ヲ中止スヘシ

第九十四條 前條ノ定規ハ銀行ニ關スル法則及預金ノ内渡

シ並ニ公立ニテ質物ニ付貸金ヲ為スノ業ニ關シタル法律及規則ト相抵觸スルコトナカルヘシ

船舶ニ關スル質物ノ事ハ此法第二篇第二卷中ニ定ム

第九十五條 負債ノ全額ヲ拂ヒ終ル迄質物ヲ止メ置クベキ

ノ言渡ヲ裁判所ニ求ムルノ權ヲ債主ニ與ヘタル民法第千八百八十四條ノ定規ハ高事ニ適用スヘカラス

其他民法ノ定規之ニ抵觸セサルモノハ適用スルヲ得ヘシ

第九卷 為換手形切手及其經時効ノ事

第一章 為換手形ノ事

第一款 為換手形ノ法式

第九十六條 為換手形ハ此地ヨリ彼地ニ向ケ差立ルモノト

ス

為換手形ニハ其日附ヲ記シ及左ノ諸件ヲ記スヘシ
拂フヘキ金高但シ數字ヲ用井ス語ヲ以テ記スヘシ
拂人ノ姓名

拂フヘキ期日及場所

差立方當テ貨幣或ハ商品ヲ受取リタルニ付手形ヲ差立ル
一又ハ借取ノ代ニ差立ル一又ハ其他差立ニ付テノ原由
為換手形ハ或ハ他人ノ代權人ニ拂フヘキアリ或ハ差立人ノ
代權人ニ拂フヘキアリトス

若シ數枚ノ手形ニシテ番号ヲ付シ差立ツヘキハ其番号ハ
各異ナリト雖氏手形ノ文面ハ同一ナルヲ要ス但シ其番号ヲ
記スルタメ種々ノ記載ヲナスハ此例ニ非ス

差立人ハ為換手形ニ手署スヘシ

佛百十一條

第九十七條 為換手形ハ甲者ニ向テ差立テタルヲ乙者代テ

已レノ住所ニ於テ拂フヲ得

為換手形ヲ差立ルハ差立人自己ノタメニ非スメ他人ノ為メ
ニスルヲ得

差立人ハ為換手形ヲ已レニ差立ルコトヲ得
已レトハ支店或ハ名代人等ヲ云フ

佛百十二條

第九十八條 姓名身分住所差立ノ地拂フヘキ地ヲ假リニ設
ケ記シタル為換手形ハ通常約束書ト看做スヘシ但シ其情ヲ
知ラス之ヲ所持シタル者ニ對シテハ此例ニ非ス

佛百十三條

第九十九條 商人ニ非サル婦ノ手署シタル為換手形ハ其婦
裏書人ノ名義ヲ以テ手署シタルト雖氏其婦ニ對シテノニ
通常ノ約束書ト看做スヘシ

佛百十四條

第二百條 商人ニ非サル如者ノ手署シタル為換手形ハ其如者
ニ對シテノニ無効トス但シ此場合ニ於テ双方ノ權利ハ民法

第一千三百七條ニ循ヒ之ヲ定ムヘシ

第二款 為換手形ヲ拂フヘキ金高ヲ備ル事

佛百十五條

第二百一條 差立人及差立ヲ頼ミタル者ハ必ス備ヘ金ヲ備フヘシ他人ノ為メニ手形ヲ差立タル者ハ裏書人ト手形ノ持主トニ對シ其義務ヲ擔當セザルヘカラス

佛百十六條

第二百二條 若シ為換手形ノ拂期日ニ至リ拂方ノ者差立人又ハ差立ヲ頼ミタル者ニ對シ為換手形ノ金高ニ均シキ債ヲ負フタルキハ備ヘ金ノ設ケアルモノト見做スヘシ

佛百十七條

第二百三條 拂方ノ者為換手形ヲ兼諾シタルキハ備ヘ金ヲ為シタルモノト看做スヘシ此承諾ハ裏書人及手形持主ニ對シ備ヘ金ノアリタルノ証トナルヘシ

拂方ノ承諾ノ有無ニ關セス差立人ハ為換手形ノ拂期日ニ拂方ニ備ヘ金ノアリタルヲ証スヘシ若シ否ラザルキハ手形

ノ持主ハ定期後ニ拂方ヲ拒ミシキ其拒ミノ証書ヲ記シタルキト雖モ其差立人ハ其手形ヲ拂フヘキヲ係証スヘシ

第二百四條 何レノ場合ニ於テモ拒マレタル為替手形ノ持主ハ差立人ヨリ拂人ニ備ヘ置キタル金高ノ上ニ權ヲ有セス

若シ拂人為替手形ヲ承諾セサルキハ其備ヘ金ハ差立人分散ノ場合ニ於テハ其分配スヘキ財産中ニ入ルヘシ

其承諾ノキ分散ノ場合ニ於テハ其備ヘ金ヲ拂人ノ手ニ殘シ置キ為換手形ヲ拂フノ義務アルモノトス

第三款 手形ノ承諾ノ事

佛百十八條

第二百五條 為換手形ノ差立人及裏書人ハ拂人ノ承諾ノトト拂期日ニ至リ之ヲ拂フヘキトヲ連帶シテ保証スヘシ但シ第二百二十五條ノ定規ハ此限ニアラス

佛百十九條

第二百六條 拂人手形ノ兼諾ヲ拒ムキハ持主ハ其承諾ノ拒ミ

佛百二十条

ヲ証スルノ証書ヲ以テ之ヲ慥ムヘシ

第二百七条

兼諾ノ拒ミヲ証スルノ証書ヲ受取りタル裏書人
及差立人ハ拂期日ニ為換手形ヲ拂フヘキトテ慥ムルタメ各
自ニ保証人ヲ立ツヘシ否ラサレハ其手形ノ金高ト拒ミヲ証
スル証書ノ費用ト並ニ返シ為替ノ費用トテ償フノ義務アリ
モノトス

ヲヘシ

佛百二十一條

第二百八條 為替手形ヲ承諾シタルモノハ其手形ヲ拂フヘキ
義務アルモノトス

其承諾人ハ差立人ノ分散シタルトテ知ラスレテ承諾シタル
片ハ手形ヲ拂フヘキ義務ヲ免ル、トテ得ス

佛百二十二條

第二百九條 為替手形ノ承諾ハ之ヲ其手形ニ記スヘク且承諾

人ハ之ニ手署スヘシ

其承諾ヲナシタルノ意ハ兼諾ス(アクセプター)ノ一語ヲ記ス
ルヲ以テ足レリトス拂人為替手形ヲ見タルヨリ一日又ハ數
日或ハ一月又ハ數月ニ之ヲ拂フヘキ片ハ其手形ヲ承諾シタ
ル日附ヲ記スヘシ若シ之ヲ記セサル片ハ其手形ノ日附ヨリ
計算シ之ニ記載アル期日ヲ以テ其手形ノ拂期日トスヘシ

佛百二十三條

第二百十條 拂人其住所外ニテ拂フヘキ為換手形ヲ承諾シタ
ル片ハ之ヲ拂フヘキノ地ヲ指定スヘシ

佛百二十四條

第二百十一條 手形ヲ承諾シタル片ハ其金高ヲ拂フニ付テハ
未必ノ條件ヲ記スヘカラス然レ氏手形ノ金高中其一部ノミ
ヲ拂フヘキトテ兼諾シ他ノ一部ヲ拂フトテ兼諾セザルトテ
得ヘシ

此場合ニ於テハ手形ノ持主承諾ヲ得ザル一部ニ付兼諾ノ拒

佛百二十五條

ミヲ証スルノ証書ヲ記スヘシ

第二百十二條 為替手形ハ之ヲ示シタル日直ニ拂人之ヲ承諾
シ又遅ク凡二十四時間ニ承諾スヘシ

拂入手形ヲ承諾シ又ハ承諾セシテ二十四時ノ後ニ至リ之
ヲ還サ、ル片ハ其持主ニ對シ損失ヲ償フヘシ

第四款 他人干涉シテ手形ノ承諾ヲ為ス事

佛百二十六條

第二百十三條 承諾ノ拒ミヲ証スル証書ヲ記シタル場合ニ於
テ他人差立人ノタメ又裏書人中ノ一人ノタメ其手形ニ干涉
シテ承諾ヲナスコトヲ得

其干涉ノ旨ハ拒ミノ証書ニ記載シ干涉ノ者之レニ手署スヘ
シ

佛百二十七條

第二百十四條 干涉者ハ其干涉ノ旨ヲ遅延ナク其本人又差立人
書人ヲニ報知スヘシ

佛百二十八條

第二百十五條 干涉者ノ承諾アル片ト雖凡為替手形ノ持主ハ
拂人ノ承諾セサルニ依リ差立人及裏書人ニ對シ有スヘキ諸
權ヲ失フコトナキモノトス

第五款 拂期限ノ事

佛百二十九條

第二百十六條 為替手形ハ左ノ條件ヲ以テ差立ルコトヲ得ヘシ

手形ヲ見タルヨリ直ニ之ヲ拂フヘキ事

手形ヲ見タルヨリ二日又ハ數日ニ之ヲ拂フヘキ事

手形ヲ見タルヨリ一月又ハ數月ニ之ヲ拂フヘキ事

手形ヲ見タルヨリ一「エザン」又數「エザン」ニ之ヲ拂フヘ
キ事

手形ノ日附ヨリ一日又數日ニ之ヲ拂フヘキ事

手形ノ日附ヨリ一「明」又數月ニ之ヲ拂フヘキ事

手形ノ日附ヨリ一「エザン」又數「エザン」ニ之ヲ拂フヘキ

事

別改定メタル期日ニ之ヲ拂フヘキ事

市ノ日ニ之ヲ拂フヘキ事

佛百三十條

第二百十七條 手形ヲ見タル片直ニ之ヲ拂フヘキトハ持主ヨリ示シタル時直ニ拂フヘキヲ云フ

佛百三十一條

第二百十八條 手形ヲ見タルヨリ一日又ハ數日ニ之ヲ拂フヘキト、手形ヲ見タルヨリ一月又ハ數月ニ之ヲ拂フヘキト、手形ヲ見タルヨリ一「エザンス」又ハ數「エザンス」ニ之ヲ拂フヘキトヲ記シタル為替手形ノ拂期限ハ其承諾ノ日又ハ承諾ノ拒ヲ証スル証書ヲ記シタル日ヨリ之ヲ算フヘシ
「エザンス」トハ三十日ヲ云フ月ハ太陽曆ニ循ヒ之レヲ定ムヘシ

佛百三十三條

第二百十九條 市ノ日ニ為替手形ヲ拂フヘキ片ハ市ノ最終ノ日ニ之ヲ拂フヘク又市ノ時間一日ノミナル時ハ其日ニ之ヲ拂フヘシ

佛百三十四條

第二百二十條 為換手形ノ拂期日國祭日ニ當ル片ハ其前日ニ之ヲ拂フヘシ

佛百三十五條

第二百二十一條 為換手形ヲ拂フニ付猶豫ノ期限又ハ其他地方ノ習慣ニテ定メタル期限ヲ與フルヲ禁ス

第六款 裏書ノ事

佛百三十六條

第二百二十二條 為換手形ノ所有權ヲ移スハ裏書ヲ以テスヘシ

佛百三十七條

第二百二十三條 裏書ニハ日附ヲ記シ又左ノ件々ヲ記載スヘシ
受取タル物品貨幣ナルカ高品ナルカ其差引ナルカ又ハ他ノ物ナルカノ事

ハ此例ニ非ス

佛百五十一條

第二百三十六條 持主拂人ノ承諾ノコトヲ記セサル手形ヲ失フタルハ第二番第三番ホノ手形ヲ以テ其拂ヲ請求スルヲ得

佛百五十二條

第二百三十七條 若シ承諾シタル為換手形ヲ紛失シタルハト雖氏持主ハ証人ヲ立テ裁判所ノ許可ヲ得ルニ非レハ第二番

第三番等ノ手形ヲ以テ拂ヲ請求スルヲ得ス

佛百五十三條

第二百三十八條 拂人ノ承諾シタル為換手形ト承諾セザル為換手形トヲ問ハス之ヲ失フタル者第二番第三番等ノ手形ヲ

示スヲ能ハサル時ハ其簿冊ニ據リ為替手形ノ所有者タルヲ

ヲ証シ且保証人ヲ立テ裁判所ノ命令ヲ以テ其失フタル手形

ノ拂ヲ請求スルヲ得

佛百五十四條

第二百三十九條 前二條ノ場合ニ於テ為換手形ノ拂ヲ請求シ拂人之ヲ拒ムハ其失フタル手形ノ持主プロテスタシヨシ

要償ノ書ト同一ニシテ唯手形ノ表面ヲ記入セノ書ヲ記シテ
サルコトニ拒ミテ証スルノ証書ト異ナリ
已レノ權利ヲ保全スヘシ
此書ハ失フタル手形ノ拂期日ノ翌日之ヲ記スヘシ
此書ヲ差立人ト裏書人トニ送達スルハ後條ニ記シタル拒ミ
ノ証書ヲ送達スルコトニ付テノ期限ト法式トニ循フヘシ

佛百五十四條

第二百四十條 為換手形ノ持主其手形ヲ失フタルハ更ニ他ノ為換手形ヲ得ンコトヲ最モ後ニ裏書ヲナシタル者ニ求メ最

モ後ニ裏書ヲナシタル者ハ自己ヨリ先ニ裏書ヲナシタル者

ニ自己ノ名前ヲ以テ同上ノ求ヲナシ次第ニ先ニ裏書ヲナシ

タル者ニ及ボシ終ニ手形差立人ニ至ルヘシ○其費用ハ手形

ヲ失フタル者之ヲ償フヘシ

佛百五十五條

第二百四十一條 第二百三十七條及ヒ第二百三十八條ニ記シタル保証人ノ義務ハ五ヶ年ヲ過クルハ消滅スルモノトス

佛百五十六條

第二百四十二條 為換手形ヲ現ニ拂フタル片ハ差立人及裏書人ハ其義務ヲ免ルベシ
其持主ハ未タ拂ヲ得ザル一部ニ付拒ミヲ証スルノ証書ヲ記スヘシ

佛百五十七條

第二百四十三條 裁判官ハ為換手形ノ拂ニ付猶豫ノ期限ヲ與フルヲ得ス

第十款 他人干涉シテ手形ノ金高ヲ拂フ事

佛百五十八條

第二百四十四條 差立人ノ為メ或ハ裏書人中ノ一人ノ為メ他人干涉シテ拒ミヲ受ケタル為換手形ヲ拂フヲ得
其干涉ノトト其拂フタルトトハ拒ミヲ証スル証書文中若クハ其末尾ニ記シ之ヲ慥ム可シ

佛百五十九條

第二百四十五條 干涉シテ為換手形ヲ拂フタルモノハ其持主ノ權ニ代リ且持主ト同一ノ法式ヲ履ムヘキ義務アルモノトス
差立人ノタメ他人干涉シテ為換手形ヲ拂フタル片ハ裏書人ハ皆其義務ヲ免ルヘシ

佛百六十條

裏書人中一人ノ為メ他人干涉シテ為換手形ヲ拂フタル片ハ其裏書人ヨリ後ノ裏書人ハ皆其義務ヲ免ルヘシ
干涉シテ為換手形ヲ拂ハントスル者數人アル片ハ其内最モ多ク義務ヲ消滅スル者ヲシテ之ヲ拂ハシムヘシ
此場合ニ於テ若シ拂人為換手形ヲ拂ハシトテ望ム片ハ他ニ之ヲ望ム者アリモ其拂人ニ之ヲ拂ハシムヘシ
第十一款 手形持主ノ權利及義務ノ事

第二百四十六條 手形ヲ見タルヨリ直ニ或ハ一日或ハ數日或ハ一月或ハ數月或ハ一「エザン」ス或ハ數「エザン」スニ拂フヘキ
トテ記シタル為換手數ヲ伊太利國內ノ此所ヨリ彼所ニ向テ差立テタル片ハ其持主其手形ノ日附ヨリ三ヶ月内ニ其承諾

或ハ拂ヲ請求スヘシ若シ此定期内ニ其請求ヲナサバル氏ハ
裏書人又ハ備ヘ金ヲ設ケタル差立人ニ對シ償ヲ求ムヘキノ
權ヲ失フモノトス

為換手形ヲ歐羅巴ノ各國ヨリ伊太利ニ向ケ差立テタル氏ハ
同工ノ期限ヲ四ヶ月トス

阿非利加ノ北岸、東方ノ沿海ノ地又ハ紅海ノ諸港ヨリ差立タ
ル氏ハ同工ノ期限ヲ六ヶ月トス

大西洋沿海ノ阿非利加及亞米利加ノ諸國ヨリ差立タル氏ハ
同工ノ期限ヲ八ヶ月トス

大平洋沿海ノ亞米利加諸國並ニ印度海ニ沿フタル亞非利加
或ハ亞細亞ノ諸國ヨリ差立タル氏ハ同工ノ期限ヲ一年トス
大平洋沿海ノ亞細亞地方ヨリ差立タル氏ハ同工ノ期限ヲ十
八ヶ月トス

又伊太利國ヨリ差立テ外國ニテ手形ヲ見タルヨリ直ニ或ハ
一日或ハ數日或ハ一月或ハ數月或ハ一「エ」ザンス或ハ數「エ」ザ
ンスニ拂フヘキ「フ」ヲ記シタル為換手形ノ持主ニ於テ各地方
ノ遠近ニ付前ニ區別シタル期限内ニ手形ノ承諾又ハ拂ヲ請
求セサル氏ハ前ニ記シタル如ク權利ヲ失フベシ
海戦アルノ場合ニ於テ海路ニ由ラザレハ通スル能ハサル地
方ヨリ差立タル氏ハ前ニ記シタル期限ヲ倍スヘシ
何レノ場合ヲ問ハス契約者ハ此條ニ記シタル期限ヨリ他ノ
期限ヲ約定スルヲ得ヘシ

佛百六十一條

第二百四十七條 為換手形ノ持主ハ拂期日ニ其拂ヲ請求スヘ
シ

佛百六十二條

第二百四十八條 拂人為換手形ヲ拂フ「フ」ヲ拒ミタルトキハ持
主拂期日ノ翌日其拒ミヲ証スルノ証書ヲ記シ之レヲ慥ムヘ

シ
若シ其國祭日ニ當ルモハ其翌日拒ミテ証スルノ証書ヲ記ス
ヘシ

佛百六十三條

第二百四十九條 為換手形ノ差立ヲ受ル者ノ分散或ハ死去シ
タルニ因リ其持主承諾ノ拒ミテ証スルノ証書ヲ記シタルモ
ト雖モ尚ホ拂方ノ拒ミテ証スル証書ヲ作ルヘシ為換手形ノ
拂期日前ニ拂人分散シタルモ其持主ハ拂方ノ拒ミテ証ス
レノ証書ヲ作り其償ノ請求權ヲ行フヲ得

佛百六十四條

第二百五十條 手形ノ持主其拂ヲ得サルモハ差立人或ハ諸裏
書人中ノ一人ニ對シ又ハ差立人ト諸裏書人トニ對シ其償ヲ
請求スルノ權ヲ行フヲ得
又裏書人ハ差立人及自己ヨリ前ノ裏書人ニ對シ同工ノ權ヲ
行フヲ得

佛百六十五條

第二百五十一條 若シ為換手形ノ持主差立人又ハ裏書人ニ對
シ償ヲ請求スルノ權ヲ行ハントスルモハ先ツ拒ミテ証スル
ノ証書ヲ差送ルヘシ而シテ猶ホ償ヲ拂ハサルモハ其差送り
タル拒ノ証書ノ日附ヨリ十五日内ニ其差立人又ハ裏書人ヲ
裁判所ニ呼出スヲ求ムヘシ

若シ讓入ノ住地ト為換手形ヲ拂フヘキノ地ト控訴院ノ同管
轄内ナラザルモハ呼出ヲナスニ付テノ日限ハ訴訟法第四百
十八條ノ第四項及第五項ノ定規ニ循フヘシ
伊太利ノ大地ヨリ差立テ其島嶼ニ於テ拂フヘキ為換手形又
ハ伊太利ノ島嶼ヨリ差立テ其大地ニ於テ拂フヘキ為換手形
ニ付テハ海戦アルノモハ於テハ前項ノ日限ヲ倍スヘシ

佛百六十六條

第二百五十二條 伊太利ヨリ差立テ外國ニ於テ拂フヘキ為換
手形ノ拂ヲ拒ムモハ其持主伊太利ニ住スル差立人及裏書人

ニ對シ左ノ日限ニ從ヒ其權ヲ行フベシ

歐羅巴ノ各國ニ於テ拂フヘキ為換手形ニ付テハ九十日內
亞非利加北岸又ハ東岸ノ地方又ハ紅海ニ接シタル地方ニ
於テ拂フヘキ為替手形ニ付テハ百八十日內

大西洋ニ接シタル亞非利加又ハ亞米利加ノ地方ニ於テ拂
フヘキ為換手形ニ付テハ二百四十日內

大平洋ニ接シタル亞米利加地方又ハ印度海ニ接シタル亞
細亞或ハ亞非利加地方ニ於テ拂フヘキ為換手形ニ付テハ
一年內

大平洋ニ接シタル亞細亞地方又ハ大平洋中ニ在ル地方ニ
於テ拂フヘキ為換手形ニ付テハ十八ヶ月內

若シ為換手形ヲ海路ニ由ラザレハ通スルヲ能ハザル地方ヨ
リ差立テ又其地方ニ差立テタル片海戦アルノ場合ニ於テハ

以上ノ日限ヲ倍スヘシ

佛百六十七條

第二百五十三條

若シ為換手形ノ持主差立人ト諸裏書人トニ
對シ償ノ請求權ヲ行フキハ又前條ニ記シタル期限ニ循フヘ
シ

又裏書人ハ差立人或ハ已ヨリ前ノ裏書人中ノ一人ニ對シ或
ハ差立人ト諸裏書人トニ對シ償ノ請求權ヲ行フキモ亦前條
ノ期限ニ循フヘシ裏書人ニ付テハ自己ノ裁判所ニ呼出ラ受
ケタル翌日ヨリ此日限ヲ計算スヘシ

佛百六十八條

第二百五十四條

手形ヲ見タルヨリ直ニ或ハ一日或ハ數日或
ハ一月或ハ數月或ハ一「ユザン」ス或ハ數「ユザン」スニ拂フヘキ
為換手形ヲ示ス「」ニ付及拒ミヲ証スルノ証書ヲ記スル「」ニ
付及償ノ請求權ヲ行フ「」ニ付前ニ記シタル期限ヲ過ル片ハ
手形ノ持主ハ此等ノ「」ニ付裏書人ニ對シ有スル諸權ヲ失フ

佛百六十九條

第二百五十五條

前ニ記シタル定期ヲ過ル片ハ裏書人嘗テ已レニ手形ヲ讓渡セシ裏書人ニ對シ償ノ請求權ヲ行フヲ得ス。

佛百七十條

第二百五十六條

又手形ノ持主及裏書人定期内ニ差立人ニ對シ償ノ請求權ヲ行ハザル片差立人手形ノ拂期日迄ニ已ニ備ヘ金ヲ拂人ニ為シ置キタルヲ証スルニ於テハ其手形ノ持主及裏書人ハ其請求權ヲ失フ者トス但シ此場合ニ於テ拂人

佛百七十一條

第二百五十七條

前項ノ場合ニ於テ手形ノ持主ハ其請求權ヲ行フヲ得又ハ裏書人中ノ一人手形持主ノ拒ミヲ証スル証書ヲ記スル定期又ハ其書ヲ送達スル定期又ハ裁判所ニ呼出ス定期後ニ常テ手形ヲ拂フタメ設ケ置シ備ヘ金ヲ算計相殺シ又ハ其他

佛百七十二條

第二百五十八條

手形ノ持主ハ其拂ヲ得サル片差立人又ハ裏書人ニ對シ償ヲ求ムルニ付キ定メタル法式ヲ行フニ關セス裁判所ノ允許ヲ得タル工ニテ差立人手形ノ承諾人及裏書人ノ動産ヲ差押ユルヲ得

第十二款

拒ミノ證書ノ事

佛百七十三條

第二百五十九條

承諾ノ拒ミヲ証スルノ證書又ハ拂ヒノ拒ミヲ証スル證書ハ証人二人ノ立合ニテ公証人一人ニ依リ又ハ証人二人ノ立合ニテ使吏一人ニ依リ之ヲ作ルヘシ○依頼ヲ受ケタル公証人又ハ使吏ハ其職ヲ行フヲ拒ムヲ得ス若シ此規ニ違フ片ハ損失ヲ償フノ外ニ五百リール迄ノ罰金ヲ科

セラルヘシ

拒ミテ証スルノ証書ハ左ノ場所ニ於テ一通ニ之レヲ認ムヘシ

手形ヲ拂フタメ手形中ニ指定シタル場所若シ指定ノ場所ナキハ拂人ノ住所又ハ寄留所

若シ拂人手形ヲ拂ハザルコトアルハ手形ニ記載アル代テ拂フヘキ者ノ住所又ハ寄留所

手形ニ干渉シテ之ヲ承諾シタル者ノ住所又ハ寄留所住所ノ記載ニ詐偽又ハ誤謬アルニ於テハ公証人又ハ使吏ハ

拒ミノ証書ヲ記スル前ニ探索書ヲ記シ其住所ヲ確知スルタメ探索ヲナシタルコトヲ慥ムヘシ

佛百七十条

第二百六十条 拒ミテ証スル証書ニハ左ノ事件ヲ記載スヘシ
為替手形ノ文面承諾ノ文面裏書ノ文面拂人ニ代テ拂フヘ

キ者アル片ハ其文面

手形ノ拂ヒヲ催促シタル事

拂人其住所ニ在ルコト又在ラサル事

拂人手形ヲ拒ミタルノ理由又ハ拒ミテ証スルノ証書ニ手

署スルコトヲ拒ミタルコト又ハ能ハサル事

佛百七十五条

第二百六十一条

手形ノ持主ニテ如何ナル書類ヲ記シタル片

拒ミテ証スルノ証書ニ代用スルコトヲ得ス但シ手形ヲ失フタ

ルニ付第二百三十五条以下ニ記シタル場合ハ此例ニ非ス

若シ手形中ニ入費ナク及拒ミテ証スルノ証書ヲ作ラサル様

云々トノ記入及ヒ拒ミノ証書ヲ記スルニ及バザル様云々ト

ノ諸記入アル片ハ其手形ハ為換ノ効ヲ失ヒ唯拂ヲナスヘキ

通常証書ノ効アルノミトス

裏書人同上ノ記入ヲナス片ハ其記入ハ無効トス

佛百七十六條

第二百六十二條 公証人及ヒ使吏ハ拒ミテ証スル証書ノ寫ヲ其本人ニ渡シ又其証書ヲ日附ノ順序ニ從ヒ簿冊ニ記入スヘシ但シ此簿冊ハ番號及檢印ヲ付シ見出帳ノ法式ニ循フヘシ
○此定規ニ違フ片ハ其職ヲ免セラレ且其本人ニ對シ損失及諸入費ヲ償フヘシ

第十三款 返シ為換ノ事

佛百七十七條

第二百六十三條 返シ為替ハ返シ為替ノ手形ヲ以テ之ヲ為ス

佛百七十八條

第二百六十四條 返シ為替ノ手形トハ一ノ新為替手形ニシテ拒マレシ手形ノ持主其金高費用及ヒ返シ為替料ノ償ヲ得ンガタメ其差立人又ハ裏書人中ノ一人ニ向ケ差立ツル為替手形ヲ云フ

佛百七十九條

第二百六十五條 其拒マレシ手形ノ差立人ニ付テハ其金高ヲ拂フヘキ地ヨリ之ヲ差立タル地ヘ向ケ為ス所ノ為換相場ヲ以テ其料ヲ定ムヘシ
又裏書人ニ付テハ初メ為替手形ヲ渡シ或ハ之ヲ賣却シタル地ヨリ手形ノ金高ヲ拂フ可キ地ヘ向ケ為ス所ノ為換相場ヲ以テ其料ヲ定ムヘシ

佛百八十條

第二百六十六條 返シ為替手形ニハ返シ手形ノ勘定書ヲ附スヘシ

佛百八十一條

第二百六十七條 返シ換ハセノ勘定書ニハ左ノ件々ヲ記スヘシ
拒マレシ為替手形ノ主タル金高
拒ミテ証スル証書ノ費用及銀行ノ世話料世話人ノ謝金証券印紙料手形ノ運送賃ノ如キ正當ナル入費
又返シ手形ノ金高ヲ拂フヘキ者ノ姓名及賣却シタル手形

ノ代價

此勘定書ハ手形賣買世話人之ヲ証スヘシ若シ手形賣買世話人不在ノ地ナル片ハ二人ノ商人之ヲ証スヘシ

此勘定書ニハ拒マレシ為換手形及其拒ミヲ証スル証書ノ寫ヲ添フヘシ

裏書人中ノ一人ニ向ケ返シ手形ヲ差立ル片ハ其手形ニハ別ニ為換ヲ拂フヘキ地ヨリ之ヲ差立シ地ヘ向ケ為ス所ノ為換相場ノ証書ヲ附スヘシ

第二百六十八條 一通ノ為替手形ニハ數通ノ勘定書ヲ附スヘカラス

返シ手形ノ勘定ハ順次ニ一方ノ裏書人ヨリ他方ノ裏書人ニ之ヲ拂ヒ終ニ差立人ニ及ボスヘシ

佛百八十四條

第二百六十九條 拂ヲ拒ミシ為替手形ノ金額ノ利息ハ其拒ミヲ証スル証書ノ日附ヨリ生スルモノトス

佛百八十五條

第二百七十條 拒ミヲ証スル証書ノ入費返シ為替料及其他正當ナル入費ノ利息ハ裁判所ヘ出訴スルノ日ヨリ生スルモノトス

佛百八十六條

第二百七十一條 若シ返シ為替ノ勘定書ニ第二百六十七條ニ記載セシ如ク手形賣買世話人ノ証若クハ商人二人ノ証アラザル片ハ返シ為替料ヲ償フヲ要セス

第二章 切手ノ事

第一款 金高ニテ拂フヘキ切手ノ事

第二百七十二條 切手ハ商人ナルト商人ナラザルトヲ問ハス之ヲ差立ルヲ得ヘシ但シ第二條七項第三條二項ニ記載スル區別アルハ別段トス

佛百八十八條

第二百七十三條 切手ニハ年月日ヲ附シ及左ノ件々ヲ記載ス

可シ

拂フヘキ高但シ語ヲ以テ記シ數字ヲ以テスヘカラス
切手ヲ作ルルヲ依頼シタル者ノ姓名

拂フヘキ期日

差立方嘗テ貨幣或ハ商品ヲ受取りタルニ付キ切手ヲ差立
ルル又ハ借取ノ代ニ差立ルル又ハ其他差立テニ付テノ原
由

佛百八十七條

第二百七十四條 左ノ事ニ關スル為換手形諸規則ハ切手ニモ

適用ス可シ

拂期日ノ事

裏書ノ事

連帶ノ事

保証ノ事

拂ヲ為ス事

他人干渉シテ拂フ事

拒ミテ証スル証書

為替手形持主ノ權利及義務

返シ為替料及利息

但シ第三條二項第七百二十七條三項ノ場合ハ別段トス

第二款 商品ニ付テノ切手ノ事

第二百七十五條 商品ニ付テノ切手ハ左ノ件ニテ記スヘシ

年月日

拂フヘキ商品ノ性質及分量

商品ヲ受取ル者ノ姓名

拂期日

差立方嘗テ貨幣或ハ商品ヲ受取りタルニ付切手ヲ差立ル

一又ハ借取ノ代ニ差立ル一又ハ其他差立ニ付テノ原由

第二百七十六條 為替手形ノ諸規則ハ第二百七十四條貨幣ニ付テノ切手ニ適用シ又此款及前款ノ切手ニモ適用スヘシ

第二百七十七條 商品ニ付テノ切手ハ甲ニ向ケ差立タルヲ乙者代テ已レノ住所ニ於テ之ヲ拂フ一ヲ得ヘシ

商品ニ付テノ切手差立人ハ他人ノ為メ及其代權人ノ為メ之ヲ差立ルヲ得ヘシ

第二百七十八條 商品ニ付テノ切手ハ必ス其拂期限ヲ定メ之ヲ差立可シ

之ニ反シタル片ハ假令ヒ商人之ニ手署セシト雖モ其切手ハ通常ノ証書ト見做スヘシ

第二百七十九條 切手ニ定メタル期日ニ至レハ其持主ハ假令ヒ其物品水陸運送中又ハ此店ヨリ彼店へ若クハ貯藏所へ運

送中タリトモ其手形執行ノ權利ヲ有スヘシ

切手ノ持主ハ慣習ニ依テハ假令其拂期日後ニ至ルモ物品ヲ其所在ノ店又ハ貯藏所ニ預ケ置テ得ヘシ然ル片ハ爾來其物品ニ付テノ損害ヲ擔當ス可シ

第二百八十條 商品ノ切手ノ持主期日ニ至リ其執行ヲ為サズル片ハ承諾人ニ對シテノモ拂ヲ為サシムルノ權利ヲ有シ差

立人及裏書人ニ對シテハ其權利ヲ有セザルモノトス

第二百八十一條 日用消費物ヲ代金ニテ拂ハントスル片其價格ヲ定ムルハ其代金又ハ償金ニ付テハ定期内其拂ヲ求ムル

當日其引渡シテ為スヘキ地ノ相場ヲ以テスヘシ

第二百八十二條 為換手形及切手ニ付テノ訴訟ノ經時効ハ拒ミテ受テザルモノニ付テハ拂ヒ期日ヨリ計算シ五年ヨリ生

佛百廿九条

シテ受テザルモノニ付テハ拂ヒ期日ヨリ計算シ五年ヨリ生

義務ヲ認メタル他ノ證書アル片又ハ裁判所ニ訴ヘラレタル

片ハ其經時効ハ中止スヘシ經時効ヲ得ントスル者ノ相手ハ

民法第二千四百十二條ノ規則ヲ適用スヘシ

第二百八十三條 前條ニ記載セシ經時効ハ平時ト戰時トヲ問

ハス戰地出張ノ軍人及後見ヲ免レザル幼者及治産ノ禁ヲ受

タル者ニモ適用スヘシ但シ幼者之カ為メニ損失ヲ生シタル

片ハ後見人ニ對シ其償ヒヲ求ムルヲ得ヘシ

第二編 海上貿易ノ事

第一卷 海船ノ事

佛百九十四條 海船ハ皆動産トス

海船ハ後ニ記スル數條ニ循ヒ法律ニ於テ特權アル債主ノ為

メニハ他人ノ之ヲ所持セル片ト雖亦抵當物ナリトス

佛百九十五條 左ニ記列スル諸件ハ其記列ノ順序ニ從ヒ船

船諸船具、機裝ノ諸具及附屬品ニ付債主ノ特權アルモノトス

其一 裁判所ニ於テ船ヲ賣拂フ費用及其賣拂代金ヲ分派

スル費用

其二 航海ニ付テノ稅即チ噸稅、碇泊稅、水先案内稅及其他

法律ニ於テ定メタル諸稅

其三 水先案内ノ謝金、最終ノ航海ニ救助ヲ受ケタルニ付

テノ謝金、償金及入費又ハ入港ノ時ヨリ賣拂ニ至ル迄之

ヲ預リ監守セシ者ノ謝金及ヒ其他之レヲ預カルニ付テ

ノ費用

其四 船具ヲ藏ムル倉庫ノ貸賃

其五 最終ノ航海以來及港内ニ入りタル以來其船ヲ修覆

シ又ハ其船具ヲ修覆スルニ付テノ費用

其六 最終ノ航海ノ船長及乗組人ノ給料其他最終ノ航海

ニ付此編ノ第五卷ニ循ヒ船ノ諸具ヲ供給シタル者ノ受
取ヘキ代金

其七 最終ノ航海中船ノ入用且修覆ニ費シタル金高及船
材、船具、食料ヲ直ニ船長ヘ供給シタル者ニ拂フヘキ金額
勞力直ニ船長ニ供シタル者ノ給料、船及船具ヲ抵當トシ
テ船ノ入費ニ付必要ナル金額ヲ貸シタル者ニ拂フヘキ
金額、航海中船ノ入用ノ為メ船長ノ賣拂フタル荷物ノ所
有者ニ償フヘキ金額

其八 最終ノ航海前ニ修覆ヲナシタル船ノ所有者或ハ其
代權人又ハ船長ニ供給シタル船材、船具、食料ノ代金、備ハ
レタル工丁ノ給料

其九 船ノ製造人又ハ其製造ノ材料ノ供給人及工丁ニ拂
フヘキ金額但シ船ノ所有者或ハ其代權人又ハ船長直ニ

材料ノ買入レ工丁ノ備入レヲ為シタルキニ限ルヘシ

其十 最終ノ航海中船又ハ諸船具、機装ノ諸具及附屬品ニ
付テノ請合金高但シ一度航海中ノ請合ナルト定期航海
中ノ請合ナルト又ハ航海中ノ日ヲ限りタル請合ナルト
ニ關スルナシ

最終ノ航海ノ終リシ日ヨリ溯テ前六ヶ月間ノ請合金又
ハ其六ヶ月間船主ノ互ヒノ請合仲間ニ拂フヘキ金高

其十一 最終ノ航海中船ノ借主ノ積入タル商品ヲ先方ニ
引渡スヘキヲ引渡サバルニ付其借主ノ得ヘキ償金又ハ
船長及乗組人ノ過失ニ因リ其商品ニ損害ヲ加ヘタル氏
船ノ借主ノ得ヘキ償金

其十二 賣主ノ請取ルヘキ船ノ代價

其十三 船ヲ抵當ト為シテ貸タル金高

第一項ニ記シタル諸物品ノ賣拂ヒ代價ノ不足ナルキハ
第三第四第五第六第七第八第九項ニ掲ケシ金額ヲ請取
ル者ハ其請取ヘキ金高ノ全額ニ準シ割合ヲ受クヘシ然
レモ再ヒ航海ヲ為シタルキハ其航海ニ付テノ同工ノ債
主ハ前航海ノ債主ヨリ先取ノ權アルモノトス
前ニ記スル所ノ特權アル債主數人ナルキハ其先取ノ權
ハ後ニ記スル所ノ揭示又ハ登記ノ日附ノ順序ニ從ヒ之
ヲ定ムヘシ

佛百九十二條
第二百八十六條 前條ニ記スル所ノ諸件ニ關シタル債主ハ左
ノ方法ニ依リ其請取ヘキ金額ト其特權アルトテ証スルニ非
ザレハ之ヲ執行スルコトヲ得ス

其一 裁判所ノ諸入費ハ訴訟法ニ記載シタル方法ヲ以テ
掛リ裁判官之ヲ証スヘキコト

其二 航海ニ付テノ諸稅ハ收稅官吏ノ真正ナル受領証ヲ
以テ証スルコト

其三 水先案内料、難船ニ付救助ヲ受ケタルノ償金、入費及
謝金ハ航海ニ關スル支配官吏ノ證及其言渡シ又ハ場合
ニ因リ裁判上ニ用ユル所ノ諸証ニ據ルヘキコト

又前條ノ第三ニ記シタル監守者ノ謝金及監守ニ付テノ
諸入費及其第四第五ニ記シタル諸件ハ商法裁判所長官
ノ言渡ヲ以テ之ヲ證スルコト

其四 乗組人ノ給料ハ航海ニ關スル支配官署ニテ許可シ
タシ職送帳及船具取片附帳ヲ以テ之ヲ證シ其他船長ニ
關シタル償金ハ法律上ニ定メタル證ヲ以テスルコト

其五 航海中船ノ修覆及船ノ入用ノ為メノ買入及ヒ之カ
為メ航海中ニ為シタル積荷ノ賣拂ハ船長ノ作リシ目錄

ニシテ監定人ノ認メタルモノト船長ト乗組人中ノ重立
タル者トニテ定メタル賣拂ノ証書及其調書又ハ費用ノ
必要ナル旨ヲ記シタル他ノ証書ヲ以テ之ヲ證スルコト

其六 船ノ製造又ハ最終ノ航海前船ノ修覆ノ為メノ買入
ハ船長及船ノ持主ノ定メタル積書或ハ目錄又ハ勘定帳
ヲ以テ証スルコト但シ此場合ニ於テハ其寫ヲ出帆前若ク
ハ出帆後十日内ニ必ス商法裁判所ノ書記局ニ納ムルヲ
必要トス

其七 「コントラ、ア、ラ、グロス」ニ依テ貸レタル金額ハ第四百
二十七條ノ定期ニ循ヒ之ヲ證スヘシ
「コントラ、ア、ラ、グロス」ニ依テ金額ヲ貸タル者數人アルハ
ハ第四百三十七條ノ定規ニ循ヒ先取ノ權ヲ定ムヘシ
善意ヲ以テ「コントラ、ア、ラ、グロス」ニ依リ金額ヲ貸タル者

ハ其貸ノ果シテ船用ナルト否トヲ証スルニ及ハス

其八 海上受合ノ利息ハ受合ノ契約書及受合世話人ノ簿
冊ノ抜萃ヲ以テ之ヲ證シ又船主互ノ請合仲間ノ割合金
ヲ求ムルニハ其仲間ニ加入ノ簿冊ノ抜萃ヲ以テ之ヲ證
スルコト

其九 船ノ借主ノ得ヘキ償金高ハ裁判言渡ヲ以テ之ヲ証
スルコト

前條第一項ニ記シタル諸物品賣拂ノ代價ヲ分配スヘキ
ノ片ニ於テ損害ノ償ヲ拂フヘキ裁判言渡アリテ其償金
高未タ確定セザル片ハ其債主ハ場合ニ因リ概算ヲ以テ
之ヲ受取ルコトヲ得若シ過上金アル片ハ之ヲ返スヘキコト
ヲ保証人ヲ以テ之ヲ証スヘシ或ハ又分配ノ後ト雖モ償
ヲ拂フヘキノ言渡シアル片ハ債主ハ同様ノ受取方ヲナ

ス一ヲ得ヘシ

第十 船ノ賣買ハ第二百八十八條ニ記シタル方法ニ依リ
揭示及登記シタル賣買^証書ヲ以テ之ヲ證スル
其十一 船ヲ質トシテ貸シタル金額ハ次條ノ方法ニ依リ
揭示及登記シタル証書ヲ以テ之ヲ証スル

第二百八十七條

船ノ質入ハ証書ヲ以テ之ヲ為スヘシ

國內ニ於テハ航海支配官署ノ簿冊ニ質入レ証書ヲ記セサル
片又ハ又ハ外國ニ於テハ其地ノ領事館ノ簿冊ニ質入レノ証
書ヲ登記セサルノ片ハ其質入證ハ他人ニ對シ無効トス
此ニツノ場合ニ於テハ船ノ所屬ヲ証スル証書ニ其旨ヲ附記
スヘシ

航海支配官署ノ官吏及領事館ノ官吏ハ船ノ所屬ヲ証スル証
書ノ示シヲ得ザル片ハ其船質入ノ証書ヲ簿冊ニ登記スヘカ

ラス

船ノ所屬ヲ証スル証書ニ其質入レノ事ヲ附記シテ又其旨ヲ
航海支配官署又ハ領事館ノ簿冊ニ記入スヘシ

他人ニ對シ船ノ質入レノ効アラシムル為メニ第一項ノ登記
ノ外債主ハ必ス船ノ監守者ヲ置クヘシ且船ノ全部又ハ一部
ノ所有者船長タルヲ要ス

若シ監守者ヲ置カサル場合ニ於テハ債主ノ為メ船長ヲ監守
者ト見做スヘシ

佛百九十五條

第二百八十八條

船ノ全部又ハ一部ヲ隨意ニ賣買セントスル
片ハ必ス証書ヲ以テスヘシ若シ証書ヲ用ヰザル片ハ其賣買
ハ無効トス

國內ニテ船ノ賣買ヲ為サントスル片ハ必ス私ノ證書又ハ公
正ノ證書ヲ以テスヘシ此場合ニ於テ其証書ヲ航海支配局ノ

簿冊ニ登記セサル片ハ他人ニ對シ其効ナキトス

外國ニ於テ船ノ賣買ヲナス片ハ領事館ノ書記^局ノ官吏ノ作りタル証書ヲ以テシ而シテ之ヲ領事館ノ簿冊ニ登記スヘシ領事ハ其賣買証書ノ公正ノ寫ヲ其船ノ所屬ヲ証スル証書ヲ登記シタル航海支配局ニ送ルヘシ

何レノ場合ニ於テモ船ヲ賣拂フタル旨ハ船ノ所屬ヲ証スル証書ニ記スヘシ

此事ニ付航海支配局ノ官吏ハ船ノ所屬ヲ証スル証書ノ差出ヲ受ルニ非レハ船賣拂ノ証書ヲ簿冊ニ登記スヘカラス又領事館ノ官吏ハ船ノ所屬ヲ証スル証書ノ差出ヲ受ルニ非レハ船賣拂ノ証書ヲ作り且之ヲ簿冊ニ登記スヘカラス一船舶ニ付一通以上ノ賣拂証書アルニ於テハ船ノ所屬ヲ證スル証書ニ附記シタル日付ニ依テ賣買ノ權利ヲ定ムヘシ

第二百八十九條 外國在留ノ領事ハ伊太利國ノ商船タルヲ証スル証書中船舶ニ付債主ノ特權アル負債ヲ既ニ拂ヒシ旨又ハ其負債アラサル旨ノ記載アル場合ニ非レハ船舶賣買ノ証書ヲ作り渡スヲ得ス

佛百九十三條

第二百九十條 船舶ニ付其賣主ノ債主タル者ノ特權ハ權利ノ消滅スル通常ノ方法ノ外ニ左ノ諸件ニ因リ消滅スヘシ

第一 次卷ニ定メタル法式ニ循ヒ裁判手續ヲ經タル上船ヲ賣拂フ事

第二 船ノ持主隨意ニ之ヲ賣拂フタル場合ニ於テ三ヶ月ノ期限ノ終リタル事

三ヶ月ノ期限ハ左ノ日付ヨリ起算スヘシ

其繫船セル港ニ於テ賣拂フタル片ハ其隨意ニ賣拂フタル証書ヲ書入質役所又ハ領事館ノ簿冊ニ登記シタル日又其

証書ヲ出帆ノ後ニ登記シタル片ハ歸帆ノ日
若シ特權アル債主其特權アル旨ノ言渡ヲ得ンタノ右ノ期限
内ニ船ノ買主ヲ裁判所ニ呼出シタル片ハ其買主ニ對シテ特
權ハ消滅セサルモノトス

第二卷 船舶ヲ質物トナスル船舶ヲ差押フル事及船舶ヲ
裁判所ニテ賣拂フ事

第二百九十一條 船舶ハ次條ニ記シタル法式ニ循ヒ又ハ賣拂
ヒ或ハ之ヲ差押フテ得ベシ

船舶ニ付債主ノ權利及特權ハ後ニ記シタル法式ニ循フ片ハ
消滅スルモノトス

第二百九十二條 債主負債者ニ要決ノ書ヲ送リタルヨリ二十
四時ノ後ニ非レバ其船ノ差押ニ取掛ルヘカラス
若シ船具ヲ私カニ取去ルノ懼アル片ハ「アレテール」ハ要決ノ

書ヲ送達スルノ法式ヲ行ハスレテ訴訟法ニ循ヒ直ニ差押ユ
ヘキ旨ヲ言渡ス「」ヲ得ヘシ

第二百九十三條 船ノ持主ニ對シ船ニ關スル別段ノ權利ヲ得
ント求ムルニ非スレテ通常ノ權利ヲ得ント求ムル片ハ要決ノ
書ヲ其持主ニ送ルヘシ

若シ船舶ニ付特權ヲ有スル者權利ヲ得ントスル片ハ要決ノ
書ヲ船長ニ送ルヘシ

第二百九十四條 使吏ハ船舶差押ヘノ始末書ニ左ノ件々ヲ記
スヘシ

差押ヘテ為シタル場所其年月日時若シ一日ニシテ其手續
ヲ為シ終ラサリシ片ハ其終ル迄ノ時間

債主ノ姓名職業本籍又ハ寄留所

使吏ノ姓名及証人ノ姓名年齢及住所

債主ノ有スル證書

償還ヲ訴フル金高

船ノ差押ヲ訴フル裁判所々在ノ地及其船ノ碇泊スル地ニ
債主ノ撰ミタル住所

船ノ持主及船長ノ名姓、本籍又ハ寄留所

船名、種類、噸數

又始末書ニハ船ニ屬スル小艇、器具、兵器、彈藥、食料ノ概畧ヲ載
録スヘシ

其始末書ニハ双方ノ出席人、証人及使吏姓名手署ヲ為スヘシ
又使吏ハ預リ人ヲ定メ其預リ人ハ始末書ニ手署ヲ為スヘシ

佛二百一十條

第二百一十條 船ノ持主ノ本籍或ハ寄留所其差押ヲ為シタ
ル邑内ニアル片ハ差押ノ日ヨリ三日内ニ差押始末書ノ寫ヲ
其持主ニ送達シ且船賣拂ノ手續ノ時立會ヲ為サシムル為メ

民事裁判所ニ之ヲ呼出スヘシ

若シ船ノ持主其邑内ニ本籍又ハ寄留所アラサル片ハ始末書
ノ寫及呼出狀ヲ船長ニ送達スヘシ又船長アラサル片ハ持主
ノ名代人又ハ船長ノ名代人ニ之ヲ送達スヘシ

若シ持主外國人ニシテ伊太利國內ニ住居アラサル片ハ訴訟
法第百四十一條及第百四十二條ニ循ヒ始末書ノ寫并呼出狀
ヲ送達スヘシ

第二百九十六條 船ノ賣拂ヲ言渡シタル片ハ裁判所ニ於テ其
賣拂ニ付テノ要件ヲ定メタル後双方ノ者ヲ掛リ裁判官ニ引
渡スヘシ掛リ裁判官ハ双方ノ者ト共ニ競賣ノ時日ヲ定メ且
其他之ニ管スル必要ノ手續ヲ行フヘシ又掛リ裁判官ハ公告
ヲ為スヘキ競賣言渡書ノ寫ヲ作ルヘキ旨ヲ書記役ニ命スヘ
シ

第二百九十七條 競賣ノ言渡シ書ニハ左ノ件々ヲ記スヘシ

債主ノ姓名職業本籍又ハ寄留所

債主ノ有スル証書

償還ヲ求ムルノ金高

船ノ差押ヲ訴ヘタル裁判所々在ノ地及其船ノ破泊スル地

ニ擇ミタル住所

船ノ持主ノ姓名本籍又ハ寄留所

船名種類及噸數且己ニ船ヲ舩装シ又ハ舩装セントスル所

ハ其船長ノ姓名

船ノ現在セル場所

船ニ属スル小舩器具兵器彈藥及食料

原告代書人ノ姓名

競賣ニ付テノ要件

競賣ヲナスベキ期日

佛二百三條 第二百九十八條 競賣ノ言渡書ヲ貼付シテ公告スヘキ場所ハ

左ノ如シ

差押ヘタル船ノ大橋

繫船シタル港内ノ通衢及波戸場

商人集會場アル地ニ於テハ其集會場

又言渡書ノ抜抄ヲ競賣ノ期日ヨリ三日前ニ其地ノ裁判公告

ヲ刊行スル新聞紙ニ載スヘシ

佛二百六條

第二百九十九條 三十噸以上ノ船ヲ差押フル時ハ競賣ノ言渡

書ヲ八日毎ニ三度公告スヘシ

其言渡書ノ初度ノ公告ヲナシタル後掛リ裁判官ハ書記局ノ

取次ニテ附直段書ヲ請取ルヘシ

第三次ノ公告ノ後ニ至リ掛リ裁判官ノ豫シメ定メシ期日ニ

佛二百六条

競賣ヲ為シ蠟燭ノ全ク消盡スルマテニ最高ノ價ヲ付ケシ者
ヲ以テ別段ノ法式ヲ行フコトヲ買主トスヘシ
第三百條 至重ノ原由アルキハ掛リ裁判官ハ負債者ノ願ニ依
リ又ハ職務ヲ以テ一度或ハ兩度限り更ニ七日ヲ隔テ競賣ヲ
延ハスコトヲ言渡スヲ得ヘシ

佛二百七条

第三百一條 小艇及其他三十噸以下ノ船ヲ差押ヘタル時ノ言
渡書ハ其船ノ櫓若シ櫓ナキキハ船ノ著シキ場所又裁判所及
波戸場ニ三日間引續テ貼付レ且新聞紙ヲ以テ公告シタル後
ハ別段ノ法式ヲ行ハス裁判所ニ於テ競賣ヲナスヘシ
差押ニ付テノ始末書ノ送達ヨリ競賣ヲナスノ日マテハ全ハ
日ヲ隔ツヘシ

佛二百八条

第三百二條 船ノ競賣ヲナシタル上ハ船長ノ職ハ自ラ罷ムモ
ノトス但シ船長ヨリ船ノ持主或ハ持主ニ等シク義務ヲ負フ
者ニ對シ損失ノ償ヲ得ント訴フルコトヲ得ヘシ

佛二百九条

第三百三條 競賣ニテ買入レタル船ノ噸數如何シテ問ハス買
主ハ二十四時間ニ其代金ヲ拂フカ又ハ之ヲ裁判所ノ書記局
ニ預クヘキ否ヲサルキハ禁錮ヲ受クヘシ
若シ買主二十四時間ニ代金ヲ拂ヒ又ハ書記局ニ預ルコトヲナ
ササルニ於テハ更ニ裁判所ノ言渡書ノ一次ノ貼付公告ヲナ
シ其日ヨリ三日ノ後再ニ其船ヲ競賣ニスヘシ但再度ノ競賣
ノ片ノ附直段初度ノ競賣ノ附直段ヨリ低下ナル片ハ以前ノ
買主己ノ附ケ直段ニ充ル迄ノ不足ヲ償ヒ且費用損失等ノ高
ク償フヘシ若シ之ヲ償ハサルキハ禁錮ヲ受クヘシ

佛二百十条

第三百四條 船ト附屬品ト持主ノ異ナルキハ其附屬品ノ持主
船ノ競賣前ニ附屬品ヲ船ト分別スヘキ訴状ヲ裁判所ノ書記

局ニ差出スヘシ

若シ船及附属品ヲ既ニ競賣セシ後ニ同上ノ訴ヲナシタルハ其附属品ノ持主ハ競賣代金ノ一部ヲ買主ヨリ賣主ニ渡ス
トニ付故障ヲ述フルヲ得ヘシ

佛二百十條

第三百五條 同上ノ訴ヲナスニ付テノ願書ニハ裁判所ニ船ノ
差押ヲナシタル債主ヲ呼出スヘキ旨并ニ訴訟法第六百四十
七條ノ定規ニ循ヒ願人ノ本籍又ハ擇ミタル住所ヲモ記スヘ
シ

若シ裁判所ニ於テ願書ヲ却下シタルハ原告人ハ其費用并
ニ損害ノ償ノ外五百リールニ至ル迄ノ罰金ヲ言渡サルヘシ

佛二百十二條

第三百六條 船ノ賣拂代價引渡ニ付テ故障ヲ述フル者ハ其賣
拂ヨリ三日間ニ之ヲ為スヘシ三日ノ期限後ニ至リテハ其訴
ヲナスコトヲ得ス

佛二百十三條

第三百七條 前條ニ記シタル故障ヲ述ル債主ハ掛リ裁判官ヨ
リ定メタル期限内ニ已レノ得シト欲スル權利ノ證書ヲ裁判
所ノ書記局ニ出スヘシ若シ三日内ニ其證書ヲ出サズルハ
其債主ヲ参加セシムルコトヲ代金ヲ分派スヘシ

佛二百十四條

第三百八條 特權アル債主數人ニ代金ヲ分派スル順序ハ第二
百八十五條ニ記スル所ニ循フヘシ又其他ノ債主ハ其得ヘキ
金高ノ割合ヲ以テ平等ニ分派ヲ受クヘシ

特權アル債主ハ其順序ニ從ヒ元金ト與ニ利金費用高ノ償ヲ
得而シテ後他ノ債主亦元金ト與ニ利金費用ヲ得ヘシ

第三百九條 船舶ヲ差押ヘ他人ニ預ルハ訴訟法第三編第十一

卷第一章ニ記スル場合ニシテ且其法式ニ循フヘシ

差押ヘニ付テノ裁判言渡シハ必ラス商法裁判所ニ於テナス
ヘシ

佛二百十五條

第三百十條 出帆ノ用意ヲナス船ハ其航海ヲナサントスルニ
付負フタル債ノ為メニ非レハ抵償トシテ差押ヘテ受ケ又ハ
他人ニ預クル為メ差押ヘテ受ルヲナカルヘシ但シ此債ノ為
メト雖氏之ヲ拂フヘキノ保證ヲ立ル片ハ抵償トシテ之ハ他
人ニ預クル為メノ差押ヲ免カルヘシ
船長既ニ航海ノ為メ必要ナル書類ヲ受取りタル片ハ出帆ノ
用意ヲ為シタルト者做スヘシ

第三卷 船ノ持主ノ事

佛二百十六條

第三百十一條 總テ船ノ持主ハ船長ノ所為ヲ已レニ擔當シ其
船又ハ職送ノ為メ船長ノ結ヒタル契約ノ義務執行スヘシ
何レノ場合ニ於テモ船ノ持主ハ船ト船賃トヲ拋棄スルニ因
リ其義務ヲ免ル、トテ得ヘシ
然レモ持主船長ノ職ヲ兼有シタル片ハ船ト船賃トノ拋棄ニ

佛二百十七條

因リ義務ヲ免ル、トテ得ス又船ノ持主數人アリテ其中ノ一
人船長ノ職ヲ兼有シタル片ハ船及其職送ノ為メ負フタル債
ノ償ヲ其分ケ前ノ割合ヲ以テ擔當スヘシ
第三百十二條 兵役ノ為メ職送シタル船ノ持主ハ其船中ニ在
ル軍人及ヒ乗組人ノ海上ニ於テ為シタル暴行及罪犯ノ償ニ
付テハ其嘗テ立タル保證ノ高ニ至ル迄ノ外擔當スルニ及ハ
ス
若シ船ノ持主其暴行及罪犯ニ加ハリタル片ハ自ラ其責ニ任
セザルヘカラス且刑法ニ循ヒ其罰ヲ受クベシ

佛二百十八條

第三百十三條 船ノ持主ハ船長ニ暇ヲ與フルトテ得ヘシ若シ
別段ノ契約アラザル片ハ之カ為メ船長ニ償ヲ為スニ及ハス
第三百十四條 若シ暇ヲ得タル船長持主中ノ一人タル片ハ其
所有權ヲ棄テ其分前ノ金高ヲ他ノ持主ヨリ受取ラント要ム

佛二百十九條

ルヲ得ヘシ

其分前高ハ評價人ヲ以テ定ムヘシ

第三百十五條 船ノ持主アリテ其^全員ノ利益ニ關シタル事ニ

付テハ多數ノ説ニ從ヘシ

多數トハ人員ノ多數ニ關セス船價ノ半額以上ニ當ル持主ノ
分前高ニ關スルモノトス

船ノ競賣ハ少クトモ其價ノ半高ニ當ル分前ヲ有スル持主ヨ
リ願出ルニ非レバ裁判所ニ於テ之ヲ許スヘカラス但シ之ニ
及シタル契約書アル片ハ格別ナリトス

第三百十六條 造船ノ契約ヲ改正シ及取消スヘハ必ス書面ニ
作り其製造スル地ノ航海支配局ノ簿冊ニ登記スヘシ若シ此
手續ヲ為サ、ルニ於テハ其効ナカルヘシ

造船人又ハ造船人ニ非ル者自己ノ財産ヲ以テ造船ヲ企テタ

ル片他人ノ其共分ニ加入スルノ届或ハ其共分ヲ止ムルノ届
モ亦タ必ス書面ヲ以テ為スヘシ否ラサル片ハ其効ナシトス
又其造船スル地ノ航海支配局ノ簿冊ニ之ヲ記入セザルニ於
テハ他人ニ對シ其効ナカルヘシ

第三百十七條 造船人ハ抗拒スヘカラザル災害ノ生シタル場
合ニ非レハ其請合タル造船ノ契約ヲ取消スヘシ得ス

又造船人ノ死去シタル片ハ造船ノ契約ハ民法第一千六百四十
二條及第一千六百四十三條ニ依リ消滅スヘシ

造船ヲ命シタル者ハ造船人ノ奸計ヲ行フタル場合ニ於テ造
船ノ契約ヲ取消スヘシ得ヘシ其他ハ民法第一千六百四十一條
ノ定規ニ循フニ非レハ之ヲ取消スヘシ得ス

第四卷 船長ノ事

第三百十八條 總テ船ヲ指揮スル船長ハ其職務上ノ過失ニ付

キ責ニ任スヘシ

佛三百十九條

第三百十九條 船長ハ其托セラレタル商品ニ付已レニ擔當スヘキモノトス

船長ハ其商品ヲ受取タル書面ヲ差出スヘシ此書面ヲ名付テ積荷目錄ト云フ

佛三百二十條

第三百二十條 水夫并ニ乗組人ヲ撰ミ之ヲ雇ヒ入ルハ船長ノ職務トス但シ船ノ持主ノ住地ニ於テ船長此事ヲ為スルハ其持主ト相談スヘシ

佛三百二十一條

第三百二十一條 三十噸以上ノ船ヲ指揮スル船長ハ州又ハ郡ノ航海支配局ノ官吏ノ每葉ニ番號ヲ附シ且畧手署ヲ為シタル日用簿ヲ必ス所持スヘシ其日用簿ニハ左ノ件ヲ記スヘシ

航海中ニ指圖ヲ為シタル事件及發見シタル事件

意外ノ損失投荷其他不慮ノ危險并ニ總テ航海ニ付肝要ナル事件及航海中決定ヲ為シタル事件

船ニ付テノ諸品受取高并ニ消費シタル高

積込ニタル物品

其他總テ船長ノ職務ニ關シタル諸件并ニ計算又ハ訴訟ヲ為スノ原由タルヘキ事件ヲ記スヘシ

佛三百二十二條

第三百二十二條 船長ハ高船規則ニ定メタル方法ニ循ヒ其船ノ見聞ヲ受クヘシ

船長ハ出帆ノ前ニ其船ノ積荷ノ模様荷足ノ平均磅及其鎖其他航海ニ必要ナル器具ノ整備セルヤ否ヲ検査スヘシ但シ高船規則第八十條ニ定ムル所ト相觸ルハナカルベシ

佛三百二十三條

第三百二十三條 船長ハ左ノ書類ヲ船中ニ備ヘ置クベシ
船所有ノ証書

船ノ所属ヲ証スル証書

乗組人ノ姓名簿

積荷目録及船借入証書

官吏ノ船ヲ見閲セシ始末書

税銀ヲ拂フタル税官ノ受取書又ハ税銀ヲ拂フヘキノ保証
ヲ立タルニ付税官之ヲ承諾シタルノ証書

佛三百二十七条 第三百二十四條 船長ハ港河又ハ堀割出入ノ時必ス船中ニ在
ルヘシ

船長並ニ乗組中ノ者ノ未タ曾テ出入セシナキ港灣河又ハ
堀割ニ其船ヲ乗入ルヘキ時ハ船費ヲ以テ水先案内者ヲ雇入
ルヘシ

佛三百二十八条 第三百二十五條 船長前四條ノ定規ニ違ヒ船主又ハ荷主ニ損
害ヲ生シタル時ハ自カラ其責ニ任スヘシ

佛三百二十九条

第三百二十六條 船長ハ荷主ノ承諾書ヲ得スシテ甲板工ニ荷
物ヲ置キ之カ為メ其荷物ニ損害ヲ生シタル片ハ其償ヲ擔當
スヘシ

此定規ハ第三百七十八條ニ定メタル航海ニハ適用スヘカラ
サルモノトス

佛三百三十条

第三百二十七條 船長ハ抗拒スヘカラサル災害ノ為メ損害ヲ
受ケタルノ証アル片ニ非レハ其責ヲ免カルヘカラス

第三百二十八條 既ニ船中ニ在ル船長及乗組人又ハ出帆スヘ
キ為メ小艇ニ乗り本船ニ趣カントスル船長及乗組人ハ其航
海ヲ為スニ付負フタル所ノ債ノ為ニ非レハ差留ヲ受クルヲ
ナカルヘシ又此負債ノ為メト雖モ保証人ヲ立ル時ハ差留ヲ
受ルヲナカルヘシ

佛三百三十一条

第三百二十九條 船ノ持主又ハ其名代人ノ住居ノ地ニ於テハ

船長別段其承諾ヲ得スレテ船ヲ修覆シ帆布網具其他船ノ為
ノ入用ナル諸品ヲ買入レ又ハ船ヲ抵當トシテ金高ヲ借入レ
又ハ船ヲ貸貸スルホノヲナスヘカラス

第三百三十條 船ノ持主數人アリテ皆承諾ノ工船ヲ貸貸シタ
ル時持主中ノ者之ヲ職送スルニ必要ナル費用ノ醵金ヲ承諾
セサル者アルニ於テハ船長其者ニ對シ其費用ヲ出スヘキ要
メヲ為シタル後ニ至リ高法裁判所又ハ商法裁判所在ラザル
ニ於テハアレテールノ允許ヲ得タル上其船ノ中ニテ其者ノ
所有スル部分ヲ引當トシテ金高ヲ借入ル、トヲ得ヘシ但シ
此場合ニ於テハ費用ノ醵金ヲ承諾セサル者其借金ノ償ヒヲ
擔當スヘシ

第三百三十一條 航海中船ヲ修覆シ又ハ食料ヲ買入ル、トノ
必要ナル時ハ船長其旨ヲ始末書ニ作り乗組人中ノ重立タル

者ヲシテ之ニ姓名手署ヲ為サシメシ後伊太利國內ニ於テハ
高法裁判所ノ允許ヲ得又高法裁判所アラザルハアレテ
ルノ允許ヲ得タル上又ハ外國ニ於テハ在留領事官吏ノ允許
ヲ得若シ領事館アラザル時其地ノ官吏ノ允許ヲ得
高ヲ借入又ハ其荷物ヲ貨物ト為シ或ハ賣拂ヒ同工ノ金高ヲ
辨用スル、トヲ得ヘシ
若シ乗組人ノ食物盡キタルハ船長之ヲ買入ル、トヲ拒ミタ
ルニ於テハ乗組人ノ願ニ依リ前項ニ記シタル官吏ヨリ同工
ノ手續ヲ為スヘキノ允許ヲ為スヘシ
商品ヲ賣拂フ片ハ競賣ノ方法ヲ用井ヘシ
船ノ持主又ハ其名代人タル船長ハ荷卸ノ地ニ到着シタル時
其地ノ時相場ニ循ヒ嘗テ賣拂フタル荷物ノ價ヲ償フヘシ但
シ其相場ハ嘗テ賣拂フタル品物ト同質同種ナル品物ノ相場

タルヘシ

荷主ノ一人ナル片又ハ數人ナル片ハ其協議ニテ荷物ヲ賣拂
ヒ又ハ質物ト為スヲ拒ムヲ得ヘシ此場合ニ於テハ其積
荷ヲ直ニ卸スヘシ但シ其所ニ至ル迄ノ運賃ハ之ヲ拂ハサル
ヘカラス

若シ數人ノ荷主ノ中ニ之ヲ拒マサル者アル片ハ荷物ヲ卸サ
ントスル者自己ノ荷物ノ運賃總高ヲ拂フヘシ

佛三百三十五條

第三百三十二條 船長ハ外國ノ港ヨリ本國ニ歸ラントスル前
ニ其積荷ノ模様及其價並ニ借入金高及貸主ノ姓名住所ヲ簿
計書ニ記シ之ニ姓名手署ヲ為シ船ノ持主又ハ船ノ總支配人
又ハ其名代人ニ之ヲ送ルヘシ

若シ外國ノ港ニ於テ荷主自己ノ費用且自己ノ手ニテ積荷ヲ
為シタル片ハ船長ハ自ラ姓名手署ヲ為シタル積荷目錄ノ寫

及借入シ金高並ニ其貸主ノ姓名住所ヲ記シタル書面ノミヲ
船ノ持主又ハ船ノ總支配人又ハ其名代人ニ送ルヘシ

佛三百三十六條

第三百三十三條 船長已ムヲ得サルノ事情ナクシテ船又ハ船
中ノ器具食料ヲ引當トシテ金高ヲ借入レ又ハ積荷及食料ヲ
質トシ或ハ之ヲ賣拂ヒ又ハ無實ノ損害及費用ヲ計算書中ニ
書加ヘタル片ハ船ノ總支配人ニ對シテ其責ニ任シ其借金ヲ
償ヒ又ハ品物ノ價ヲ償フヘキ義務ヲ擔當スヘシ但シ船長此
事ニ付別ニ犯罪ノ訴ヲ受クヘキ事情アル片ハ刑事裁判所ニ
告訴セラルヘシ

佛三百三十七條

第三百三十四條 船長ハ船ノ航海ニ堪ヘサルノ証ヲ得タル時
ノ外船ノ持主ヨリ別段ノ委任狀ヲ請取タルニ非レバ船ヲ賣
拂フヲ得ス

船ノ航海ニ堪ヘサルヲ及之ヲ賣拂フハ内國ニ於テハ商法

裁判所外國ニ於テハ領事ヨリ言渡スヘシ

船ノ賣拂ハ公ケノ競賣ヲ以テスヘシ

佛二百三十八條

第三百三十五條 航海ノ為メ雇ハレタル船長ハ必ス其航海ヲ
遂クヘシ若シ之ヲ遂スレテ船ノ持主又ハ荷主ノ為メ損失ヲ
生シタルハ船長之ヲ償ハサルヘカラス

佛二百三十九條

第三百三十六條 積荷ヨリ得ル所ノ利益ヲ共分スヘキ契約ニ
テ航海ヲ為ス船長ハ巴レ一人ノ利益ノ為メ別段ニ積荷シテ
賣買ヲナスヘカラス但シ之ニ及シタル契約アルハ格別ト
ス

若シ此定規ニ違フハ船長ノ積荷ハ利益共分ノ契約ヲ為シ

タル者ノ利益トシテ取工ラルヘシ

佛二百四十一條

第三百三十七條 船長ハ航海中如何ナル危難アリト雖モ役員
及乗組中最モ年長ノ者少クモ二人ノ者ト相談シタル上ニ非

レハ其船ヲ抛棄スヘカラス

此場合ニ於テハ船長ハ必ス最後ニ其船ヲ去ルヘク且日用簿
冊海陸ノ圖面其他成ルヘキ文ヶ貴重ノ物品ヲ運出スヘシ

若シ船長運出シタル此等ノ物品ヲ意外ノ事ニ因リ失フタル
ハ其責ニ任スルナシ

佛二百四十條

第三百三十八條 船長ハ其向フヘキ港ニ着シタルハ又ハ便宜
ニ依リ或ハ危難ノ為メ已ムヲ得ス他ノ港灣ニ着シタルハ
船中ノ日用簿ニ檢印ヲ為サシメ且航海ニ付テノ報申書ヲ差
出スヘシ

其報申書ニハ左ノ件々ヲ記スヘシ

船ノ出帆シタル場所及時日

船路

船ノ危難

二百四十二條
二百四十三條
二百四十四條
二百四十五條

投荷ノ一及船並ニ積荷保存ノ一ニ付航海中ニ為シタル評
議及乗組人ノ見込ヲ述ヘタル一
船ノ破損及其他総テ航海中ノ著シキ模様

第三百三十九條 其報申書ハ着港又ハ上陸ノ後二十四時内ニ
高法裁判所ノ長官ニ差出スヘシ若シ高法裁判所アラザル地
ニ於テハ「ブレテール」ニ之ヲ差出スヘシ
又外國ノ地ナル片ハ領事若シ領事ナキ片ハ其地ノ管轄廳ニ
之ヲ差出スヘシ

若シ伊太利王國ニテ此申報ヲ為シタル片ハ必ス其書面ハ高
法裁判所ノ書記局ニ納ムヘシ又「ブレテール」其書面ヲ受取タ
ル片ハ遲延ナク之ヲ高法裁判所ノ長官ニ送ルヘシ

第三百四十條 前條ニ述フル所ノ官吏ハ船長ヨリ差出タル報
申書ヲ証セシムル為メ乗組人ヲ問訊シ又旅客アル片ハ之ヲ

佛二百四十七條

モ問訊シ其答辯書ヲ取り其他必要ナリト思料スル憑據ヲ集
ムヘシ
乗組人又ハ旅客ノ證セサル報申書ハ裁判所ニ於テ船長ノ義
務ヲ解除スルノ證トスル一ナシ但シ報申書ヲ差出シタル地
ニ船長唯一人存命ナルヲ得タル片ハ格別ナリトス

佛二百四十八條

第三百四十一條 危急ノ片ニ非レハ船長其報申書ヲ差出ス前
ニ積荷ヲ卸ス一ヲ得ス

佛二百四十九條

第三百四十二條 航海中船中ノ食料缺乏スル一アル片ハ船長
乗組人中ノ重立タル者ニ相談シタル工食料ヲ所持スル者ア
ラハ船中ノ共用ニ充テン為メ其者ヲシテ食料ヲ出サシムヘ
シ但シ其代金ハ持主ニ拂フヘシ

第五卷 乗組人雇入ノ事並ニ其雇賃ノ事

佛二百五十五條

第三百四十三條 乗組人トハ規則ニ依リ定メタル乗組人姓名

簿中ニ掲載シタル船長、役員、水夫及「ムース」船中ノ給仕ヲ云フ
此姓名簿ニハ必ス乗組人ニ與フヘキ給料又ハ共分スヘキ利
益ノ割前ヲ記スヘシ又其他ノ契約ハ此姓名簿或ハ別段ノ契
約書ニ依テ証ト為ス₁ヲ得ヘシ

第三百四十四條 姓名簿ニ非ル別段ノ契約書ハ本國內ニ於テ
ハ航海支配官吏ノ面前外國ニ於テハ領事ノ面前ニテ之ヲ記
スヘシ

航海支配官吏及領事館ノ官吏ハ其作りタル契約書ヲ簿冊ニ
登記シ且其寫ヲ船長ニ渡スヘシ船長ハ其寫ヲ請取りタル後
二十四時内ニ之ヲ船中日用簿ニ謄寫シ又ハ謄寫セシムヘシ
而シテ之ヲ公正ニセン為メ其日用簿ヲ航海支配官吏又ハ領
事ニ送り其檢印ヲ請フヘシ

口述ノ契約及前ニ述フル所ノ法式ヲ行ハザル契約書ハ効ナ

キモノトス

領事アラサル外國ニ於テ人ヲ雇入タル片ハ其契約書ハ船ノ
書記役ニ之ヲ作ラシメ船長ト其雇人ト姓名手署スルヲ以テ
足レリトス

若シ其雇人姓名手署スルヲ知ラサルカ又ハ能ハサル片ハ
人ノ証人ヲ立テ其契約書ニ姓名手署ヲ為サシムヘシ

第三百四十五條 雇入契約書ニハ其雇入ノ期限並ニ何用ニテ
何レノ地ニ航海スルノ旨ヲ明細ニ記シ置ヘシ

商業上ノ機密ニ關スル事件アル片乗組人中ニモ此事ヲ通知
シ且乗組人承諾シタル時ハ航海ヲ為スヘキ港及航海ヲ為ス
ノ旨趣ハ契約書ニ記載セスレテ雇入ル₁ヲ得ヘシ

此契約書ハ前條ニ定ムル所ノ法式ニ循ヒ之ヲ記スヘシ

第三百四十六條 若シ證書中雇入ノ期限ヲ約定セザリシ片ハ

其企テタル航海ノ終ル迄ハ雇入タルモノト思料スヘシ又雇
人ハ其航海中ハ其役ニ服スヘキモノトス
航海ヲ終リ直チニ歸港スル場合ニ於テハ其雇人ハ本國內其
船ノ定マリシ碇泊場ニ歸着スル迄ハ必ス其役ニ服スベシ又
不得止事故ニ因リ他港ニ寄セタル片ト雖モ之ヲ別段ノ航海
トスヘカラス

航海期限ノ約定不明ナル片ハ其船一度航海ヲ為シ積荷ヲ
卸シタル後本國內其船ノ定マリタル碇泊場ニ歸着スル片ハ
其度毎ニ雇入ノ期限ハ終リタルモノト思料スヘシ
但シ反對ノ契約アル片ハ此限ニアラス

第三百四十七條 總テ乗組人ノ雇限終リタル片ハ船長ヨリ必
ラス其暇状ヲ與フヘシ
暇状ニハ船名並ニ其形状、船長ノ姓名及乗込ノ日ヲ記スヘク

又船中日用簿ニ之ヲ與ヘタル旨ヲ登記スヘシ若シ船長暇状
ヲ記スル能ハサルニ於テハ副船長船長ノ面前ニ於テ之ヲ記
シ姓名手署ヲ為シ且ニ名ノ証人ヲ立テ姓名手署ヲ為サレム
ヘシ

第三百四十八條 外國在留ノ領事館官吏ハ本國ノ商船ニ付至
重ノ道理アル場合又ハ其船本國ニ向テ歸帆セント欲スル場
合ニ於テ歸帆ノ為メ必要ナル時ハ雇入ノ期限ヲ延スヘク得
ヘシ此場合ニ於テハ其雇人ハ是迄ノ割合ヲ以テ雇賃ヲ受取
ルノ權ヲ有スヘシ

第三百四十九條 航海ノ種別ハ商船規則ニ循ラベシ
第三百五十條 船長及乗組人ハ船持主ノ許ヲ得ス又運賃ヲ拂
フナク自己ノ利益ノ為メ其船ニ高品ヲ積入ル、ヘク得ス
但雇入ノ契約ニ依リ別段許ヲ得タル片ハ此限ニ非ス

第三百五十一條

船ノ持主又ハ船長或ハ荷主出帆前ニ航海ヲ止ムルハ水夫等航海中雇入ノ契約ヲ為シタルト月雇ノ契約ヲ為シタルト問ハス其船ヲ搬送スル為メ使用ヲ受タル日數ニ准シテ其雇賃ヲ受取ルヘシ又水夫等雇賃ノ一部ヲ先拂ニテ受取リタルハ償トシテ之ヲ已レニ有スルヲ得ヘシ
又雇賃ノ先拂ヲ得サルハ凡ソ思料シタル航海時間ニ准シ契約シテ定メタル一月分ノ雇賃ヲ償トシテ受取ルヲ得ヘシ
又若シ既ニ出帆シタル後航海ヲ止ムルアルハ航海中雇入ノ約定ヲ為シタル水夫等其約定ニ循ヒ雇賃ノ總高ヲ受取ルヲ得ヘシ
又月雇ノ契約ヲ為シタル水夫等ハ既ニ使用ヲ受ケシ時間ノ

第三百五十二條

雇賃ト其航海ヲ止メタル日ヨリ其航海ヲ為スニ付テノ見積リ日數ノ半迄ノ雇賃ヲ償トシテ受取ルヲ得ヘシ
又此場合ニ於テハ水夫等航海中ノ雇入ナルト月雇ナルトヲ問ハス前ニ記シタル償高ノ外更ニ途中其航海ヲ止メタル地ヨリ出帆ノ港ニ至ル迄ノ歸程旅費ヲ受取ルヲ得ヘシ但シ持主船長荷主等其水夫等ヲシテ出帆ノ港ニ到ルヘキ他ノ船ニ乗組マシメタルハ格別ナリトス
第三百五十二條 出帆前ニ其船ヲ差向ケントスル地ト商賣禁止ノ令アルハ又ハ出帆前ニ官命ニテ船ヲ差留メタルハ水夫等其船ヲ搬送スルニ付使用ヲ受ケタル日數ノ雇賃ノミヲ受取ルヲ得ヘシ
第三百五十三條 既ニ出帆シタル後ニ商賣禁止ノ令アルハ又ハ差留ヲ受ケシハ左ノ定規ニ循フヘシ

第三百五十三條

商賣禁止ノ場合ニ於テハ水夫等其使用ヲ受ケシ時間ニ准
シテ其雇賃ヲ受取ルヘシ差留ヲ受ケタル場合ニ於テハ月
雇ノ水夫等ナレハ其差留ノ時間雇賃ノ半高ヲ受取ルヘシ
又航海中雇入ノ水夫等ナレハ其契約ノ如ク雇賃ヲ受取ル
ヘシ

佛三百五十五條

第三百五十四條 若シ航海ノ時間期日ヨリ永引キタル時ハ航
海中雇入ノ水夫等其永引キタル日數ニ準シテ雇賃ヲ受クヘ
シ

佛三百五十六條

第三百五十五條 船ノ借入証書ニ定メシ地ニ到ラサル内途中
ニテ故サラニ荷物ヲ卸シタルト雖モ水夫等ノ雇賃ヲ減スヘ
カラス

佛三百五十七條

第三百五十六條 水夫等荷物賣買ノ利得ノ一部ヲ得ヘキ契約
又ハ雇入ラレタル時ハ抗拒スヘカラザル災害ノ為メ航海ヲ

止メ又ハ航海ノ期日永引タルト雖モ其償ヲ受取ルヘカラス
又其永引タル時日ノ雇賃ヲ受取ヘカラス

又荷主ノ所為ニヨリ航海ヲ止メ又ハ航海ヲ永引カシムル
アル片ハ乗組人ハ其永引キタルニ付テ船ノ貸賃中ヨリ其一
部ヲ受取ルヲ得ヘシ

其貸賃ヲ持主ト乗組人トニ分派スル割合ハ嘗テ船ノ貸賃ヲ
其持主ト乗組人トニ分ツ為メ定メ置キタル割合ニ従フヘシ
又船長又ハ持主ノ所為ニ因リ航海ヲ止メ又ハ航海ヲ永引カ
シムルアル片ハ船長又ハ持主ヨリ乗組人ニ其償ヲ為スヘ
シ

第三百五十七條 船長外國ノ港ニ於テ乗組人雇入ノ期限終リ
タル後更ニ他ノ港ニ航海ヲ為サント欲シテ乗組人ノ雇賃ヲ
為ス片ハ其地在留ノ領事館官吏ハ前ニ掲ケタル定規ニ循ヒ

乗組人雇継ノ契約書ヲ作り與フヘシ

第三百五十八條 月雇ニテ契約セシ乗組人ノ雇賃ハ其契約ヲ簿冊ニ登記シタル日ヨリ算シテ拂フヘシ但シ反對ノ契約アル場合ハ此限ニアラス

佛三百五十九條

第三百五十九條 敵ノ為メニ船ヲ奪ヒ取ラレ又ハ船ノ破壊スルコトアリテ其船並ニ積荷ヲ全ク失フタル時ハ水夫等其雇賃ヲ得ント求ムヘカラス然レモ水夫等ハ前拂トシテ既ニ受取タル雇賃ヲ還スニ及ハザルモノトス

佛三百六十條

第三百六十條 船ノ一部存スルコトヲ得タル時ハ水夫等航海中雇入ラレタルト月雇ナルトヲ問ハス其存在スル一部ノ賣拂代金中ヨリ其雇賃ヲ得ヘシ
若シ又存在シタル一部ノ代金ヲ以テ水夫等ノ雇賃ニ充ルニ足ラサル時又ハ積荷ノニ存スルヲ得テ全ク船ヲ失フタル時

佛三百六十一條

ハ水夫等其雇賃不足ノ高ク船賃ノ中ヨリ受取ルヘシ
第三百六十一條 船賃ノ一部ヲ得ヘキ契約ニテ雇入ラレタル水夫等ハ其船賃高ノ割合ヲ以テ雇賃ヲ受取ルヘシ

佛三百六十二條

第三百六十二條 雇入ラレタル方法ノ如何ナルヲ問ハス水夫等ハ破壊シタル船ノ一部并ニ荷物ヲ取纏メ保存スルニ付テノ賃銀ヲ受取ルヘシ

佛三百六十三條

第三百六十三條 水夫等航海中病ニ罹リ又ハ船中ニテ使用ヲ受クルニ付創傷ヲ被リタル時ハ其雇賃ヲ受取り且船ノ費用ニテ治療ヲ受クヘシ

佛三百六十四條

第三百六十四條 水夫等敵ト戦ヒ又ハ海賊ト戦ヒ創傷ヲ受ケタル時ハ船ト積荷トノ費用ニテ治療ヲ受クヘシ

第三百六十五條 前二條ニ記シタル場合ニシテ若シ其水夫等上陸セザルヲ得サル時ハ船長ハ水夫等ノ治療代及本國へ歸

程旅費トシテ凡ソ見積リ高ヲ領事館ニ供給スヘシ
若シ領事館アラサル地ナルハ船長ハ其港ノ病院ニ入レ治
療セシメ又ハ其他治療ヲ受クルニ相當ナル場所ニ於テ療養
セシムヘシ但シ本國へ歸程路費ハ別ニ給與スヘシ
第三百六十六條 水夫等喧嘩闘歐ニ因リ創傷ヲ受ケ又ハ不行
状ニ因リ病ニ罹リタル時ト雖モ船費ヲ以テ療養ヲ加ヘ且前
條ノ定規ニ循フヘシ但シ水夫ニ對シテ其療養金ヲ償還セシ
ムルノ求ヲ為スコトヲ得ヘシ

第三百六十七條 若シ水夫等船長ノ許ヲ受ルコトナク船ヨリ上
陸シテ創傷ヲ受ケタルハ自費ニテ治療ヲ為スヘシ又此場
合ニ於テハ船長其水夫等ニ暇ヲ與ルコトヲ得ヘシ
暇ヲ得タル水夫等ハ既ニ使用ヲ受ケタル時間ノ雇賃ノミヲ
受取ヘシ若シ治療金ヲ立換タルハ其雇賃ヨリ之ヲ引去ル

ヘシ

第三百六十八條 航海中ニ水夫等ノ死去セシ時其水夫等月雇
ノ契約タルニ於テハ其死去ニ至ル迄ノ雇賃ヲ其遺物相續人
ニ拂フヘシ

又航海中雇入ノ契約ヲナシタル水夫等往路ニテ死去シ又ハ
船ヲ差向タル港ニ碇泊中死去シタルハ雇賃總高ノ半ヲ其
相續人ニ拂フヘシ
其水夫ノ歸路ニテ死去シタルハ其雇賃ノ總高ヲ其遺物相續
人ニ拂フヘシ

水夫等ヲ積荷賣買ノ利得ノ一部又ハ船賃ノ一部ヲ與フヘキ
契約ニテ雇入レ既ニ出帆シタル後ニ死去シタルハ其水夫
等ノ得ヘキ總金高ヲ其遺物相續人ニ拂フヘシ
若シ水夫等船ヲ防守シ歟ト戦フテ死シタル後其船安全ニ着

港シタル時ハ其航海中ノ雇賃總高ヲ其相續人ニ拂フヘシ

第三百六十九條 船中ニテ敵ノ為メ虜獲セラレ奴隸トナリタル水夫等ハ船主、荷主、船長ニ對シ其贖金ヲ得ント要ムヘカラス

其水夫等ハ敵ノ為メ虜獲セラレタル日ニ至ル迄ノ雇賃ヲ得ヘシ

第三百七十條 船用ニテ海上又ハ工陸シテ虜獲セラレ奴隸トナリタル水夫等ハ其雇賃ノ總高ヲ得ヘシ

又其水夫等船ノ安全ニ着港シタル時ハ贖金ヲ求ムルヲ得ヘシ

第三百七十一條 前條ニ記スル船用ニテ水夫ヲ海上ニ遣ハシ又ハ工陸セシメタル場合ニ於テハ船主ヨリ其贖金ヲ出スヘシ

又船ノ用向ト積荷ノ用向トニテ水夫ヲ海上ニ遣ハシ又ハ工陸セシメタルトキハ船ノ持主ト荷主トヨリ其贖金ヲ出スヘシ

第三百七十二條 其贖金ノ高ハ千二百リールヲ越ユヘカラス其贖金ノ取立方及ヒ其用方ハ別段ノ規則ヲ以テ定ムル所ノ法式ニ循フヘシ

第三百七十三條 其船ヲ賣拂フタル片未タ水夫等ノ雇入期限中ニシテ反對ノ契約アラザルニ於テハ其水夫等ハ雇賃并ニ其住所ノ地マテノ歸程旅費ヲ受取ルヘシ

第三百七十四條 法ニ適シタル原由ナクシテ暇ヲ得シ證ヲ立タル水夫等ハ船長ニ對シ其損失ノ償ヲ得ント要ムルヲ得ヘシ

出帆前ニ暇ヲ得タルトキハ雇賃ノ三分ノ一ヲ償トシテ得ヘシ

シ
航海中暇ヲ得タルハ雇賃ノ總高ト歸程旅費トヲ償トシテ
得ヘシ

此等ノ場合ニ於テ船長ハ水夫等ニ拂フタル金高ヲ船ノ持主
ヨリ返還セント要ムヘカラス但シ船ノ持主ノ求メニ因リ暇
ヲ與ヘタルハ此例ニアラス

未タ乗組人雇入姓名簿ノ結了セザル内ニ水夫等暇ヲ得タル
ハ其償ヲ得ヘカラス

法ニ於テ定メタル場合ノ外如何ナル理由アリト雖ハ外國ニ
於テハ船長水夫等ニ暇ヲ與フヘカラス

佛三百七十五條 船主ニ船賃ハ水夫等ノ雇賃ヲ得ルニ付テノ
引當タルヘシ

第三百七十六條 總テ乗組人ハ其雇賃ノ全部又ハ其得ヘキ利
得ノ全部ヲ受取ル迄ハ船中ニテ諸賄ヲ受クヘキノ權アリト
ス

第三百七十七條 總テ乗組人ハ其雇入契約ノ期限終リタルト
雖ハ反對ノ契約アラサルニ於テハ其船ノ積荷ヲ卸シ及ヒ其
他ノ用向終ルノ日マテハ使用ヲ受クヘキモノトス

此場合ニ於テハ船中ニテ諸賄ヲ受ケ且其雇賃ヲ得ヘシ
若シ船舶中流行病アルカ為メニ入港スルヲ得ス港外ニ繫船
中其船更ニ航海ヲ為スヘキ時引續キ其船ニ雇ハル、
テラ欲セル者ハ必ス上陸シテ避病院ニ入ルヘシ其避病定期中ハ雇
賃ヲ得ルノ權アリトス

避病中及治療中ノ入費ハ船賃ヲ以テスヘシ

第三百七十八條 第三百四十四條第三百四十五條第三百四十
六條及第三百四十七條ノ定規ハ軍艦長沿海ノ地方及他州ニ

境スル海岸ニ為ス航海ニ付テノ制規ト相觸ル、ナカルヘシ
第三百七十九條 船ノ乗組人本國ノ軍艦中ニ僱替ヘラナス
ハ其船長ニテ是迄ノ雇賃ヲ拂ヒ其他乗組人ニ關スル計算ヲ
為スヘシ

佛二百七十三條

第三百八十條 水夫等ノ雇賃、治療、救贖ニ付テノ定規ハ船ノ役
員船長及其他ノ乗組人ニモ亦通シ用ユヘシ

第六卷 船舶借入契約ノ事

第一章 總規則

佛二百七十三條

第三百八十一條 船舶借入ノ契約ハ之ヲ證書ニ認メ左ノ件々
ヲ記列スヘシ

船舶ノ名及噸數

船長ノ姓名

貸主ノ姓名及借主ノ姓名

借入債

船舶ノ借入レ全部又ハ一部ナル事

荷物積入レノ場所及日時并ニ荷卸シノ場所及日時

船舶ノ到着遲延シタル時出スヘキ償高

佛二百八十條

第三百八十二條 荷物積入レノ日時并荷卸ノ日時ヲ別段契約
シテ定メサル片ハ其地ノ習慣ニ從テ之ヲ定ムヘシ

佛二百八十五條

第三百八十三條 船舶ヲ月借リコナシタル片ハ其船舶ノ出帆
シタル日ヨリ積荷ヲ卸ス日迄ヲ計テ借賃ヲ拂フヘシ

但シ之ニ反シタル契約アル片ハ格別ナリトス

佛二百七十六條

第三百八十四條 船ノ出帆前ニ其到ラントスル國ト貿易禁制
ノ令下ル丁アル片ハ双方共ニ償ヲ求ムルヲナク其借入ノ契

約ヲ解クヘシ

荷主ハ其荷主積入レ并ニ荷卸ノ費用ヲ擔當スヘシ

佛三百七十七條

第三百八十五條 抗拒スヘカラサル災害ノタメ一時船ノ出帆ヲ遲延スルコトアルハ其借入契約ハ猶成立ツヘシ且遲延ニ付テノ償ヲ得ンコトヲ要ムヘカラス
又航海中抗拒スヘカラサル災害ノタメ船ノ到着遲延スルコトアルハ其借入契約ハ猶成立ツヘシ且貸主ハ遲延時間ノ貸借ヲ得ント要ムヘカラス

佛三百七十六條

第三百八十六條 已ムコトヲ得サル事故アリテ船ノ途中ニ駐リタル時間荷主ハ自費ニテ其荷物ヲ船ヨリ卸スコトヲ得ヘシ但シ其卸シタル荷物ハ再ヒ之ヲ積入ルヘシ然ラサレハ船長ニ償ヲ為スヘシ

佛三百七十九條

第三百八十七條 船ノ到ラントスル港ノ封港ニナリタルハ船長ハ同國中ニテ到ルヲ得ヘキ其港ノ最近ノ港ニ其船ヲ差向クヘシ但シ船長之ニ反スル言附ヲ荷主ヨリ受ケタルハ

格別ナリトス

佛三百八十條

第三百八十八條 船主ニ於テハ船舶及船舶ニ備フル諸器具并貸賃ヲ以テ契約執行ノ保証ニ充テ荷主ニ於テハ其荷物ヲ以テ其保証ニ充ツヘシ

第二章 積荷目録ノ事

佛三百八十九條

第三百八十九條 積荷目録ニハ運送スヘキ品物ノ種類、性質、量、目、品等ヲ記スヘシ

又其目録ニハ左ノ件々ヲ記スヘシ

荷主ノ姓名、住所

品物ヲ受取ルヘキ者ノ姓名、住所

船長ノ姓名、住所

船舶ノ名并噸數

出帆ノ場所并到着ノ場所

船舶借入レ賃

又積荷目録ノ欄外ニハ運送スヘキ品物ノ記号并番号ヲ記スヘシ

又其目録ハ必ス日附ヲ記スヘク又裏書ヲ以テ之ヲ釀ル^報ヲ得ヘク又何人ニテモ之ヲ所持スル者ニ其品物ヲ送ル^レヲ得ヘシ

佛二百八十二條

第三百九十條 積荷目録ニハ荷物ヲ全ク積入レタル時ヨリニ

十四時間ニ荷主及船長之ニ手署スヘシ

積荷目録ハ少クモ四通ヲ作ルヘシ

一通ハ荷主ノタメ

一通ハ荷物ヲ受取ヘキモノノタメ

一通ハ船長ノタメ

一通ハ船持主或ハ船ノ総支配人ノタメ

荷主ハ右二十四時間ニ積入ニ付テノ一切ノ書類及其税金受

取書ヲ船長ニ渡スヘシ

佛二百八十三條

第三百九十一條 前二條ノ法式ニ從ヒ記シタル積荷目録ハ總

テ積荷ニ關係アル各人^{取荷主、船長、荷主、荷物ヲ受ノ間ニ確証ナ}

リトシ又其各人ト海上受合人トノ間ニ於テモ確証ナリトス

佛二百八十四條

第三百九十二條 一艘ノ積荷目録互ニ相違スル片ハ船長ノ所

持スル目録ヲ以テ確的ノモノトスヘシ但シ荷主又ハ其仲買

人其目録ニ手署シタル^レヲ必要トス又荷主又ハ荷物ヲ受取

ヘキ者ノ所持スル目録ヲ以テ確的ノモノトスヘシ但シ之カ

為メニハ船長其目録ニ手署シタル^レヲ必要トス

佛二百八十五條

第三百九十三條 仲買人又ハ荷物ヲ受取ルヘキ者積荷目録又

ハ船借入證書ニ記載シタル荷物ヲ受取タル片ハ船長ノ求メ

ニ應シ其受取書ヲ渡スヘシ之ヲ渡サ、ル片ハ總テノ費用并

損失ヲ船長ニ償ヒ又船長其受取書ヲ得サルニ付發船ノ遲延
シタル片ハ其遲延ニ付テノ損失ヲモ償フヘシ

第三章 船舶借入賃ノ事

佛二百八十六條

第三百九十四條 船舶ノ借入賃ハ双方ノ契約ニテ之ヲ定ムヘシ

借入賃ハ船舶借入証書又ハ積荷目録ヲ以テ之ヲ証スヘシ
借入賃ハ船ノ全部又ハ一部ノ借入ニ付キ之ヲ定メ又ハ航海
ノ時間或ハ別段定メタル時間ニ付キ之ヲ定メ又ハ噸數^{キヤ}
シタル^{量目}其他總テ普通ノ量目ヲ以テ之ヲ定メ又ハ荷物
ノ數ヲ以テ之ヲ定メ又ハ幾許ノ荷物ヲ積入ル、^アアラハ出
帆スヘキノ約束ヲ以テ之ヲ定ムルヲ得ヘシ

佛二百八十七條

第三百九十五條 荷主船ノ全部ヲ借入レタル時ハ其全部ニ積
入ル、ニ是ルヘキノ荷物ヲ積入レザルト雖モ船長ハ荷主ノ承

諾ヲ得スレテ他ノ荷物ヲ積入ル、^アヲ得ス

船ノ全部ヲ借入レタル者他ノ荷物ヲ積入ル、^アヲ船長ニ許
シタル片ハ其荷物運賃ヲ自己ノ得分ト為ス^アヲ得ヘシ

佛二百八十八條

第三百九十六條 荷主船ニ荷物ヲ積入ル、^アナク船ノ出帆前

ニ其航海ヲ止ムヘキノ申述スル片ハ船借入賃ノ半額ヲ船長
ニ拂フヘシ

若シ又其航海ヲ止ムル^アヲ申述セザルトキハ其全額ヲ拂フ
ヘシ

又約束シタル分量ノ荷物ヨリモ少量ノ荷物ヲ積入ル、時ト
虽モ亦船借入賃ノ全額ヲ拂ハサルヲ得ス

又約束ノ分量ヨリ餘分ノ荷物ヲ積入レタル片ハ其餘分文ノ
船借入賃ヲ拂フヘシ

佛二百八十九條

第三百九十七條 船長若シ荷主ニ對シ船舶ノ大サヲ其實ヨリ

更ニ大ナリト述ヘタルハ荷主ニ對シ損失ヲ償フヘシ
若シ其誤算船舶ノ噸數ノ四十分一以下ナルハ又ハ噸數調査
掛ノ保証書ニ援リシハ船長ノ述ヘタル所ニ過誤アリト見
做スヘカラス

佛二百九十一條

第三百九十八條 幾許ノ荷物ヲ積入ル、トアテハ出帆スヘキ
約束ニテ船舶ノ貸借ヲ契約セシハキヤンタールノ數又ハ
噸數又ハ其他普通ノ量目ヲ以テ其貸借ヲ定メタルト荷物ノ
數ヲ以テ之ヲ定メタルト問ハス荷主ハ貸銀ノ半額ヲ拂ヒ
其出帆前ニ荷物ヲ引取ル^ト得ヘシ
此場合ニ於テハ荷主曾テ荷物ヲ積入レタル費用、荷物ヲ卸ス
費用、他ノ荷物ヲ動カシ之ヲ積直ス費用并ニ此等ノ事ニ付キ
出帆ノ遲延シタルニ付テノ償入擔當スヘシ

佛二百九十二條

第三百九十九條 若シ船長已レニ届ケスレテ積入レタル荷物
ヲ見出シタルハ其積入ノ場所ニテ直ニ之ヲ陸工ケセシム
ルカ又ハ其種ノ荷物ニ付最モ貴キ船賃ヲ受取ルヲ得ヘシ

佛二百九十三條

第四百條 荷主航海中ニ其荷物ヲ卸スハ契約シタル賃銀ノ
總高ヲ拂ハザルヲ得、且其荷物ヲ卸スニ付他ノ荷物ヲ動カ
シ之ヲ積直ス費用ヲ擔當スヘシ

若シ船長ノ所為又ハ過失ニ因リ其荷物ヲ卸スハ船長其費
用ヲ擔當シ且損失ヲ償フヘシ

佛二百九十四條

第四百一條 若シ荷主ノ所為ニ因リ出帆ノ際又ハ航海中又ハ
到着ノ場所ニ於テ船ヲ滞留セシハ船主其遲延ノ償ヲ為ス
ヘシ
荷主航海ノ往復共ニ船ヲ借入レタルハ其歸路ニ荷物ヲ積
入ル、^トナク又ハ些少ノ荷物ヲ積入レタルト雖モ荷主ハ往
復ノ借入賃ヲ船長ニ拂ヒ又荷主ニ於テ其荷物ノ積入レニ付

キ其船ノ歸路ノ航海ヲ遲延セシメタル片ハ亦タ其償ヲ為ス
ヘシ

第四百二條 若シ出帆ノ際又ハ航海中又ハ到着ノ場所ニ於テ
船長ノ所為ニ因リ船ヲ滞留シ又ハ遲延セシメタル片アル片
ハ船長ヨリ荷主ニ其損失ノ償ヲナスヘシ
其償ノ高ハ監定人之ヲ定ムヘシ

第四百三條 航海中不意ノ事柄又ハ抗拒スヘカラザル災害ニ
因リ船長已ムコトヲ得スレテ其船ヲ修覆スル片ハ荷主ニ於テ
ハ其修覆ヲ待ツヘク又然ラサレハ船賃ノ總高ヲ拂フヘシ
若シ船長其船ヲ修覆スルコトヲ得サリシ片ハ荷主ハ其途中迄
ノ船賃ヲ拂フヘシ

若シ船ヲ修覆スル能ハサル片ハ船長ハ荷物ヲ運輸スルタメ
他ノ船舶ヲ借入ルヘシ其借入ノ船賃ハ荷主之ヲ拂フヘシ

第四百四條

前條ノ場合ニ於テ荷主ヨリ其船ノ出帆ノ時既に
航海ヲ為スニ堪ヘサリシ證ヲ立ル片ハ船長其船ノ貸賃ヲ得
ヘカラス且荷主ニ對シ損失ヲ償フヘシ

其船出帆ノ前官吏ノ見分ヲ為シタル受合書アル時ト雖モ荷
主ニ於テ其証ヲ立ルハ妨ケナシトス

第四百五條

船長食料ヲ得ルタメ又ハ船ノ修覆ノ為メ又ハ其
他已ムコト得サルノ事故アリテ荷物ヲ賣リ又ハ之ヲ抵當トナ
シタルコトアリト雖モ其荷主ハ猶ホ其運賃ヲ拂フヘシ
然レモ船長ハ其残り荷物又ハ之ト同質ノ荷物ヲ到着ノ港ニ
於テ賣拂ヒ得ヘキ價ニ準シ荷主ニ其價ヲ償フヘシ
若シ破船シタル片ハ船長其賣拂フタル荷物ノ持主ニハ其賣
拂フタル代價ニ準シ其價ヲ償ヒ又其抵當トナシタル荷物ノ
持主ニハ之ヲ抵當トナシ借リタル金高ニ準シ其價ヲ償フヘシ

佛二百九条

但シ此場合ニ於テモ亦船長積荷目録ニ記シタル運賃ヲ其荷物ノ持主ヨリ受取ルヘシ
前二項ノ場合ニ於テ船ノ持主第三百十一條ニ記シタル權ヲ行フニ差支ナカルヘシ
若シ船ノ持主其權ヲ行フニ因リ賣拂ヒ又ハ抵當トナシタル荷物ノ持主ノタメ損失アル時ハ之ヲ其荷物ト安全ニ着シタル荷物ト又ハ荷物ノ賣拂ヒ或ハ抵當トナシタル後破船スト虽氏幸ニ存スルヲ得タル荷物トノ價ニ準シ其損失ヲ割附クヘシ
第四百六條 船ノ到ラントスル地方ト貿易禁止ノ令アリテ船其荷物ト共ニ歸リ来ルキハ當テ往返共ニ其船ヲ借入ル、契約アル時ト雖モ船長ハ往路ノモノ貸賃ヲ受クヘシ

佛三百条

甲港ニ於テ荷物ヲ積入レ之ヲ乙港ニ運送スルタメ船ヲ借入レ甲港ニ向ケ航海ヲナスノ途中其甲港貿易禁止ノ令アリタル片ハ船長其契約ヲ執行セントシテ費セシ入費ノタメ相當ノ償金ヲ受クヘシ但シ其金高ハ場合ニ依リ之ヲ定ム可シ
第四百七條 若シ航海中或國ノ命ニ依リ船ヲ差留メラレ或ハ船及荷物安全ノタメ受ケタル破損ヲ修理スルタメ或港ニ碇泊シタル片其船月借ナル片ハ碇泊時間ノ借賃ヲ拂フニ及ハス又其船一度ノ航海ヲ限リタル借入レナル片ハ別ニ借入賃ヲ拂フニ及ハス

佛三百一条

第四百八條 船長ハ船及荷物ノ安全ノタメ海中ニ投入レタル荷物ノ運賃ヲ請求スルノ權アリトス其運賃ハ船持主ト荷主トニテ其金ヲ割合ヒ之ヲ拂フヘシ

佛三百二条

第四百九條 難船又ハ衝突ニ因リ失フタル荷物又ハ海賊或ハ

佛三百三條

敵ノタメ掠奪セラレタル荷物ニ付テハ運賃ヲ拂フニ及ハス
船長ハ已ニ受取りタル運賃ヲ還スヘシ但シ之ニ反シタル契
約アル片ハ此例ニアラス

第四百十條

掠奪セラレシ船及荷物ヲ贖戻シ又ハ難船ノ時其
荷物ヲ存スルコトヲ得タルニ於テ船長其掠奪又ハ難船ノ場所
ニ至ル迄ノ運賃ヲ受取ルコトヲ得ヘシ

若シ船長其荷物ヲ贖戻スニ付金高ヲ出シ管テ約セシ場所ニ
之ヲ運送シタル片ハ其運賃ノ全額ヲ受取ルコトヲ得ヘシ

佛三百四條

第四百十一條

贖戻ノ金高ノ割附ハ荷卸スル港ニ於テ荷物ノ
價中ヨリ其費用ヲ引去リタル高ト船ノ價ノ半額ト船賃ノ半額
トニ准シ之ヲナス可シ

水夫ノ雇賃ハ其割附高ニ加フ可ラス

佛三百五條

第四百十二條

荷物ヲ受取ルヘキ者之ヲ受取ルコトヲ拒ム片ハ

其運賃ヲ得ルタメ裁判所ノ允許ヲ得タル上ニテ其荷物ヲ賣
拂フコトヲ得ヘシ若シ餘リアル片ハ其荷物ハ或ル場所ニ預ク
ルコトヲ得ヘシ

其荷物ノ代金ヲ以テ運賃ヲ得ルニ足ラザル片ハ船長其荷主
ニ對シ償ヲ請求スルノ權アリ

佛三百六條

第四百十三條

船長ハ荷物ノ運賃ヲ得ザルノ故ヲ以テ其荷物
ヲ船中ニ差留メ置クコトヲ得ス

但シ荷卸ノ時ニ當リ荷物ノ運賃ヲ得ルニ至ル迄之ヲ他人ニ
預クヘキコトヲ求ムルヲ得ヘシ

佛三百七條

第四百十四條

船長其荷物ヲ引渡シタルヨリ十五日間ハ其運
賃ヲ得ルタメ其荷物ノ上ニ先取りノ權ヲ有ス可シ但シ其荷
物已ニ他人ノ手ニ移リタル片ハ格別ナリトス

佛三百八條

第四百十五條

右十五日ノ期限内ニ荷主又ハ荷物受取人ノ分

佛三百九條

散シタル片ハ船長其運賃并ニ損費高ノ償ヲ得ルタメ其運送
シタル荷物ニ付他ノ債主ヨリ先取ノ權ヲ有ス可シ

第四百十六條

如何ナル場合ヲ問ハス荷主ハ運賃ノ減額ヲ求
ムヘカラス

佛三百九條

第四百十七條

荷主ハ價ノ減シタル荷物或ハ性質不良ナルニ
因リ或ハ偶然ノ事ニ因リ卑惡トナリタル荷物ヲ其運賃ニ代
ヘテ拋棄スヘカラス

然レハ酒油蜜及其他ノ流動物ノ入りタル樽（樽）或ハ桶ヨリ其流
動物流出シテ空虛トナリ又ハ空虛ナラントスル時ハ運賃ニ
代ヘテ其樽又ハ桶ヲ拋棄スルコトヲ得ヘシ

第四章 船客ノ事

第四百十八條

帆船前船ヲ以テ旅客ヲ運送スルタメノ運送契約
ハ別段ノ契約ナキニ於テハ左ノ定規ニ循ヒ之ヲ定ムヘシ

第四百十九條

出帆前ニ船客ノ存意ヲ以テ航行ヲ止メタル片
ハ船賃ノ半額ヲ船長ニ拂フヘシ

若シ船客ノ死去病氣或ハ其他不意ノ事故アルニ因リ出帆前
ニ航行ヲ止メタル片船賃ノ中ニ船中飲食代ヲ含ムニ於テハ
航行ノ時間ヲ見積リ其時間ノ飲食代ヲ船賃ヨリ引去リ残り
船賃ノ四分ノ一ヲ拂フヘシ若シ出帆前ニ船長ノ存意ヲ以テ
航行ヲ止メタル片ハ船客船長ニ對シ損失ノ償ヲ請求スルコ
トヲ得ヘシ

若シ抗拒スヘラサル災害或ハ不慮ノ事故ニ因リ航行ヲ止メ
タル片ハ双方共ニ損失ノ償ヲ請求スルコトヲ運送契約ヲ解
除スヘシ

第四百二十條

船客出帆後一ノ近港ニ着シタル片故ラニ上陸
スル片ハ船賃ノ全額ヲ拂フヘシ

又船長一ノ近港ニ着シ航行ヲ引續テナスコトヲ拒ミ又ハ船客ノ上陸シテ航行ヲ止ムルヲ拒ミタルハ損失ノ償ヲ拂フヘシ
船客ノ死去或ハ病氣又ハ船ニ關シタル抗拒スヘカラサル災害或ハ不慮ノ事故ニ因リ航行ヲ止メタルハ航行ノ時間ニ準シ船賃ヲ拂フヘシ
難船ニテ死去シタル船客ノ相續人ニ對シ其船賃ヲ請求スヘカラス

第四百二十一條 如何ナル原因ナルヲ問ハス船ノ出帆スヘキ日ニ出帆セサル時ハ船客償金ヲ求ムルコトヲ得ヘク且其遲延ノ時間船中ニ留リ及飲食ヲ求ムルコトヲ得ヘシ
若シ其遲延十日ヲ越ルハ船客ハ航行ノ契約ヲ解除スルコトヲ得ヘシ此場合ニ於テハ船賃全額ノ返還ヲ受クヘシ

天氣ノ惡シキニ因リ出帆ノ遲延スルハ船客ハ船賃ノ三分ノ一ヲ拂フニアラザレバ航行ノ契約ヲ解除スルコトヲ得ス
天氣ノ惡シキ場合ハ其港ニ在ル他ノ船長或ハ之ニ代ルヘキ者之ヲ慥メ証スヘシ

第四百二十二條 船客ヲ運送スルタメ借入レタル船ハ船客ノ員數ニ關セス直ニ其達スヘキ港ニ航行スヘシ但シ別段ノ契約アル場合ハ此限ニ非ス

若シ船長ノ所為ニ因リ線路ヲ速カリ或ハ航行ヲ止メタルハ船客ハ償金ヲ求ムルノ外船中ニ留リ船費ヲ以テ飲食セント求ムルコトヲ得ヘク又航行ノ契約ヲ解除スルコトヲ得ヘシ

第四百二十三條 若シ航海中或國ノ命ニ依リ又ハ修理ヲナスヲ要スルニ付船ヲ差留メタルハ船客其差留ノ終ル迄或ハ其修理ノ終ル迄留マルコトヲ欲セサルニ於テハ航海シタル時間

ニ準シ船賃ヲ拂ヒ航行ノ契約ヲ解除スルコトヲ得ヘシ
若シ船客其差留ノ終ル迄或ハ其終理ノ終ル迄留マルコトヲ欲
スル片ハ船賃ノ増額ヲ拂フニ及ハス但シ其時間ノ飲食料ハ
之ヲ拂フヘシ

第四百二十四條 航海中船客ノ飲食料ハ船賃ノ中ニ含ムモハ
トス但シ之ニ反シタル契約アル片ハ此限ニアラス

之ニ反シタル場合ニ於テハ船長ハ航海中飲食料ノ價相當ノ
食物ヲ欠乏セザルコトニ注意スヘシ

シブラルタールノ海峡以外及「ス」ノ掘割以外ノ航海ナル
片ハ船客ハ其達スヘキ港ニ着船シタル後四十八時間船中ニ
留リ及飲食ヲ求ムルノ權ヲ有スヘシ但シ船ノ直ニ出帆スヘ
キ場合ハ此例ニ非ス

第四百二十五條 蒸氣船ヲ以テ船客ヲ運送スルコトハ別段ノ法

律及規則ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第七卷

コントラア、ラ、グロス

船及積荷ヲ引當トシテ金高ヲ
借入レタル契約ヲ云フ

佛三百十條

第四百二十六條

コントラア、ラ、グロスハ公正ノ証書又ハ私ノ証書

ヲ以スヘシ然ラサレハ商業上通常ノ貸借ト見做スヘシ又貸
主ハ法律上ノ利息ヲ以其元金ノ返済ヲ請求スルコトヲ得ヘシ

其契約ノ証書ニハ左ノ件々ヲ記スヘシ

借り金高及約定シタル利息

抵當トナシタル物品

船名

船長ノ姓名

貸借双方ノ姓名

航海ノ往返ナルカ或ハ往路ノミナルカ或ハ中途迄ナル
カ又ハ航海ニ付契約ヲ以テ定メタル時間

返濟期限

第四百二十七條 伊太利國內ニ於テナシタル「コントラアラグロス」ノ証書ハ其地ノ航海支配局ノ簿冊ニ登記シ且契約ヲナシタル日ヨリ十日内ニ船ノ所屬ヲ証スル証書ニ其旨ヲ記入スヘシ若シ此手續ヲナサ、ルハ債主ノ特權ヲ失フヘシ外國ニ於テナシタル「コントラアラグロス」ノ証書ハ其契約ヲナシタル地ノ領事館ノ簿冊ニ之ヲ登記シ又前項ノ定期内ニ其契約ヲ為シタル旨ヲ船ノ所屬ヲ証スル証書ニ記入スヘシ然ラサルハ債主ノ特權ヲ失フヘシ航海支配局ノ官吏及領事館ノ官吏ハ其契約書ノ寫ヲ其船ヲ登記シタル場所ノ航海支配局ヘ送達スヘシ「コントラアラグロス」ノ証書ヲ船ノ所屬ヲ証スル証書ニ記入スルタメ其所屬ヲ証スル証書ヲ差出サ、ルハ前項ノ官吏

ハ「コントラアラグロス」ノ証書ヲ其簿冊ニ記入スルヲ得ス領事館ノ官吏又ハ其代理者ノアラザル地ニ於テ「コントラアラグロス」ヲナシタルハ船ノ所屬ヲ証スル証書ニ其旨ヲ附記スルハ船長ノ願ニ依リ其地ノ官吏之ヲ為スヘシ船長ハ其契約書ノ正本又ハ公ケノ副本ニ歎願書ノ公ケノ副本ヲ添テ之ヲ最近ノ領事館ノ官吏ニ送達シ領事館ノ官吏ハ其簿冊ニ登記シ之ヲ本國ノ航海支配局ニ送達スヘシ右ニ掲クル手續ヲナサ、ル船長ハ「コントラアラグロス」ニ依リ借りタル金高ノ支消ヲ自己一人ニテ擔當スヘシ總テ第三百三十一條ノ定規ト相觸ル、ナシ

第四百二十八條 「コントラアラグロス」ノ証書ハ其持主裏書ヲ以テ他人ニ賣渡スヲ得ヘシ但其証書ヲ他人ニ賣渡シ得ヘキ方法ヲ以テ記シタルハニ限ルヘシ

第四百三十五条 船長若シ船持主ノ住居スル土地ニ於テ其承諾ナク「コントラ、ア、ス、グロス」ヲナシタルキハ其債主ハ船或ハ船賃ニ付船長ノ得可キ部合ニ付持権アリトス

第四百三十六條 船持主ノ住居スル土地ト否トヲ問ハス船ノ修履及食料供給ノ事ニ付其持主中已レノ出金ス可キ部分ヲ出サバルキハ船長之ヲ要メ二十四時間ノ後ニ至リ猶ホ出金セザルキハ其者ノ得可キ船賃及其所有セル船ノ一部分ヲ抵当トシテ他ヨリ金高ヲ借入ル、コヲ得可シ

第四百三十七條 最終ノ航海ノ為ニ金額ヲ貸タル債主ハ其以前ノ航海ノ為ニ金額ヲ貸シタル債主ヨリ先取ノ権アリトス。以前ノ契約ヲ後ノ航海ニ引續キ又ハ改正シテ用ナルコト後ノ債主ニ陳述シタルキモ亦同一ナリトス
航海中ニ金額ヲ貸シタル債主ハ其出帆前ニ金額ヲ貸タル債

主ヨリ先取ノ権ヲ有シ又一度ノ航海中数人ノ貸金アルキハ最後ノ債主ヲ先取ノ権アルモノトス
第四百三十八條 商品ヲ抵当トシ金高ヲ貸シタルキ若シ其商品ヲ契約書ニ記シタル船ヨリ他船ニ積入レタルニ於テハ其債主ハ損害アルト虽モ之ヲ償フニ及バス但シ荷物積替ノ原由抗拒スベカラサル災害ニ因ルキハ格別ナリトス

第四百三十九條 契約書中ニ定メタル航路ト期限内ニ若シ抵當ノ商品抗拒スベカラサル災害又ハ不慮ノ災難ニ因リ全滅シタルキハ其債主ハ貸金返還ヲ請求スルコトヲ得ズ又其負債主ハ之ヲ返還スルノ義務ヲ免カル可シ

第四百四十條 物品ノ不良ナルニ因リ生シタル損失減少滅尽若クハ負債者ノ所為ニ出タル損害ハ債主其償ヲ擔當スルニ及バス

第四百四十一条 破船ノ時ハ借主其救ヒ上ケタル抵當品ノ價ヨリ之ヲ救ヒ上ケタル入費ヲ引去リ其残り價額ヲ以テ債主ニ払フ可シ

第四百四十二条 若シ契約書ニ危険ノ為メ其償ヲ為サバハ時
間ヲ定メザルキハ船ニ付テハ出帆ノ日ヨリ其達ス可キ場所
ニ到着スルノ日迄ヲ以テ其時間トス可シ
商品ニ付テハ船ニ積入レタル日又ハ之ヲ本船ニ運送スルタ
メ荷船ニ積入レタル日ヨリ之ヲ陸揚ケスルノ日迄ヲ以テ其
時間トス可シ

第四百四十三条 積荷ヲ抵當トシテ金高ヲ借りタル者ハ船及
積荷ノ滅尽シタルニ因リ其義務ヲ免カルコトヲ得ス
但シ其借り金高ニ充ツベキ抵當ノ積荷ハ真ニ其船ニ在リシ
トノ証ヲ立ルキハ其義務ヲ免カル可シ

第四百四十四条 船又ハ積荷ヲ抵當トシテ金高ヲ貸シタル者
ハ普通損失ノ割前ヲ擔當ス可ク借主ニ其義務ヲ負ハシムル
ヲ得ス

第四百四十五条 若シ同船又ハ同積荷ニ付「コントラ」スア「グロ
スト」請合契約トノ共ニアルキハ其船又ハ其積荷ノ破損シタ
ルキ其能ク救ヒ得タル物件ノ利益ハ其債主ト其請合人トニ
其貸高ノ元金ト其請合ノタル金高ニ付其双方ノ利益ニ準シ
之ヲ配当ス可シ但シ第二百八十五条ニ定ムル所ノ特權ニ付
テハ格別ナリトス

第八卷 海上受合ノコト

第一章 受合ノ契約其法式及其物件

第四百四十六條 海上受合ノ契約ハ必ず証書ヲ以テス可シ若

シ之ニ反スルキハ其契約ハ無効トス

其証書ニハ契約ヲ取結タル日附及其日ノ午前又ハ午後ナル

カヲ記スベシ

其証書ニハ空行餘白アル可カラス

其証書ニハ左ノ件々ヲ記ス可シ

請合ヲ為サシムル者ノ姓名、住所或ハ寄留所又其物件ノ所

有者ナルヤ又世話人ナルヤ

船名、其種類及其碇泊ノ所

船長及船主ノ姓名

高品ヲ船ニ積入ル可キ地又ハ既ニ積入レタル地

荷物ヲ積ミ入レ又ハ荷卸ヲ為ス可キ場所

受合ヲ為ス高品或ハ高品ニ非ザル物品ノ代價及其性質或

ハ其評價ノ價

受合ヲ為シ始ムル日附及其終ル可キ日附

受合ハレメタル金高

受合料

第四百四十七條 受合物件ノ異ナルト受合料ノ異ナルト又受

合人数人ナルトヲ問ハズ其契約ヲ一通ノ受合契約書ニ記ス

ルコトヲ得可シ

第四百四十八條 左ニ記スル物件ハ受合ヲ為スコトヲ得ヘシ

船ニ積荷ヲ為シタルト積荷ヲ為サバレルト兵器ヲ備ヘタル

ト備ヘザレルト其船独行スルト他船ト同行スルトヲ問ハズ

其船

船具

兵器

食料

「コントラ、ア、エ、グロス」ニテ貸シタル金高
積荷

其他然テ評價スルヲ得可ク且海上ノ危険ヲ蒙ル可キ物品
第四百四十九條 前條ニ記シタル物件ヲ合シ或ハ之ヲ區別シ

テ其全部又ハ一部ニ付受合ヲ為スコトヲ得可シ
戦時ト平時トヲ問ハズ又ハ出帆前ト出帆後トヲ問ハズ何レ
ノキニテモ受合ヲ為スコトヲ得可シ

又船ノ往復共ニ受合ヲ為シ又ハ往路若クハ歸路ノミヲ受合
ヲ為シ又ハ航程時間ノ全部或ハ別段定メタル時間ノ受合ヲ
為スコトヲ得ベシ又海路、河川、湖、運河ノ航行及運送ニ付キ受合
ヲ為スコトヲ得ベシ

第四百五十條 受合ヲ為スコキ物品ノ價ヲ偽リ又ハ現ニ在ラ

ザルモノヲ在リト述べタルキ又ハ其物品ヲ贋造シタルキハ
受合ヲ為ス者ハ其物品ヲ検査セシメ又ハ評價セシムルコトヲ
得可シ但シ之ガ為メ民事又ハ刑事ノ訟ヲ為スコトヲ得ベシ

第四百五十一條 「エシエール、ゲウルグア」ノ地方

「バル、バリ」
即チ北東部及「ラトマ」
即チ北東部及「ラトマ」又ハ亞非利加ノ海岸及其他ノ地方ヨリ

歐羅巴内へ向ケ運送スル積荷ニ付テハ其積入タル船ノ如何
ナルヲ問ハズ船及船長ノ名ヲ記載スルコトヲ受合ヲ為サシ
ムルコトヲ得ベシ

此場合ニ於テハ商品ノ性質及其種類ヲ記スルコトヲ受合ヲ為
サシムルコトヲ得可シ

然レモ受合ノ契約書ニハ商品ヲ請取ル可キ者又ハ之ヲ預ル
可キ者ノ名ヲ記載ス可シ若シ契約書中ニ之ニ及シタル事件
アルキハ別段ナリトス

第四百五十二條 受合ヲ為ス可キ商品ノ價ヲ外國ノ貨幣ヲ以テ記シタル氏ハ其契約書ニ手署スル氏ハ相場ニ從テ伊太利ノ貨幣ヲ以テ其價ヲ定ム可シ

第四百五十三條 若シ契約書中ニ商品ノ價ヲ記セザル氏ハ勘定書又ハ簿冊ニ拠テ之ヲ定ム可シ若シ其勘定書又ハ簿冊ナキニ於テハ積荷ヲ為シタル場所ノ其時ノ相場ニ從テ其積荷ヲナレタル迄ニ払フタル諸税及諸入費ヲ加ヘテ其價ヲ定ム可シ

第四百五十四條 貨幣ヲ用ヰズ物ト物ト交換スル國ヨリ物品ヲ持来ル時其物品ニ受合ヲ為サシムルニ當リ契約書中商品ノ評價ヲ登記セザル氏ハ交換ノタメ與ヘタル物品ノ價ニ從テ其評價ヲ為ス可シ但シ運送債モ此内ヘ差入ス可シ

第四百五十五條 若シ契約書ニ其受合ノ期限ヲ定メザル氏ハ第四百四十二條ニ記シタル期限ヲ以テ終始ヲ定ム可シ
第四百五十六條 受合ヲ為ス者ハ自己ノ受合フタル物品ヲ更ニ他人ニ受合ハシムルコトヲ得可シ
又受合ヲ為サシムル者ハ受合ヲ為ス者ノ得タル利金ヲ己レニ払ヒ還サシムル為メ船又ハ積荷ヲ更ニ他人ヲシテ其受合ヲ為サシムルコトヲ得ベシ

更ニ受合ヲ為スニ付テノ利金ハ初メ受合ヲ為スニ付テノ利金ヨリ増減スルコトヲ得可シ

第四百五十七條 受合料戰時ハ平時ヨリ増加スベキ高ク別段契約書ニ記セズシテ戰爭ノ起ル氏ハ裁判所ニ於テ危難ノ多少其時ノ形況及契約書ノ情狀ニ從テ其增高ヲ定ム可シ

第四百五十八條 船長自己ノ計算ノ為メ船ニ積入レタル商品ノ請合ヲ為サシメ後ニ其商品ヲ失フタル氏ハ船長ハ其受合

者ニ對シ己レノ為メニ買入レタルコトヲ証シ且兼租中ノ重立
タル二人ノ姓名手署シタル目錄ヲ渡ス可シ
第四百五十九條 既ニ受合ヲ為サシメタル商品ヲ外國ヨリ伊
太利ニ向テ運送スル兼租人或ハ旅客ハ其商品ヲ積入レタル
場所ニ於テ伊太利ノ領事館ニ積荷目錄ヲ渡スヘシ若シ領事
館非ザルキハ伊太利ノ重立タル商人中ノ人又ハ其地ノ裁判
官ニ之ヲ渡ス可シ

第四百六十條 受合ノ期限中ニ受合ヲ為シタル者家資分散ヲ
為スルハ受合ヲ為サシメシ者受合ヲナス者ヲシテ保証人ヲ
立テシメ又ハ契約ヲ取消スコトヲ得可シ
若レ受合ヲナサシムル者家資分散ヲ為ス時ハ受合ヲナス者
又同一ノ權アリトス

第四百六十一條 左ノ物件ノ受合ノ契約ハ無効トス

積荷ノ運賃

商品ニ付得ントスル利益

水客兼租人ノ雇賃

コントラア、ラ、グロスニ依リ借入レタル金高

同上ノ貸方ニ依リ貸シタル金高ニ付海上ノ利金

第四百六十二條 商品ノ受合ヲナサシムル者其陳述ス可キコ
トヲ忘却シ又ハ虚構ノ陳述ヲナシ或ハ契約書ト積荷目錄ト差
違アルニ因リ受合ヲ為ス者ヲシテ誤テ受合ノ危難ヲ實ヨリ
更ニ少シト思ハシメ或ハ受合ノ目的ヲ誤ラシメシ時ハ受合
ヲナス者受合ノ契約書ヲ取消ス可シ陳述ス可キコトヲ忘却シ
又ハ虚構ノ陳述又ハ契約書ト積荷目錄ト差違アル受合ヲ為
シタル物品減尽破損ナキト雖モ其契約書ヲ取消ス可シ

第二章 受合ヲ為サシムル者及受合ヲ為ス者ノ義務

ノ事

仙三百四十九条

第四百六十三條 船ノ出帆セザル前其航海ヲ止メタルハ假令受合ヲ為サシムル者ノ所為ト雖其契約ハ無効トス
受合ヲ為ス者ハ償金トシテ其受合金高ニ百分一即チ百圓ニ付五十圓ニ受ク可シ

然レ共別段ノ契約アルハ此限ニ非ス

仙三百五十條

第四百六十四條 風波、難航、暗礁、暗湊、衝突、航路及船ノ變換、投ケ荷、火難、奪掠、或國ノ命令、戦告、及及擄ニ依テノ差押及其他海上ノ然テノ危難ニ因リ生シタル損害及損失ハ皆受合ヲナス者之ヲ擔当ス可シ

仙三百五十一條

第四百六十五條 受合ヲ為サシムル者ノ所為ニ因リ航海ノ路筋ヲ變シ又ハ船ヲ易ヘ又ハ其他ノ事ニテ物件ヲ失ヒ或ハ破損セシメタルハ受合ヲナス者之ヲ擔当ヒス但シ此場合ニ於テ既ニ受合ヲ為ス期限内ナル時ハ受合ヲ為ス者己レノ請ク可キ受合料ヲ得可シ

仙三百五十二條

第四百六十六條 物品ノ初メヨリ不良ナルニ因リ其物品損失減少、滅尽シ又ハ所有者ノ失錯或ハ所為ニ因リ生ゼシ損害アルハ受合人之ヲ擔当スルニ及ハズ

仙三百五十三條

第四百六十七條 船長或ハ乗組人ノ「商標ヲ引抜ク」
難船セレハル「其他船ノ持主、船ノ故意ヲ以テ為シタル者及其仲間ニ對シ船長或ハ乗組人ノ故意ヲ以テ為シタル行ニ付テハ受合人ハ責任ナキモノトス但シ之ニ反シタル契約アルハ別段ナリトス」

仙三百五十四條

第四百六十八條 水先案内税、引船ノ税、其他船及商品ニ付法律上ニ定メタル税金ハ受合人ハ之ヲ引受ルニ及バス

仙三百五十五條

第四百六十九條 麥塩ノ如キ減少或ハ卑惡ニ至ル可キ性質ノ物品又ハ流出ス可キ性質ノ品物ハ請合契約書ニ其旨ヲ記ス

可レ若シ之ヲ記セザルハ此等ノ物品ノ減尽或ハ減少アリ
ト雖モ受合人^レ之ヲ引受ルニ及ハズ但シ其受合ヲ為サシムル
者其契約書ニ手署スルモ其品物ノ性質ヲ知ラザルモハ別段
ナリトス

第四百七十条 船ノ往返共ニ其積荷ニ付受合ノ契約ヲナレタ
ル時返路ニ全ク荷物ヲ積入ル、^レトナク又ハ荷物ノ不足ナル
ニ於テハ受合人ハ其往返ノタノ約定セシ受合利金高ニ準レ
其三分ノニヲ受ク可シ若シ之ニ反スルノ契約ヲ為シタルハ
ハ別段ナリトス

第四百七十一条 積荷ノ實價ニ過キタル高ニ付ナシタル請合
契約及又請合契約^レハ之ヲナサレメタル者ニ詐偽或ハ惡意ア
ルニ於テハ其者ニ付テノミ無効トス

第四百七十二條 若シ其者ニ惡意及詐偽ナキ時ハ其積荷ニ付
互ニ約定シタル價又ハ評價ニ依リ其實價ニ至ルマデハ其受
合契約書ノ効アリトス

若シ其受合積荷ノ減尽セシモハ其各受合人ハ受合ヲ為シタ
ル金高ニ準シ各自ニ其分前ヲ擔當ス可シ
受合人其積荷ノ實價ヲ超過シタル金高ニ付受合料ヲ受ル可
ラズト雖モ二百分一ノ償金ヲ受ル^レト得ベシ

第四百七十三條 若シ詐偽ニ因ラズレテ同一ナル積荷ニ付數
多ノ受合ノ契約書ヲ作り其中最初ノ契約書ニ物品全部ノ價
ニ付受合ヲ為シタル^レト記シタルモハ其契約書ノミ効アリ
トス

其他後ニ契約書ヲ記シタル各受合人ハ各自其義務ヲ免カレ
其受合ヲ為シタル金高ニ付二百分一ノ償金ヲ得ベシ
若シ最初ノ契約書ニ記シタル高其積荷ノ全價ニ充タザルモ

ハ次ニ契約ヲナシタル各受合人ハ其不足ノ高ヲ擔當ス可シ
各請合人ハ其契約書ヲ記シタル日附ノ順序ニ依ルベシ
第四百七十四條 若シ積荷ノ定價其受合高ニ適當シタルハ其積荷ノ一部ヲ失フコトアレハ各受合人ハ各自ノ受ル受合料ノ割合ヲ以テ各之ヲ擔當ス可シ

第四百七十五條 別段指定シタル船數艘ニ積入ル可キ荷物ニ付其各船ニ付テノ請合金高ヲ定メ各相區別シテ請合契約ヲナシ而シテ其荷物ヲ唯一艘ニ積入レ又ハ指定シタル船數ヨリ少數ノ船ニ積入レタルハ其請合ハ假令指定シタル諸船皆滅失スルモ之ニ関セズ其荷物ヲ積入レタル一艘ノ船又數艘ノ船ニ付請合ヲナシタル金高ノミヲ擔當ス可シ其他ノ船ノ請合金高ニ付テハ其金高ニ百分一ヲ償トシテ受ク可シ
第四百七十六條 若シ船長受合ヲ為シタル積荷ヲ積換ヘスル

為メ又ハ其積荷ヲ足スガ為メ所々ノ港ヘ入ル可キ許可ヲ得タルハ其受合人ハ其積荷ノ船中ニアル間ノミ之ヲ擔當ス可シ但シ之ニ及レタル契約アルハ別段ナリトス

第四百七十七條 若シ別段確定シタル期限ニ付請合契約ヲナシタルハ其期限経過ノ後ハ受合人已レノ義務ヲ免カル可シ又受合ヲ為サシメレ者ハ更ニ請合契約ヲナスコトヲ得ベシ
第四百七十八條 契約書ニ記シタル路筋ニ同一ナルト否トヲ問ハズ受合ヲ為サシムル者契約書ニ記シタル地ヨリ更ニ遠キ地ニ船ヲ送ルコトアルハ受合人ハ其義務ヲ免カレ受合料ヲ受ルコトヲ得ベシ若シ又契約書ニ記シタルヨリ更ニ近キ地ニ船ヲ送リタルハ恣テ契約ノ効アリトス

第四百七十九條 既ニ物品ノ亡失シタル後ニ其受合ヲ為サシムルコトアリテ其受合ヲ為サシムル者其受合契約書ヲ記セシ

氏既ニ其亡失セシト知リタル可シト思量シ得可キニ於テハ其契約書ノ効ナカル可シ又物品ノ安着シタル後ニ其物品ノ受合ヲ為スニ當リ其受合人其契約書ヲ記セシハ既ニ其物品ノ安着シタルト知リタル可シト思量シ得可キニ於テハ亦其契約書ノ効ナカル可シ

第四百八十条 船ノ着シタル地又ハ破船シタル地或ハ其着船又ハ破船ノ最初ノ報告届キタル地ヨリ受合ノ契約ヲ為シタル土地ヘ其契約ヲ為ス前ニ其報告ノ達シ得可キ時又ハ着船破船等ノ旨ヲ記シタル公正ノ証書ヲ以テ其報告ノ達シ得可キ時ハ受合ヲナサレタル者又ハ受合人ハ物品ノ安着シタルト又ハ失フタルト既ニ知リタルト思量ス可シ此思量ニ付反對ノ証ヲ立ルト得可シ

第四百八十一条 受合ヲ為サシタル者ニ前数条ニ記載シタル

詐偽ノ証アルキハ其者ヨリ受合人ニ對シニ倍ノ請合料ヲ払フ可シ又受合人ニ其詐偽ノ証アルキハ其受合ヲ為サシタル者ニ請合料ノ二倍ニ當ル高ヲ払フ可シ但シ此等ノ場合ニ於テハ刑事上ノ訴ヘアルモ妨ケナシ

第三章 受合品拋棄ノ

受合ヲ為サシタル者受合ヲ為サシタル物品ヲ受合人ニ得ントボムルヲ云フ

第四百八十二条 左ノ場合ニ於テハ受合シタル物品ヲ拋棄スルト得可シ

- 敵ニ掠奪セラレタル時
- 風波ノ為ニ破船シタル時
- 暗礁暗沙ニ乗上ケ船ノ破損シタル時
- 海上ニテ偶然危難ニ逢ヒ航海ス可ラザルニ至リシ時
- 外國ノ命令ニテ船ヲ差留ラレタル時

受合ヲ為サシメタル物品ノ滅失シ又ハ減少シタル時但シ其減少ハ其物品ノ價ノ四分ノ三以上ヲ減シタル時既ニ航海ヲ始メタル後ニ至リ政府ヨリ其航海ヲ差留ラレタル時

第四百八十三條 其他條テノ損害ハ皆海上損失ト見做シ受合ヲ為サシレル者ト受合人トノ契約ニ循テ其償ヲ擔當ス可シ
第四百八十四條 物品ノ拋棄ハ未必ノ条件ヲ以テス可ラズ又物品ノ一部ヲ拋棄スルコトヲ許サス
其物品ヲ拋棄スルコトハ受合ヲ為サシメタル物品ニ限ル可シ其以外ノ物品ヲ拋棄シテ受合高ヲ得ント求ム可ラス
第四百八十五條 請合ヲナサシメタル者ハ尤ノ期限内ニ請合人ニ物件ノ拋棄ヲナス可シ
歐羅巴洲ノ港又ハ海岸或ハ地中海ニ沿フタル亞細亞洲及

亞非利加洲ノ港又ハ海岸ニ於テ受合ヲナサシメタル物品ノ損失アリシ音信本國ヘ到着シタルヨリ六ケ月間又ハ敵ノ為メ掠奪ニ逢フタル時ハ此等ノ港又ハ海岸ニ其船ノ入りタルコトノ音信本國ニ到着シタルヨリ六ケ月間
「アカー」島「カカリ」島「マデー」及其他亞非利加洲ノ西部ノ港又ハ海岸及亞米利加洲ノ東部ノ港又ハ海岸又ハ諸島ニ於テ物品ノ損失アリシコトノ音信又ハ掠奪ニ逢フタルハ其船ノ此等ノ島又ハ海岸ニ入りタルコトノ音信本國ヘ到着シタルヨリ一ケ年間
其他ノ地方ニ於テ同上ノ損失アリシハ其音信又ハ掠奪ノアリシハ其船ノ其地方ニ入りタルコトノ音信本國ヘ到着シタルヨリ二年間
此等ノ期限ノ經過シタル後ハ受合ヲ為サシメシ者ハ其物品

ノ拋棄ヲナス可ラズ。
受合金高ヲ払ハシムルニ付テノ訴訟ハ物品ヲ拋棄スルニ付
テノ訴訟ト同時ニナスヲ得可シ

第四百八十六條 物品ノ拋棄ヲ為スコヲ得可キ場合及其他受
合人ノ擔當スベキ事件ノ生シタル場合ニ於テハ受合ヲ為シ
メタル者ハ其音信ヲ受合人ニ送達ス可シ、
其音信ヲ送達スルコトハ之ヲ得タルヨリ三日間タル可シ若シ
之ヲ受合人ニ報知セザリシハ之ガタメ生シタル損害ヲ償
フ可シ

第四百八十七條 近海又ハ内海ノ運送ニ付テハ船ノ出帆シタ
ル日ヨリ一年間其船ノ音信ヲ得ルコトナク又遠路ノ航海ニ付
テハ船ノ出帆シタル日又ハ最終ノ音信アリテヨリ二年間其
船ノ音信ヲ得ルコトナキハ受合ヲナサシメタル者ハ受合人

ニ其音信ナキ旨ヲ申述ベ物品ヲ拋棄シテ受合金高ヲ己レニ得
ント求ムルコトヲ得可シ別段其船ノ亡失ヲ証スルニ及バズ〇
受合ヲ為サシメタル者ハ此條ニ記シタル一年又ハ二年ヲ経
過シタル後ニ至リ第四百八十五條ニ定メタル期限内ニ物品
ノ拋棄ヲ為ス可シ

第四百八十八條 近海ノ運送ナルト内海ノ運送ナルト遠路ノ
航海ナルトヲ問ハズ受合ヲナスニ付期日ヲ限リテ受合ヲ為
サシメタル場合ト雖モ若シ前條ニ定メタル期日ノ経過シタ
ルハ其受合期限内ニ船ヲ失フタルト者做ス可シ
別段期限ヲ定メテ數多ノ受合ヲ漸々ニ為シタルハ前條ニ記
シタル期限ヲ過キ尚ホ音信ヲ得ザルニ於テハ最初ノ受合期
限内ニ其船ヲ失フタルモノト見做ス可シ

第四百八十九條 受合ヲナサシメタル者ハ第四百八十六條ニ

記シタル報告ヲ為シ其契約書ニ記シタル期限内ニ受合金高
ヲ払フ可キノ催促状ヲ受合人ニ送ルト共ニ其物品ヲ抛棄ス
ルヲ得可ク或ハ法律上ニ定メタル期限内ニ抛棄スルヲ得
可シ

第四百九十条 受合ヲ為サレメタル者物品ノ抛棄ヲ為ス時ニ
嘗テ受合ハシメタル総テノ受合契約トコソトテ、ア、エ、グロス
アルニ於テハ之ニ因テ借リ入レタル金高ヲ受合人ニ報告ス
可シ若シ之ヲ為サレタル時ハ此等ノ報告ヲ為ス迄受合金高ノ払
期日ヲ延ス可シ但シ物品抛棄ノ訴訟ノ為メ定メタル期限ヲ
別段定ス可ラス

第四百九十一条 其報告ニ詐偽アルハ受合ヲナサシメタル
者ニ付テノミ其契約ヲ無効トス但シ此場合ニ於テハ船ヲ失
フタルハト虫尾「コソトテ、ア、エ、グロス」ヲ以テ借入レタル金高

ハ之ヲ返済ス可シ

第四百九十二条 風波ノ為メ破船シタルハ或ハ暗礁又ハ暗沙
ニ乗上ケ船ノ毀損シタルハ受合ヲ為サシメタル者ハ水中
ニ没シタル物品ヲ救ヒ上ルコトニ尽カス可シ但シ之カ為メ受
合ノ物品ヲ抛棄スルノ權ヲ行フニ差支ナカルベシ
受合ヲナサシメタル者水中ヨリ物品ヲ救ヒ上ケタル旨ヲ誓
ヲ以テ申述ルハ其物品ノ價ニ至ルマデハ其入費ヲ其受合
人ヨリ償ハシムルコトヲ得可シ

第四百九十三条 若シ契約書ニ受合金高ノ払期日ヲ別段記セ
ザルハ其受合人ハ物品ヲ抛棄スルノ報告ヲ得タルヨリ三
ケ月間ニ之ヲ払フ可シ

第四百九十四条 受合ヲ為サシメタル者其物品ノ損失アリシ
事ヲ記シタル証書ヲ得タルハ之ヲ得タルヨリ三日内ニ其

証書ヲ受合人ニ送達ス可シ

第四百九十五条 受合人ハ受合ヲ為サシメタル者ノ送達シタル証書ト相反シタル証ヲ立ルコトヲ得可シ

然レモ受合人ハ同上ノ証ヲ立ルコトヲ得可キノ故ヲ以テ受合ヲ為サシメタル者ノ保証人ヲ立テ假リニ受合高ヲ得可キ裁判言渡ヲ得ルコトヲ中止ス可ラズ

其保証人ヲ立テタルヨリ四年間裁判所ヘ訴ヲ為サバハ時ハ保証人具義務ヲ免カル可シ

第四百九十六条 受合ヲナサシメタル者其物品ヲ抛棄スル旨ヲ受合人ニ報告シ又受合人ハ其旨ヲ承諾シ或ハ其効アリト裁判ヲ受ケタル後ハ嘗テ受合ヲ為サシメタル物品ハ其抛棄ヲ為シタル日ヨリ受合人ニ属ス可シ

受合人ハ船ノ帰着ヲ口實トシテ其受合高ヲ払フ可キノ義務

ヲ免カル、ヲ得ズ

第四百九十七条 船主ハ済ヒ上ケタル商品ノ運賃ノ払フ請取タルト否トヲ問ハズ之ヲ受合人ニ抛棄ス可シ但シ「コントラ、ア、ラ、グロス」ニ於テ金高ヲ貸シタル者ノ得可キ権利水夫其雇料ニ付テノ権利及航海ノ諸入費ヲ出シ置キタル者ノ権利ヲ害スルコトナカル可シ

第四百九十八条 或國ノ政府ノ命ニテ船ヲ差留ラレシハ受合ヲ為サシメタル者ハ其音信ヲ得タルヨリ三日内ニ其旨ヲ受合人ニ報告ス可シ

歐羅巴洲ノ海ニテ其差留ヲ受ケタルハ其旨ヲ受合人ニ報告シタルヨリ六ヶ月ノ後又遠方ノ海ニ於テ差留ラレタルハ其一年ノ後ニ非ザレバ物品ノ抛棄ヲ為ス可ラズ其期限ハ差留ラレタル音信ヲ受合人ニ告知シタル日付ヨリ

起算ス可シ若シ差留ヲ受ケタル物品ノ卑悪ニ変ス可キモノ
ナルハ歐羅巴洲ノ海ニ於テハ六ヶ月ノ期限ヲ減シテ一ヶ
月半トシ又遠方ノ海ニ於テハ一年ヲ減シテ三ヶ月トス
第四百九十九条 前条ニ定メタル期限内ニ受合ヲ為サシメタ
ル者ハ其差留ヲ受ケタル物品ノ放除ヲ得ント尽カス可シ
受合人モ亦受合ヲササシメタル者ト相共ニ扱カシ又ハ各自
ニ其差留メラレシ物品ノ放除ヲ得ント尽カス可シ

第五百条 受合ヲ為サシメタル海船一度ニ暗礁暗沙等ニ乗掛
航海ヲ為ス可ラザル有様ニ至リント虽此之ヲ引上ケ修履シ
テ定メタル場所ニ至リ得可キハ航海ニ堪ヘザルヲ以テ口
實ト為ラシ之ヲ抛棄スルコトヲ得ズ但シ其受合ヲ為サシメタル
者ノ海上損失ニ付キ訴ヲナスコトヲ得可シ

第五百一条 船若シ航海ヲ為ス可ラザル有様ニ至リシハ其
積荷ノ受合ヲ為サシメタル者其音信ヲ得シヨリ三日内ニ其
旨ヲ受合人ニ告知ス可シ

此場合ニ於テハ船長其積荷ヲ積移シ之ヲ送達ス可キ場所迄
運送スルタメ他船ヲ雇入ルコトニ尽カス可シ

第五百二条 前条ノ場合ニ於テハ請合人ハ他ノ船ニ積移シタ
ル商呂ヲ請合ス可シ

又請合人ハ損失陸揚ノ費用、海関税所ニ預置キタル預貸倉庫
ノ借賃、他ノ船ニ積入ル、費用、船賃ノ増額及其他荷物ヲ救フ
ニ付テノ費用ヲ其請合ノ高ニ充ル直擔當ス可シ

第五百三条 若シ船長第四百九十八条ノ定期内ニ荷物ヲ積揚
ヘ送ル可キ他船ヲ雇入ル、丁能ハサルハ請合ヲササシメ
タル者其荷物ヲ抛棄スルコトヲ得可シ

第五百四条 請合ノ物品敵ノタメ掠奪セラレタル時請合ヲサ

サレノタル者請合人ニ其旨ヲ報告スルコト能ハザルニ於テハ其請合ヲナサレノタル者請合人ニ相談セズシテ其物品ヲ贖戻スルコトヲ得可シ

請合ヲナサレタル者ハ其贖戻ヲ約束シタルコトヲカメテ速ニ請合人ニ報告ス可シ

第五百五条 請合人ハ其贖戻ノコトヲ承諾シ又ハ承諾セザルコトヲ得ベシ但シ其承諾ヲナスト否トハ其報告ヲ得タルヨリ二十四時間ニ之ヲ其請合ヲナサレタル者ニ通知ス可シ
請合人贖戻ノ事ヲ承諾シタル時ハ其出スベキ割前高ニ準シ遲延ナク其定約ニ循ヒ贖戻ノ金高ヲ払フベシ而シテ請合ノ契約ニ循ヒ猶其物品ヲ請合フ可シ
請合人贖戻ノ事ヲ承諾セザル時ハ請合ノ高ヲ払フ可シ但シ其贖戻シタル物品ヲ得ント要ム可ラス

第九卷

海上損失ノコト

第五百六条 丸ノ事ヲ海上損失トス

船ト荷物ノ双方ニ付又ハ船或ハ荷物トノ一方ニ付非常ノ入費、船ニ荷物ヲ積入レ出帆シタルヨリ其帰着シテ荷物ヲ卸スニ至ルノ時間ニ船及荷物ニ受ケタル損害

第五百七条 海上損失ニ関係アル双方ノ間ニ別段ノ契約ナキ

片ハ後ノ数条ニ記スル所ノ定規ニ循ヒ海上損失ヲ所分ス可シ

第五百八条 海上損失ヲ區別シテ普通海上損失ト特別海上損失トス

第五百九条 普通海上損失トハ丸ノ如シ

第一 船ト積荷トノ双方ヲ贖戻スタメ掠奪者ニ與ヘタル物件

第二 船ト積荷トハ双方ヲ救フタメ海ニ投棄シタル物件
第三 船ト積荷トヲ救フタメ損シ又ハ切レタル錨綱、樁、帆
及其他ノ船具

第四 船ト積荷トヲ救フタメ海ニ投棄シタル錨、船ヲ堅固
ニスルタメ用ヰタル鉄鎖及其他ノ物件

第五 積荷ノ一部ヲ海ニ投棄スルニ付キ、其餘ノ積荷ニ加
ヘタル損害

第六 荷物ヲ海ニ投棄スルノ際、船ニ受ケタル損害又ハ其
投棄スルニ因リ生シタル損害、積荷ノ保存ヲ容易クスル
タメ又ハ水吐ヲ善クシ溜水ヲ酌ニ出タスタメ船ニ生シ
タル損害及ヒ此等ノ事柄ヨリ積荷ニ生シタル損害

第七 船ヲ守テ敵ト戦ヒ創傷ヲ被リタル乗組人ノ治療及
飲食ノ費用

第八 船用ノタメ上陸シテ虜トナリ又ハ奴隷トナリタル
乗組人ヲ贖ヒ戻スノ贖金

第九 外國ノ命ニテ差留ラレタル船又ハ戦争或ハ其他ノ
事故ニ因リ滞港シタル船ハ其時間乗組人ノ雇賃及飲食
ノ費用但此場合ニ於テハ船ノ積荷アル間ニ限ルベシ

第十 風波ニ逢ヒ或ハ敵又ハ海賊ニ追ハレ或ハ天災ニ因
リ生シタル危難ニ逢ヒ己ムヲ得ズ入税シタル船ハ水先案
内ノ入費、出入ノ税及其他航海ニ付テノ諸税

第十一 船ノ損壞アルニ因リ碇泊シテ之ヲ修復スル船ハ其
時間乗組人ノ雇賃及飲食ノ費用

第十二 船ノ修復ヲナスタメ積荷ヲ陸揚ケセリトシ之ヲ船
ヨリ卸ス費用及再ヒ之ヲ積入ル、費用並ニ荷物ヲ積置
クタメ借受ケタル場所ノ借賃

第十三 船ヲ差留メラレタル其原由、船及船長、船ノ所有者或ハ船ノ支配人ノ身上ニ関セザルニ於テハ差留メラレタル船ノ引渡又ハ贖戻ヲナスタメ払フタル金高及差留メラレタル時間乗組人ノ雇賃及飲食ノ費用

第十四 暴風及敵或ハ海賊ノ襲撃ヲ避クルタメ又ハ船及積荷ヲ救フ為ニ港口、河口或ハ堀割ニ逃避セントシ又ハ船ヲ輕クセントシ積荷ヲ卸シタルノ費用及積荷ヲ卸シ又再ヒ積入レタルタメ船及積荷ニ生シタル損害

第十五 難船又ハ敵ヨリ掠奪セラレ、船或ハ其他ノ危難ニ逢フノ船ヲ救ハントシテ生シタル船或ハ積荷ノ損害

第十六 前項ノ場合ニ於テ船ヲ浮揚セシムルニ付テノ費用及實際尽カシタル者ニ與フ可キ賞金及其手間料

第十七 第十四項ノ場合ニ於テ船ヲ輕クスルタメ他船ニ

積換ヘタル荷物ニ生シタル損失但シ其船ヲ借受ケタルニ付払フベキ貸金ノ割前モ亦此損失中ニ入ル可シ並ニ本船ニ残シ置キタル荷物ニ生シタル損害但シ此場合ニ於テハ之ヲ普通海上損失ト看做ス可キ時ニ限ル可シ

第十八 「コントラ、ア、ス、グロス」ニ付テノ費用及利子及「コントラ、ア、ス、グロス」或ハ前數項ノ入費ノ請合料及航海中己ムヲ得ズ入港ノ際荷物ヲ賣却シタルニ付其所有者ニ償フ可キ金高但シ此中ニハ之ガ為メノ諸人費ヲ含ム可シ

第十九 檢病ノ丁船及荷物ニ関シ且積荷目録ニ記載ナキ非常檢病費用但此費用中ニハ檢病ノ時間乗組人ノ雇賃及飲食料ヲ含ム可シ

第二十 普通海上損失ヲ評定スルニ付テノ費用

第二十一 其他然テ船ニ荷物ヲ積入レ出帆シタルヨリ歸

着シテ荷物ヲ卸スニ至ル迄ノ時間船ト荷物トノ安全ノ為ノ商議ノ上故ラニナシタル費用及受ケタル損害

第五百十条 船長或ハ乗組人ノ過誤不注意又ハ船ノ朽腐ニ因テ船ニ毀損ヲ生シ又ハ費用アリシキハ仮令船及荷物ヲ救護スル為メ商議ノ上故ラニ之ヲ毀損シ又ハ費用ヲ生セシ時ト虽氏之ヲ普通海上損失ト看做ス可ラス

第五百十一条 普通海上損失ハ積荷ノ全價ト船ノ價ト半並ニ船借用賃ノ半トノ割合ヲ以テ各其割付ヲ擔當ス可シ積荷ノ價ハ之ヲ卸ス所ノ地ノ相場ニ從ヒ之ヲ定ム可シ

第五百十二条 特別海上損失トハ左ノ如シ

第一 風波火難掠奪難船破船ニ因リ或ハ其他意外ノ事ニ因リ又ハ抗拒ス可ラザル災害ニ因リ生シタル荷物ノ損失或ハ損害

第二 前項ニ記シタル場合ニ於テ檣、錨、錨網、帆、網具ノ損失及其他船ニ受ケタル損害

第三 船ノ不良及荷物ノ質不良ナルニ因リ生シタル損害

第四 船ノ不注意或ハ朽腐ニ因リ水ノ浸入、船中食糧ノ欠乏或ハ其他船ノ支配人又ハ船長ノ擔當スベキ所為ニ付尽カレタル者ニ与フベキ費用

第五 契約各ニ記シタル通常檢病ノ時間、船ノ不意ノ変ニ逢フタルニ因リ又ハ朽腐ニ因リ又ハ其他船長船ノ支配人ニ歸スベキ原由ニ因リ為スベキ修理ノ時間或ハ差留ニ逢ヒ又ハ船或ハ荷物ニ関シ或港ニ艀泊ノ時間、水夫ノ雇賃及飲食ノ費用又ハ船及積荷ニ負フタル義務ヲ解除スルニ付為シタル費用

第六 荷物ヲ保全スルニ付為シタル費用或ハ品物ヲ入レ

タル樽箱又ハ上包ヲ修復スルニ付キ為シタル費用但シ
此費用ヲ普通海上損失ト看做サレバ限ル可シ
第七 第四百三条ニ記シタル場合ニ於テ船ノ借賃ノ増額
第八 船ニ荷物ヲ積入レ出帆シタルヨリ帰着レテ荷物ヲ
卸スニ至ル迄荷物又ハ船ニ付為シタル諸入費又ハ其蒙
リタル諸損害

仙四百四條

第五百十三條 特別ノ海上損失ハ損害ヲ受ケタル物ノ所有者
又ハ入費ヲ生ゼシメタル物ノ所有者之ヲ負擔シテ払フベシ
第五百十四條 船長甲板ヨリ降ル入口ヲ固鎖セズ又ハ船ノ繫
ギヲ堅クセズ又ハ之ヲ繫クタメ相当ノ綱具ヲ備ヘズ又ハ其
他然ラ船長及乗組人ノ不注意ヨリ生シタル危難ニ因リ荷物
ニ損害ヲ受ケタルハ此損害ヲ特別海上損失トシ其荷物ノ
持主之ヲ負擔ス可シ但シ此場合ニ於テハ其持主ハ船長及船

仙四百五條

ノ持主ニ對シ船價又ハ船賃ノ中ヨリ其償ヲ求ムルノ權ヲ行
フコトヲ得

仙四百六條

船長己レノ意ニ任セ或港ニ久シク碇泊シ船ノ持主ニ損失ヲ
受ケシメタルハ其持主船長ニ對シ其償ヲ求ムルコトヲ得
第五百十五條 河口、掘割、港口ノ出入ニ付水先案内ノ税引船ノ
税、引船ノ税、水先案内ノ賃、出帆免許ノ税、船ノ檢視ノ税、噸税、浮
標ノ税、碇泊ノ税及其他航海ヲナスニ付テノ諸税ハ海上損失
ト看做ス可ラス唯船主ノ擔當ス可キ通常ノ費用ナリトス但
シ第五百九條第十項ノ場合ハ此限ニ非ス

仙四百七條

第五百十六條 偶然ノ事ニ因リ船ノ互ニ衝突シ損害ヲ受ケタ
ルハ之ヲ受ケタル船ノ時主^持之ヲ負擔シ其一方ニ對シ償ヲ
請求スルコトヲ得ズ
若シ其衝突一方ノ船長ノ過失ニ因リ他ニ損害ヲ蒙ラシメタ

ル氏ハ其船長之ヲ償フ可シ

若シ其衝突ノ原由疑ハシキ時ハ損害ヲ加ヘタル船ト損害ヲ

受ケタル船ト双方ニテ同一ノ金高ヲ出シ共ニ之ヲ償フ可シ

第二項及第三項ノ場合ニ於テハ鑑定人ヲシテ其損害ノ高ヲ評

定セシム可シ

第五百十七條 普通海上損失、船ノ價ト荷物ノ價トヲ合シタル

高ノ百分ノ一ニ過キザル時又ハ特別海上損失、損害ヲ受ケタ

ル物件ノ價ノ百分ノ一ニ過キザル時ハ海上損失ノタメ償ヲ

求ムルノ訴ヲナス可ラス

第五百十八條 請合人其契約昏中ニ海上損失ヲ償ハズトノ丁

ヲ記シタル時ハ特別及普通ノ海上損失ヲ償フノ義務ヲ免カ

ル可シ但シ物件拋棄ノ場合ハ此限リニ非ズ此場合ニ於テ請

合ヲナサシメタル者其物件ヲ拋棄スルト又ハ海上損失ノ償

ヲ要ムルノ權ヲ行フト隨意ナリトス

第十卷 投荷ノ事及投荷ニ付擔當スル割合ノ事

第五百十九條 風波ニ逢ヒ又ハ敵船ニ追ハレタルニ因リ船長

船ヲ救フ可キタメ荷物一部ヲ海ニ投入レ又ハ櫓ヲ碎リ或ハ

錨ヲ棄ツ可キ時ハ荷物ノ關係者ノ船中ニ在ル者ト乗組人中

ノ重立タル者トノ見込ヲ聞ク可シ

若シ其見込各異ナル時ハ船長ト乗組人中ノ重立タル者トノ

見込ニ從フ可シ

第五百二十條 荷物ノ最モ必要ナラズ且其量最モ重ク其價ノ

最モ低キ物ヲ先キニ海ニ投棄シ次ニ船長乗組人中ノ重立タ

ル者ト商議ノ上甲板上ニアル荷物ヲ投棄ス可シ

第五百二十一條 船長ハ其相談ノ旨ヲ昏面ニ認ル可キ時ヲ得

タル氏ハ速ニ之ヲ昏面ニ記ス可シ

第四百八條

第四百九條

第四百十條

第四百十一條

第四百十二條

其各面ニハ荷物ヲ投棄シタル原因及投棄シタル物件或ハ損害ヲ受ケタル物件ヲ記ス可シ
又其各面ニハ商議ニ預リタル者之ニ手署シ或ハ其手署ヲ拒ミタル理由ヲ記ス可シ
其各面ハ簿冊ニ登記ス可シ

第五百二十二條 損失及損害ノ目錄ハ荷卸ヲナス場所ニ於テ船長ノ求メニ因リ鑑定人之ヲ作ル可シ其鑑定人ハ伊太利ノ港ニ於テ荷卸ヲナス所ハ商法裁判所ヨリ若シ之ナキニ於テハ「アレテール」ヨリ之ヲ命ス可シ若シ外國ニ於テ荷卸ヲナス所ハ領事又ハ其代理人ヨリ若シ之ナキニ於テハ其地方ノ官吏ヨリ之ヲ命ス可シ

第五百二十三條 海ニ投棄シタル物件ノ價ハ荷卸ヲナス地ノ相場ニ循ヒ之ヲ積ル可シ其價ハ積荷目錄ヲ以テ之ヲ證シ又

賣買ノ勘定書アルニ於テハ其勘定書ヲ以テ之ヲ証ス可シ

第五百二十四條 第五百二十二條ニ依リ命ゼラレタル鑑定人ハ減尽及毀損ノ割附ヲナス可シ

其割附ハ裁判所ノ允許ヲ受ケタル上ニテ之ヲ執行ス可シ外國ノ港ニ於テハ領事館ノ官吏若シ之ナキニ於テハ其他ノ相當ノ裁判官其割附ヲ允許シ之ヲ執行ス可シ

第五百二十五條 其割附ハ投棄ノ物件及存スルヲ得タル物件ノ價ノ全額ト船價ノ半額ト船賃ノ半額トニ之ヲナス可シ但其價ハ荷卸ヲナス地ノ相場ニ循ヒ之ヲ定ム可シ

第五百二十六條 若シ荷物ノ質或ハ價ヲ積荷目錄ニ偽テ實ヨリ惡ク又ハ低ク記シタル所其荷物ノ存スルヲ得タル場合ニ於テハ其見積リノ實價ニ準シ損失高ノ割附ヲナス可シ又其荷物ヲ投棄シ或ハ之ヲ損シタル場合ニ於テハ積荷目錄ニ記

シタル價或ハ質ニ準シ損失高ノ割附ヲナス可シ
 積荷目録ニ記シタル内其荷物ノ存スルヲ得タルニ於テハ積
 荷目録ニ記シタル質或ハ價ニ準シ損失高ノ割附ヲナス可シ
 若シ又其荷物ヲ投棄シ又ハ之ヲ損シタル場合ニ於テモ亦積
 荷目録ニ記シタル質或ハ價ニ準シ損失高ノ割附ヲナス可シ
 第五百二十七條 兵器及食料並ニ乗組人ノ衣服ハ存スルヲ得
 タル内ト雖モ損失高ノ割附中ニ加フ可ラズ若シ之ヲ海ニ投
 棄シタル内ハ其損失ノ價高ヲ受ク可キモノトス
 第五百二十八條 積荷目録ニ記セズ又船長ニ届スレテ積入レ
 タル荷物ハ之ヲ海ニ投棄シタル内ト雖モ其損失ノ價高ヲ受
 ク可キ部ニ入ル可ラズ若シ其存スルヲ得タルニ於テハ損失
 高ノ割附ヲ出ス可キモノトス
 第五百二十九條 甲板ニ積入レシ物件存スルヲ得タル時

ハ損失價高ノ割附ヲ出ス可シ
 若シ之ヲ海ニ投棄シ又ハ投棄ノ際損害ヲ受ケタル内ハ其持
 主損失價高ノ割附ヲ受ク可キヲ要ム可ラズ唯船長ニ對シ
 其價高ヲ要ムルヲ得
 此定規ハ第三百七十八條ニ記シタル航海ノ場合ニ適用ス可
 ラズ
 第五百三十條 若シ荷物ヲ投棄セシト雖モ船ヲ救フ丁能ハザ
 リシ内ハ損失ノ價高ヲ割附ク可シ
 此場合ニ於テ存スルニ得タル荷物ハ投棄シ又ハ毀損シタル
 荷物ノ損失ノ價高ノ割附ヲ負擔スルニ及バス
 第五百三十一條 若シ荷物ヲ投棄シタルニ因リ船ヲ救フヲ得
 テ其後途中ニ於テ復タ其船ヲ失フ丁アル時ハ存スルヲ得タ
 ル荷物其存スルヲ得タル内ト雖モ高中ヨリ之ヲ存セシムルニ

第五百三十一條 若シ荷物ヲ投棄シタルニ因リ船ヲ救フヲ得
 テ其後途中ニ於テ復タ其船ヲ失フ丁アル時ハ存スルヲ得タ
 ル荷物其存スルヲ得タル内ト雖モ高中ヨリ之ヲ存セシムルニ

付テノ費用高ヲ減ゼシ割合ヲ以テ投棄シタル荷物ノ損失償
高ノ割合ヲ擔當ス可シ

第五百三十二條

投棄シタル物件ハ其投棄ノ後ニ存在シタル

物件損失ヲ受ルコトアリト雖モ之ヲ償フニ及ハズ

荷物ハ破滅シタル船及航海ヲナスニ堪ヘザルニ至リシ船ノ

損失償高ヲ負擔スルニ及ハズ

第五百三十三條

河或ハ港或ハ掘割ニ入ルノ際船ヲ輕クスル

タメ小船ニ積ミ移シタル荷物ノ損失シタルハ船及他ノ荷

物ニ其償高ノ割附ヲナス可シ

又船ト荷物トヲ共ニ失フタル時ハ小船ニ移シタル荷物其着

ス可キ港ニ至ルト雖モ其損失ノ償高ヲ小船ニ移シタル荷物

ニ割附ク可ラズ

第五百三十四條

前數條ニ記シタル場合ニ於テ船長及乗組人

ハ損失ノ割合高ヲ得ルタメ荷物又ハ其賣代金ニ付キ債主

ノ持権ヲ有ス可シ

第五百三十五條

若シ損失ノ割附ヲナレテ償ヲ得タル後ニ嘗

テ投棄シタル荷物ノ持主其荷物ヲ水中ヨリ取出スコトアルニ

於テハ己レノ償トシテ得タル金高ヲ船長及其他管係アル者

ニ還ス可シ但シ其還ス可キ高ノ中ヨリ海ニ投棄シタルニ付

キ其荷物ノ損害ヲ受ケタル高並ニ之ヲ水中ヨリ取出スニ付

テノ費用高ヲ減ズ可シ

第十一卷 訴ヲ拒ム事

第五百三十六條

尤ノ訴ハ相手方ニ於テ之ヲ拒ムコトヲ得ベシ

荷物ノ毀損セシテ知リ故障ヲ述ブルコトナク之ヲ受取リ後

ニ船長及海上受合人ニ對シテ其損害ノ償ヲ得ントスル訴

船長積荷ヲ引渡シテ船ニ受ケタル損害ノ償ヲ得ント述ル

一、丁ナク之ヲ受取リ後ニ船長及海上受合人ニ對シテ其損害ノ償ヲ得ントスル訴

船長積荷ヲ引渡シテ船ニ受ケタル損害ノ償ヲ得ント述ルルコトヲ船賃ヲ受取リシ後ニ其船ヲ借入レシ者ニ對シテ損害ノ償ヲ得レトスル訴

船ト船ト突當リシ時船ニ損害ヲ受ケタルニ付キ船長其償ヲ得ント述ルルコトヲ得ベキ場所ニアリテ其旨ヲ述ルルコトナク後ニ至リ其償ヲ得ントスル訴

第五百三十七條 若シ荷物ヲ受取ルニ付テノ故障ヲ述ベ又ハ船ニ受ケタル損害ノ償ヲ得ント述ベタルト雖モ其故障申述ノ書面又ハ損害ノ償ヲ得レト述ル書面ヲ三日内ニ記シテ先方ニ送達シ且ツ其各面ヲ記シタル日ヨリ二ヶ月内ニ裁判所ニ訴出セザルニ於テハ其故障ノ申述又ハ損害ノ償ヲ得ント

スル申述ノ効ナシトス

若シ此等ノ書面ヲ外國ノ地方ニ送達スルハ二ヶ月ノ期限ヲ第六百一條ニ循ヒ増加スベシ

第十二卷 経時効ノ事

第五百三十八條 船ノ所有權取戻ノ訴ヲ為スベキ期限ハ十年トス此期限ヲ過キタルハ証書ノ有無ニ拘ハラズ船ノ占有者ハ其所有ノ權ヲ得ベキモノトス

船ノ占有書式ノ備ハリ且簿冊ニ登記シタル証書ヲ有スルハ其簿冊ニ登記セシ日ト其証書ノ大意ヲ船ノ所屬ヲ証スル証書ニ附記シタル日ヨリ五年ノ後ニ至リ船ノ所有ノ權ヲ得ント求ムルコトヲ得ベシ

船長ハ経時効ニ因リ船ノ所有ノ權ヲ得ベカラス

第五百三十九條 海上受合ヲ為ケンタル者受合ヲ為シタル

者ニ其物件ヲ抛棄スル訴ヲ為スベキ期限ハ其物件抛棄ノ証書ヲ作りシ日ヨリ六ヶ月トス

第五百四十條 コントラ、ス、エ、グ、ロ、スニ金高ヲ借入ル、契約又ハ海上受合ノ契約ニ付テノ訴ヲ為スベキ期限ハ其契約ノ時ヨリ五年トス

第五百四十一條 其他物件ニ因リ訴ノ期限ヲ定ムルコト左ノ如シ

船賃、船ノ役負ノ給料、水夫及其他乗組人ノ雇賃ヲ受取ルニ付テノ訴ハ其航海ヲ為シ終リタルヨリ一ケ年
船長ノ言附ニ因リ、水夫等ニ給シタル飲食料ノ代金ヲ受取ルニ付テノ訴ハ其飲食料ヲ渡シタルヨリ一ケ年
船ヲ造リ又ハ艤装シ又ハ食料ヲ備フル為メ供給シタル木財及其他ノ物品ノ代金ヲ受取ルニ付テノ訴ハ其供給ヲ為

シタルヨリ一ケ年

船ヲ造ル為メ使用ヲ受ケレエドノ雇賃及其船ノ造営料ヲ受取ルニ付テノ訴ハ其船ヲ引渡シタルヨリ一ケ年
積荷ノ引渡ヲ得ルニ付テノ訴ハ船ノ到着ヨリ一ケ年
然レモ此条ニ定メタル経時効ニ抵触スル物件ニ付テハ民法
第二百百四十二條ノ定規ヲ適用スベシ

第五百四十二條 若シ義務ヲ認ムルノ証書ヲラズ又ハ出訴期限内ニ裁判所ニ訴出セラレザルニ於テハ経時効ハ停止スルコトナシ

第三編 分散及倒産ノ事

第一卷 分散ノ事

総則

第五百四十三條 総テ金高ノ払ヲ止メタル商人ハ家資分散ヲ

為スモノトス

商人死去ノ時金高ノ払ヒヲ止メタルハ其死去ノ後家資金
散ヲ公告スルコトヲ得ベシ

其公告ハ裁判所ヨリ言渡シタルト債主ヨリ訴ヘ出タルトヲ
問ハズ其商人ノ死去シタルヨリ一年内ニ之ヲ為スベシ

第一章

分散公告ノ事其公告ノ効及分散人ノ身体ニ付

テノ所置

第四百三十八條

第五百四十四條 然テ分散ヲ為ス商人ハ金高ヲ払フコトヲ止メ
タルヨリ三日内ニ其主店アル地ノ商法裁判所ノ書記局ニ其
旨ヲ届出ツベシ但シ金高ヲ払フコトヲ止メタル日ハ其三日ノ
期限内ニ算入スヘシ

合名會社分散ヲ為スハ其届書ニ連帶ノ義務ヲ擔當スベキ
社員ノ姓名寄留所又ハ本籍ヲ記スベシ但シ其届書ハ會社ノ

主店アル地ノ商法裁判所ノ書記局ニ差出スベシ

無名會社分散ヲ為シタルハ然テ分散ニ関スル訴ハ支配人
ニ對シテ之ヲ為ス可シ又支配人ハ掛リ裁判官ノ呼出ヲ受ケ
又ハ管財人ヨリ求ムルキハ必ス其面前ニ出席スベシ

第四百三十九條

第五百四十五條 分散ノ届書ニハ積リ書ヲ添ヘ差出スベシ若
シ之ヲ差出サザル時ハ之ヲ差出シ能ハザル原由ヲ其届書ニ
記スヘシ

積リ書ニハ分散人ノ動産及不動産ノ目錄其見積リ直段貸高
有高借高損益ノ目錄費用ノ目錄ヲ記シ分散人其真正ナル証
ヲ附記シ且之ニ日附並姓名手署ヲ為スベシ

第四百四十條

第五百四十六條 分散ノ公告ハ分散人ノ届ニ依リ又ハ一人或
ハ數人ノ債主ノ訴ニ依リ又ハ商法裁判所ノ職務ニ依リ其言
渡ヲ以テ之ヲ為スベシ

其言渡書ニハ凡ノ件々ヲモ記スヘシ

分散ニ関スル訴訟ニ付掛リ裁判官ヲ任定スルコト

財産ノ封印ヲ命ズルコト

仮リニ一人又ハ数人ノ管財人ヲ命ズルコト

確定ノ管財人ヲ命ズル為メ掛リ裁判官ノ面前ニ諸債主ノ

集會スベキ場所及時日ヲ定ムルコト

訟庭ヲ開クベキ期日ハ分散公告ノ言渡書ノ日附ヨリ二十

日内ニ必ず之ヲ定ムベシ

分散公告ノ言渡書ハ仮リニ之ヲ執行フベシ

第五百四十七條 分散公告言渡書ニ依リ又ハ其後掛リ裁判官

ノ申立ノ上為シタル所ノ言渡書ニ依リ裁判所ニテ分散ニ関

係アル者ノ求ニ從ヒ又ハ職務ヲ以テ其分散人金高ノ払ヒヲ

止メタル期日ヲ定ムベシ

其期日ヲ別段定メタルコトナキ時ハ分散公告ノ言渡ヲ為シタ

ル時ヨリ^金高ヲ払フコトヲ止メタルト看做スベシ

第五百四十八條 裁判所ハ分散公告ノ言渡ト全時ニ又ハ何時

タリトモ其時ノ模様ニ因テ分散人ヲ拘留スベキノ言渡ヲ為

スコトヲ得ヘシ但シ分散人潜匿シタル場合ニ於テ既ニ他所ニ

テ捕縛セラレタル氏又ハ積リ各ヲ差出シタル氏ハ格別ナリ

トス

此場合ニ於テ分散人既ニ拘留ヲ受タル氏ハ其負債ノ如斯ナ

ルヲ問ハズ更ニ之ヲ拘留シ又ハ引續テ拘留シ置クベキノ言

渡ヲ為スベカラズ

分散人ヲ拘留スルコトハ檢事ノ監督ヲ以テスベシ

第五百四十九條 商法裁判所ノ書記役ハ分散人ノ財産ニ封印

スベキ旨ヲ附記シタル分散公告ノ言渡書ヲ遅延ナクアレテ

一レニ報告スベシ又「ガレテ」ルハ二十四時間ニ其言渡書ノ
抜抄ヲ檢事ニ送付スベシ但シ其抜抄ニハ其言渡書ノ大略ヲ
記スベシ

第五百五十條 第五百四十六條及第五百四十七條ニ循ヒ為シ
タル裁判言渡書ハ其商法裁判所及控訴院所在ノ邑内ト分散
人住居ノ邑並ニ其舖店アル各地トニ貼附ヲ為スヘシ
又其言渡書ノ抜抄ハ裁判ノ廣告ヲ刊行スル新聞紙ニ記入ス
ベシ

此等ノ廣告手續ハ其裁判所ノ書記役ニテ成ル可ク又ケ速カ
ニ之ヲ為スベシ

掛リ裁判官ハ此條及前條ノ定規ノ執行ニ付監督ヲ為スベシ
第五百五十一條 分散公告ノ言渡ヲ為シタル時ハ其言渡書ノ
日附ヨリ後ハ分散人現ニ所有スル財産並ニ後ニ所得トナル

トアルベキ財産ヲ支配スルノ權ヲ失フベシ

復権セザル分散人ハ第三十一條及第六十三條ニ記スル所ノ
外猶ホ高人タルノ職業ヲ行フト得ズ但シ債主ト和解契約
ヲ為シタル分散人ニ付第六百三十一條ニ定ムル所ハ格別ナ
リトス

又復権セザル分散人ハ劇場諸見セ物ホノ緊要トナリ又ハ
自カラ資本ヲ出シテ其支配人トナルト得ズ

又邑或ハ公立舎ノ計算掛中ノ負ニ加ハルト得ス

分散人ノ姓名若クハ分散セシ會社ナレハ連帶ノ義務ヲ負フ
タル社員ノ姓名ト其分散シタル旨トヲ一帳簿ニ登記シ且其
者ノ生存中之ヲ商法裁判所及商人集會場ノ廣間ニ貼付シ置
クベシ但シ第六百三十一條及第六百五十二條ノ定規ハ此限
ニ非ス

第五百五十二條 分散公告言渡ノ後ハ然テ分散人ノ動産又ハ
不動産ニ関スル訴ハ分散管財人ニ對シテ之ヲ為スベシ
又分散人ノ動産又ハ不動産ヲ抵償トシテ差押ユル訴モ亦分
散管財人ニ對シテ之ヲ為スベシ

然レモ裁判所ニ於テ相當ト思量スル時ハ全上ノ訴ニ付分散
人ヲ干涉セシムルコトヲ得ベシ

第五百五十三條 分散公告ノ言渡ヲ為シタルモ未タ松期限
ニ至ラザル負債ト雖モ松期限ニ至リシモノト為スベシ

切手ニ姓名ヲ手署シタル者為換手形ノ金高ヲ松フベキ承諾
ヲ為シタル者ノ分散シタル場合又ハ為換手形ノ松人之ヲ承
諾セサルモ其手形ノ差立人分散シタル場合ニ於テハ其分散
人ト連帶シテ義務ヲ負フタル者松期限ニ至リ其金高ヲ松フ
ベキノ保証人ヲ立ツベシ若シ保証人ヲ立テザルモハ即時ニ

其金高ヲ松フベシ

第五百五十四條 分散ノ公告ヲ言渡シタル後ハ特権アル債主
又ハ動産或ハ不動産ヲ質トシテ得タル債主ノ外通常ノ債主
ハ分散人ノ財産中ヨリ其息銀ヲ得ベカラズ

然レモ特権アル債主又ハ動産或ハ不動産ヲ質トシテ得タル
債主ハ其引當ト為シタル財産ノ價高ヲ限リトシテ其息銀ヲ
受取ルコトヲ得ベシ

第五百五十五條 裁判所ニテ分散人ノ金高ヲ松フコト止メタ
ル日ナリト定メタル期日ノ後ニ分散人ノ為シタル左ノ諸件
又ハ其期日ヨリ前十日内ニ分散人ノ為シタル左ノ諸件ハ其
財産ニ付無効トス

動産又ハ不動産所有ノ権ヲ償フ得ガシテ人ニ讓ル証書
未タ松期限ニ至ラザル負債ヲ償フ為メ人ニ貨幣ヲ松ヒ又

ハ財産ヲ渡レ或ハ賣リ或ハ相殺スル事
既ニ払期限ニ至リシ負債ニ付キ貨幣又ハ手形ヲ除クノ外
其他ノ物件ヲ以テ其負債ヲ払フタル事
分散人其公告言渡前ニ契約シタル負債ノ為メ已レノ動産
又ハ不動産ヲ人ニ質ト為ス契約

分散人ノ財産ヲ書入質ニスルノ契約

第五百五十六條 分散人金高ヲ払フコトヲ止メタル後未タ分散
公告ノ言渡ヲ受ケザル前ニ其分散人既ニ払期限ニ至リシ
負債ヲ人ニ払フタル証書又ハ償ヲ得テ人ニ財産ヲ賣渡ス
証書ハ其分散人ヨリ金高ヲ受取リタル者又ハ其財産ヲ買
入タル者其分散人金高ノ払ヒヲ止メタルコトヲ知テ此等ノ
事ヲ為シタル氏ハ之ヲ取消スコトヲ得ベシ

第五百五十七條 分散人金高ヲ払フコトヲ止メタル期日ノ後未

タ分散公告ノ言渡ヲ受ケザル前ニ其分散人為換手形ノ金高
ヲ払フタル氏ハ分散人ノ債主ノ全負其手形ヲ差立タル者ノ
ミニ對シ其金高取戻ノ訴訟ヲ為スコトヲ得ヘシ

又切手ニ付テハ最初裏書ヲ為シタル者ノミニ對シ今上ノ訴
ヲ為スコトヲ得ベシ

此二箇ノ中孰レノ場合ニ於テモ其取戻ノ訴ヲ為ス債主ハ為
替差立人又ハ切手ノ譲渡人ニ於テ為替手形ヲ出シ或ハ切手
ノ裏書ヲ為シタル時既ニ分散人ノ金高ヲ払フコトヲ止メタル
旨ヲ知リタルノ証ヲ立ツベシ

第五百五十八條 分散人ノ家屋ノ持主其貸賃ヲ得タルニ付キ
分散人ノ高業ヲ為スニ必要ナル動産ヲ抵償トシテ差押ヘシ
トスル処置ハ分散公告言渡ノ日ヨリ三十日ノ間之ヲ猶豫ス
ベシ但シ家屋賃主其家屋ヲ取戻スノ權利ト相抵觸スルナカ

ルベシ

家屋ノ持主直チニ其家屋ヲ取戻スノ権利アル時ハ此条ニ記シタル分散人ノ動産ヲ抵償トシテ差押ユル処置ヲ為スニ付三十日間ノ猶豫ヲ為スニ及バズ

第二章 掛リ裁判官ヲ任スル事

第五百五十九条 掛リ裁判官ハ速ニ分散ニ付テノ処置ヲ為シ且其所置ニ付監督スヘキノ任アリトス

掛リ裁判官ハ分散ノ事ニ付生シタル商法裁判所管轄ノ争ヲ裁判所ニ申立ベシ

第五百六十条 掛リ裁判官ノ言渡ハ別段法律上ニ定メタル場合ノ外故障ヲ述フルコトヲ得ズ但シ其故障ヲ述ブルキハ商法裁判所ニ之ヲ為スベシ

第五百六十一条 商法裁判所ハ何時ニテモ分散掛リノ裁判官

第四百五十二条

第四百五十三条

第四百五十四条

ヲ代ヘ他ノ掛リ裁判官ヲ任スルコトヲ得ベシ

第三章 分散人ノ財産ニ封印ヲ為ス事

第四百五十七条

第五百六十二条 「プロテクトル」ハ第五百四十九条ニ記シタル報告ヲ得タルキハ分散管財人ノ立會ヲ為スト為サルコトヲ問ハズ二十四時間ニ財産ノ封印ヲ為スベシ

又分散人逃亡シ又ハ其財産ノ全部或ハ一部ヲ他所ニ運搬シタルキハ「プロテクトル」分散公告ノ言渡前又ハ其言渡ノ報告ヲ得ザル前ト雖モ自己ノ職務ヲ以テ又ハ債主一人或ハ数人ノ求メニヨリ封印ヲ為スコトヲ得ベシ

第四百五十八条

第五百六十三条 封印ハ分散人ノ倉庫、事務所、勘定部屋、金櫃、書類、簿冊、書類家具等ニ之ヲ為スベシ
合名會社ノ分散シタルキハ其主店、支店、並ニ連帯ノ義務ヲ負フベキ各社員ノ住居ニ於テ封印ヲ為スベシ

孰レノ場合ニ於テモ「ブ」レハ封印ヲ為シタル旨ヲ遅延
ナク商法裁判所ノ長官ニ報告スベシ

第五百六十四條 分散人及其家族ノ日用ニ欠ク可ラザル衣類
諸器具及傢具ハ封印ヲ為スベカラバ而シテ必ず其封印ヲ為
サレル物品ノ畧記目錄ヲ作ルベシ但シ此場合ニ於テ管財人ヨリ
別段ノ方法ヲ設ケンコトヲ願出ルルハ格別ナリトス

第五百六十五條 掛リ裁判官分散人ノ財産目錄ヲ一日内ニ作
リ得ベシト思料スルルハ財産ヲ封印スルコトナク直チニ仮ノ
管財人ヲシテ其目錄ヲ作ラシムベキ旨ヲ言渡スコトヲ得ベシ

第五百六十六條 分散人ノ金高ヲ以テ分散公告言渡ノ費用其
言渡ヲ新聞紙ニ記入シ及其言渡書ノ寫ヲ貼附スルノ費用封印
印ヲ為スノ費用分散人ヲ捕ヘ之ヲ拘留シ置クノ費用ニ充ル
ニ足ラザル時ハ掛リ裁判官ノ言渡ニ從ヒ官金ヲ以テ其費用

ヲ立替ヘ置キ官ニ於テハ後ニ分散人ノ財産ヲ賣出ヒ得タル
金高中ヨリ其償ヲ得ヘキノ特権アリ但シ其特権ヲ以テ分散
人ニ貸シタル家屋持主ノ特権ヲ害スルコトナカルベシ

第四章 分散管財人ノ事

第一款 恣規則

第五百六十七條 掛リ裁判官ハ分散公告ノ言渡昏中ニ預メ定
メタル時日ニ諸債主ヲ集會セシメ諸債主ノ算計書ヲ作ルコ
ト並ニ真ノ管財人ヲ任スルコトニ付商議ヲ為スベシ但シ掛リ裁
判官ハ其債主ノ述べル所ヲ調昏ニ認メ之ヲ裁判所ニ示スベ
シ

第五百六十八條 裁判所ニテハ其調昏ト債主ノ算計書トヲ檢
視シ且掛リ裁判所ノ申立ヲ聽キタル上ニテ更ニ真ノ管財人
ヲ任シ又ハ仮ノ管財人ヲ真ノ管財人ニ改メ任スベシ

真ノ管財人ハ恣テ分散ノ財産ヲ処置スル諸事ノ終ル迄其職務ヲ行フベシト虽モ別段定メタル場合ト左ノ法式トニ循
テ裁判所ヨリ之ヲ退クルコトヲ得ベシ

第五百六十九條 管財人ノ數ハ何時ニテモ之ヲ三負マデハ増
スコトヲ得ベクシテ之ヲ債主中ヨリ撰ミ又ハ債主ニ非ル者ヲ
用キルコトヲ得ベシト虽モ分散ノ血屬ノ親及姻屬ノ親ノ四
級ニ至ルマデノ者ハ撰ミニ當ルコトヲ得ベカラズ

管財人ハ其管財ノ所置ヲ為シ終リ其算計畚ヲ出シタル上謝
金ヲ受ルコトヲ得ベシ但シ其謝金ノ高ハ裁判所ニテ掛リ裁判
官ノ申立ヲ聽タル上之ヲ定ムベシ

第五百七十條 裁判所ノ書記局ハ仮ノ管財人又ハ真ノ管財人
ニ任セラレタルモ其ハ真ニ其管財人ニ辞令書ヲ送達スベシ
管財人ノ任ヲ受クルコトヲ承諾セザル者ハ其辞令書ノ送達ヲ

得タル時ヨリ二十四時間内ニ其旨ヲ裁判所ニ申出ツベシ

又管財人ノ職ヲ承諾セシ後ト虽モ正當ノ原由アルモ其任
ヲ免ゼラレシコトヲ裁判所ニ求ムルヲ得ベシ然レモ未タ他ノ
管財人ヲ任セラレザルノ間ハ管財ニ付テノ事務ヲ取扱フベ
シ

第五百七十一條 一人又ハ數人ノ真ノ管財人ヲ増シ或ハ更ニ
任ズベキハ掛リ裁判官ハ其旨ヲ裁判所ニ申立ツベシ裁判所
ハ諸債主ノ集會ノ調書ヲ檢視シタル上管財人ヲ任ズベシ但
此場合ニ於テハ第五百六十七條及第五百六十八條ニ循フベ
シ

若シ管財人ヲ増任シ又ハ改任スルコト全ク一時ノ為メナルモ
ハ裁判所ハ掛リ裁判官ノ申立ノミニ依リ之ヲ任ズベシ

第五百七十二條 管財人數人アルモ皆連帯シテ其職務ヲ行

フベシ然レ氏掛リ裁判官ハ其管財人中ノ一人ニ別段定メタル所置ヲ為スベキ任ヲ授クルト得ベシ但シ其別段定メタル所置ニ付テハ其任ヲ受ケタル管財人ノ其責ニ任ズベシ
第五百七十三條 管財人ノ所為ニ付争ノ生ズル時ハ掛リ裁判官ハ三日内ニ其裁判ヲ為スベシ但シ其裁判ニ服セザル者ハ商法裁判所ニ訴へ出ヅベシ
掛リ裁判官ノ裁判ハ仮リニ之ヲ執行スベシ

第五百七十四條 掛リ裁判官ハ分散人又ハ債主ノ求メニ因リ又ハ自己ノ職務ヲ以テ管財人中ノ一人又ハ數人ヲ選ケシト裁判所ニ申立ルト得ベシ
若シ分散人又ハ債主ヨリ管財人ヲ選ケント求メタル時掛リ裁判官八日内ニ其旨ヲ裁判所ニ申立ザルニ於テハ分散人又ハ債主ヨリ其旨ヲ裁判所ニ訴へ出ルト得ベシ

裁判所ニテハ裁判官會議ノ室ニ於テ掛リ裁判官ノ申立ト管財人ノ辨解トヲ聞キタル上吟味ノ席ニテ之ヲ選クルト否トヲ言渡スベシ

第二款 管財人ノ職務

第五百七十五條 分散管財人ヲ任スル前ニ未タ分散人ノ財産ニ封印ヲ為サザルハ管財人ヨリ「ブレテ」ルニ其封印ヲ為ス可キ旨ヲ求ムベシ

第五百七十六條 又掛リ裁判官ハ管財人ノ求メニ從ヒ左ノ物件ニ封印ヲ為ス丁ナカルベキ旨ヲ言渡シ又ハ既ニ封印ヲ為シタル時ハ其封印ヲ取除クベキ旨ヲ言渡ス丁ヲ得ベシ

物件

第一 日ヲ経ズシテ腐敗スベキ物件又ハ卑惡ニ至ルベキ物件
第二 分散人ノ商業ヲ為スニ必用ナル物件

但シ其職業ヲ停止スルハ債主ニ損害アルハ
前數項ニ記シタル物件ハ「アレテ」ルノ面前ニ於テ管財人目
録ヲ作り其評價ヲ附記シ「アレテ」ルハ其旨ヲ調書ニ記シ姓
名手署ヲ為スベシ

第五百七十七條 腐敗シ又ハ卑劣ニ至ルベキ物件或ハ保有ス
ルニ許多ノ費用ヲ要スル物件ヲ賣ルフ「及」分散人ノ商業ヲ
繼續シテ行ハシムル「及」管財人ヨリ之ヲ掛リ裁判官ニ願ヒ
其許可ヲ得タル上之ヲ為スヘシ

第五百七十八條 又掛リ裁判官ハ管財人ノ求メニ因リ左ノ物
件ニ封印ヲ為シタルハ之ヲ除去スベキ旨ヲ言渡ス「及」得
ベシ

第一 分散人ノ商業簿冊但シ「アレテ」ルハ之ヲ檢視シタ
ル上管財人ニ渡シ又其簿冊ノ現在ノ模様ヲ簡略ニ調書

ニ記ス可シ

第二 日ヲ経ズシテ金高ノ受取期限ニ至ルベキ手形類又
ハ他人ヲレテ金高ヲ払フノ承諾ヲ為サシムベキ手形類
其他總テ分散人ノ権利ヲ保全スル処置ヲ為スベキ手形
類但シ此場合ニ於テ「アレテ」ルハ掛リ裁判官ノ監督ヲ
受ケ其目録ヲ作り其手形類ヲ管財人ニ渡シ金高ヲ受取
ルベキ手續ヲ為サシムベシ又其目録ノ寫ハ掛リ裁判官
ニ渡スベシ

其他分散人ノ得ヘキ金高ハ管財人之ヲ受取リ其受取書ヲ出
スベシ

第五百七十九條 分散人ニ宛テ贈リタル書簡ハ管財人ニ渡シ
管財人之ヲ開封スベシ但シ分散人其席ニアル時ハ書簡開封
ノ立會ヲ為スベシ

分散人ニ宛テ贈リタル書簡ニ商業ニ関スル事件記載アラザ
 ルハハ管財人之ヲ直ニ分散人ニ渡し其書簡ニ記載アル事件
 ハ決テ他ニ漏洩スベカラズ

第五百八十条 分散人禁錮或ハ拘留ヲ受ケタルハ掛リ裁判
 官分散事務ノ模様ニ從ヒ分散人ニ仮リノ宥免状ヲ與ヘテ之
 ヲ宥免スベキノ申立ヲ裁判所ニ為ス可ラ得ベシ

裁判所ニテ宥免状ヲ与フル時ハ裁判所ヨリ分散人ヲシテ出
 席ヲ為スニ付テノ保証人ヲ立テシムルコトヲ得ベシ若シ分散
 人出席セサル時ハ保証人裁判所ニテ定メタル金高ヲ払ヒ其
 金高ハ之ヲ分散人ノ財産合部中ニ加入スベシ

宥免状ノ寫ハ檢事ニ出スベシ檢事ハ分散ノ場合ニ付若シ刑
 事ノ訴訟ヲ為スベキ時ハ其宥免ノ言渡書ニ付故障ヲ述フル
 コトヲ得ベシ

第五百八十一条 掛リ裁判官分散人ニ宥免状ヲ與フベキノ申
 立ヲ為サル時ハ分散人ヨリ其旨ヲ裁判所ニ願出テ裁判所
 ニテ掛リ裁判官ノ申立ヲ聽タル上公ケノ吟味ノ席ニ於テ之
 ヲ裁判スベシ

第五百八十二条 分散人ハ自己ト家族トノ為メ其財産中ヨリ
 養料ヲ受ルコトヲ得ベシ但シ其養料ノ高ハ管財人申立ノ上
 掛リ裁判官之ヲ定ムベシ若シ此事ニ付争ヒノ生シタル時ハ
 裁判所ニ訴へ出ツベシ

第五百八十三条 管財人ハ分散人ノ面前ニ於テ其簿冊ヲ取調
 ヘ記載ノ事件ヲ示シ且其所得ト負債トヲ檢視シ簿冊ヲ緘束
 シ及姓名手署ヲ為スベキ為メ其分散人ヲ招クベシ

若シ分散人其招キニ應ゼザルハ遅クトモ四十ハ時間ニ出
 席スベキノ呼出ヲ受クベシ

禁錮或ハ拘留ヲ受タル分散人ハ名代人ヲ出ス可ト得ベシ
 禁錮或ハ拘留ヲ受クルコトナク又ハ仮リノ宥免状ヲ得タル分
 散人ハ故障ノ旨ヲ辨解シ掛リ裁判官其辨解ノ旨ヲ相當ナリ
 ト思量スル時ハ名代人ヲ出ス可ト得ベシ
 仮令ニ分散人禁錮或ハ拘留中タリモ掛リ裁判官ハ商業簿冊
 ヲ取調ブル場所ニ其分散人ヲ連レ行カシムルコトヲ得ベシ
 第五百八十四條 若シ分散人積書ヲ出サバル時ハ管財人ハ分
 散人ノ簿冊並ニ書類ト其知り得ル丈ケノ憑拠トニ從ヒ直チ
 ニ其積書ニ記スベシ
 若シ分散人ノ出シタル積書ニ失誤脱落アルキハ管財人其書
 直シノ手續ヲナスベシ
 如此クシテ積書出来タル上ハ之ヲ商法裁判所ノ書記局ニ出
 スベシ

第五百八十五條 掛リ裁判官ハ積書ヲ作ルニ関シタル諸件並
 ニ分散ノ原由ト模様トニ付分散人及其使用スル者又ハ其他
 ノ者ノ申述ヲ聴クコトヲ得ベシ

第五百八十六條 若シ商人死去シタル後ニ其分散ノ公告ヲ為
 シ又ハ其公告ヲ為シタル後ニ分散人死去シタル時ハ其寡婦
 及子又ハ其遺物相續人積書ヲ作ルコト簿冊ヲ取調ブルコト又ハ
 其他分散ニ関スル所置ニ付本人ニ代テ自ラ出席シ又ハ名代
 人ヲ出ス可ト得ベシ

第三款 封印ヲ取除ク事及目錄ノ事

第五百八十七條 管財人ハ其任ヲ得タルヨリ三日内ニ封印ヲ
 取除クコトヲ求メ分散人ノ面前ニテ又ハ之ヲ招キテ来ラザル
 キハ一人ニテ其財産ノ目錄ヲ作ルコトニ取掛ルベシ
 此条ニ記スル目錄ヲ作ルコトニモ訴訟法ニ定メタル法式ヲ適

用スベシ但シ次条ニ定ハル所ハ格別ナリトス
第五百八十八条 管財人ハ「アレテ」ルノ面前ニ於テ目錄二通
ヲ作り「アレテ」ル其目錄ニ姓名ヲ署テ為スベシ
其一通ハ二十四時間ニ裁判所ノ書記局ニ納メ他ノ一通ハ管
財人ニ預リ置クベシ
管財人ハ目錄ヲ作り又ハ財産ノ評價ヲ為スニ付キ已レノ相
當ト思量スル人ヲ擇ミ自カラ助ケトナスコトヲ得ベシ
第五百七十六条及第五百七十八条ニ循ヒ封印ヲ為サズレテ
既ニ仮目錄ニ其價ヲ記シタル物件ハ確定ノ目的ト照合ハス
ベシ

第五百八十九条 商人死去ノ後分散ヲ公告シ其以前ニ目錄ヲ
記シタルコトナキハ又ハ目錄ヲ記スル前ニ分散人ノ死去シタ
ルハ相續人ノ面前ニテ又ハ之ヲ招キテ猶未ラザル上ニテ
直チニ前条ニ記シタル法式ニ循ヒ其目錄ヲ作ルコトニ取掛ル
ベシ

第五百九十条 総テ分散ヲ為シタル場合ニ於テハ真ノ管財人
其任ヲ受タルヨリ十五日内又ハ仮リノ管財人真ノ管財人ト
ナリタルヨリ十五日内ニ掛リ裁判官ニ分散ノ模様其原由及
其種類ヲ簡略ニ記シタル覺書ヲ差出スベシ
掛リ裁判官ハ其覺書ニ已レノ意見書ヲ添ヘテ直チニ之ヲ檢
事ニ送附スベシ若シ掛リ裁判官預定ノ期日内ニ管財人ヨリ
其覺書ヲ受取ラザル時ハ其遅延ノ旨ヲ檢事ニ報告シ且其原
由ヲ陳述スベシ

第五百九十一条 檢事ハ何時ニテモ分散人ノ住所ニ至リ目錄
ヲ作ル時立會ヲ為スコトヲ得ベシ
又檢事ハ何時ニテモ分散人ノ証書簿冊書類ヲ檢視セント求

ルノ権アリ

第四款 商品及動産ヲ賣払フ事並ニ分散人ノ得可キ
金高ヲ受取ル事

第四百八十四条

第五百九十二条 目錄ヲ記シ終リタル後分散人ノ商品、貨幣、貸
金ノ証書、簿冊、書類、動産及手形ヲ分散管財人ニ渡シ其管財人
目錄ノ末ニ此等ノ諸件ヲ預リタル旨ヲ附記スベシ
貨幣ハ第五百九十七条ノ定規ニ循ヒ管財人ヨリ裁判所ノ預
リ役所ニ之ヲ預ク可シ

第四百九十五条

第五百九十三条 管財人ハ掛リ裁判官ノ監督ヲ受ケ分散人ノ
他ヨリ得可キ金高ヲ受取ル手形ヲ為ス可シ

第四百八十六条

第五百九十四条 掛リ裁判官ハ分散人ヲ呼出シテ其出席シタ
ル上又ハ呼出シテ猶出席セザル上ニテ商品及手形ヲ賣払フ
ベキトシ管財人ニ言渡ストヲ得ベシ又其裁判官ハ商品及手

形ハ通常ノ方法ニテ賣払ヒ又ハ商業世話人又ハ別段公ケニ
任ヲ得タル者ノ世話ニテ競賣ニ為スベキノ言渡ヲ為ストヲ
得ベシ

此等ノ言渡ニ付不服ナルハ控訴スルトヲ得ベシ

第四百八十七条

若シ商業世話人又ハ別段公ケニ任ヲ得タル者ノ世話ニテ競
賣ヲ為スベキハ管財人ハ掛リ裁判官ヨリ指示シタル此等
ノ世話人中ヨリ其世話ヲ為サシメント欲スル者ヲ擇ムベシ
第五百九十五条 管財人ハ掛リ裁判官ノ允許ヲ得テ分散人ヲ
呼出シ出席シタル上又ハ呼出シテ出席セザル上ニテ分散人
ノ財産ノ合部ニ関スル争ニ付和解ヲ為ストヲ得ベシ但シ不
動産所有ノ権利ニ関シタル争ト雖モ管財人其和解ヲ為スト
ヲ得ベシ

若シ千五百リト以上ノ價高ニ関シタル争ノ事件ナルハ又

ハ其價高不定ナル時ハ動産ニ付テハ商法裁判所ヨリ管財人
ノ和解ノ証書ヲ認可シ不動産ニ付テハ民事裁判所ヨリ其証
書ヲ認可セシ上ニ非レバ其和解ノ確定ノ効ナカル可シ
管財人ノ為シタル和解証書ノ認可ハ裁判所ニ於テ分散人ヲ
出席セシメ其申立ヲ聴キ又ハ呼出し猶出席セザル上ニ非レ
バ之ヲ為スベカラズ但シ其分散人ハ和解ニ付故障ヲ述ブル
ノ權アリトス若シ不動産ニ関シタル和解ノ証書ナルハ其
和解ヲ差止ムルニハ分散人ノ述ブル故障ノミヲ以テ足レリ
トス

第五百九十六條 分散人拘留又ハ禁錮セラレシトナキ時又ハ
一度拘留又ハ禁錮セラレ候ノ宥免狀ヲ得タル時ハ管財人
分散事務ノ助ケヲ得ヘキ為メ其分散人ヲ用井ルトシテ得ベシ
但シ此場合ニ於テハ掛リ裁判官分散人ヲ用井ルニ付テノ約

定テ定ムベシ

第五百九十七條 分散人ノ財産ヲ賣払フテ得タル金高并ニ分
散人ノ為メ人ヨリ取戻シタル金高ハ直チニ裁判所ノ預リ役
所ニ預ク可シ但シ裁判入費及管財事務ノ入費トシテ掛リ裁
判官ノ定メタル金高ハ其中ヨリ引去ルベシ○管財人ハ此等
ノ金高ヲ受取リタルヨリ三日内ニ之ヲ預リ役所ニ預ケタル
旨ヲ掛リ裁判官ニ証スベシ若シ管財人其金高ヲ預クルトシ
急リシ時ハ其利息ヲ払フベシ

第五百九十八條 管財人ノ預リ役所ニ預ケタル金高及其他總
テ分散人算計ノ為メ他人ヨリ預リ役所ニ預ケタル金高ハ掛
リ裁判官ノ言渡ヲ得タル上ニ非レバ之ヲ取戻ス可ラズ○若
シ管財人其金高ヲ取戻サントスル時故障ヲ述ブル者ナルハ
ハ管財人先ツ其故障ノ放除ヲ得タル上ニ非レバ之ヲ取戻ス

了ヲ得ス

預リ役所ニ預ケタル金高ヲ分派スルニハ管財人己レノ作リ
シ分派目錄ニ從ヒ金高ヲ払渡スベキノ証券ヲ分派ヲ得ベキ
各債主ニ渡スベシ其証券ハ掛リ裁判官ノ允許ニ依リ執行ス
ベキモノトス○其金高ハ預リ役所ニ於テ直ニ債主ニ払ヒ渡
スベシ

第五款 分散人ノ權利ヲ保護スル処置

第五百九十九條 管財人ハ其任ヲ受ケタル日ヨリ以來左ノ処
置ヲ為スベシ

分散人ノ負債者ニ對シ分散人ノ權利ヲ保護スルニ付テノ
總テノ所置

分散人自カラ其負債者ノ不動産ニ付書入質ノ權利ヲ記入ヲ
求メザルニ於テハ管財人自カラ其記入ヲ求ムルコト但シ管

財人其記入ヲ求メントスル時ハ其目錄ニ己レ管財人ノ任
ヲ受ケタルノ旨ヲ証スル裁判所ノ書記局ノ証券ヲ添テ之
ヲ書入質役所ニ出シ分散人ノ債主全員ノ名目ニテ其記入
ヲ為スベシ

管財人己レノ知り得ル文ケ分散人ノ不動産ニ付キ債主全
員ノ名目ニテ書入質ノ權利ヲ記入ヲ求ムルコト又其記入ヲ求
メントスル時ハ前項ノ定規ニ循ヒ証券ヲ書入質役所ニ出
スベキコト

第六款 債主ノ權ヲ檢査スル事

第六百條 分散公告ノ言渡ヨリ以來債主等ハ其得ント求ムル
金高ノ目錄ト共ニ其証券ヲ書記局ニ出スベシ但シ書記官ハ
之ヲ受取リテ其受取書ヲ渡スベシ○書記官ハ債主ノ檢査ノ
始末書ヲ作りシ日ヨリ五年間ハ其証券ヲ擔當スベシ

第六百一条 仮リノ管財人ヲ真ノ管財人ニ改メ任シタル時又ハ更ニ真ノ管財人ヲ任シタル未タ証書ヲ出サバル債主アルキハ直チニ裁判上ノ廣告ヲ刊行スル新聞紙ノ記入ト書記官ノ書状トヲ以テ其債主ニ其記入ヨリ二十日内ニ其証書ト其求ル所ノ金高ノ目錄トヲ管財人ニ出スベキ旨ヲ報告スベシ又債主若シ其証書ト其求ル金高ノ目錄トヲ管財人ニ出サバレバ之ヲ商法裁判所ノ書記局ニ出スベシ但シ此場合ニ於テハ書記官ハ其証書ノ受取書ヲ與フベシ

債主中ニ伊太利國內ニ住スルト雖モ其住所分散ノ訴訟ヲ管轄スル裁判所々在ノ邑外ノ者アルキハ二十日ノ期限ニ猶尤ノ日數ヲ増スベシ

債主ノ住所及ヒ其債主ノ出頭スベキ地各其邑異ナリテ分散ノ訴訟ヲ管轄スル裁判所ノ管内ニアルキハ二日

債主ノ住所其訴訟ヲ管轄スル裁判所ノ管轄地ノ境界ニア
ル時又ハ其裁判所ヲ管轄スル控訴院ノ管内ニアルキハ五
日

債主ノ住所其控訴院ノ管轄地ノ境界ニアルキハ十日

石ノ外債主ノ住所伊太利國內ニアルキハ十五日

海ヲ隔テシ裁判所ノ管轄地ハ其地ノ境界ト看做スベカラ
ズ

歐洲内ニテ伊太利國外ニアル債主ノ住所ニ付テハ出席ノ
期限ヲ九十日トス

又歐洲外ニ住スル債主ニ付テハ其期限ヲ百八十日トス

第六百二条 債主權ノ検査ハ前条中伊太利國內ニ住スル債主
ノ為メニ定メタル期限ノ終リシ時ヨリ三日内ニ之ヲ始ム可
シ○其検査ハ间断ナク之ヲ為ス可シ又掛リ裁判定ノ定メタ

場所ト時日トニ於テ之ヲ為ス可シ又前條ニ記シタル債主
ヘノ報告書ニハ其検査ヲ為ス場所ト時日トヲ記スベシ○然
レ氏此事ニ付キ掛リ裁判官必要ナリト思量スルハ新聞紙
ニ記入シ且書記官ヨリ書状ヲ送りテ更ニ改メテ債主ニ報告
シ之ヲ招集スルコトヲ得ベシ

第四百九十三條

第六百三條 管財人債主タルハ其債主権ヲ検査スルニハ掛リ

裁判官積リ書ニ從ヒ最モ權利多キ債主ノ中二人ヲ呼出シテ
之ヲ為サシムベク其他ノ債主権ハ管財人ヲシテ検査ヲ為サ
シムベシ

然テ債主権ノ検査ハ掛リ裁判官及ヒ債主又ハ其名代人ノ面
前ニ於テ為スベシ

既ニ債主権ノ検査ヲ受タル債主又ハ未タ其検査ヲ受ザル者
ト雖モ分散人ヨリ得ベキ金高アルコトヲ積リ書ニ記入シタル

債主ハ他ノ債主権ヲ検査スルニ付其立會ヲ為シ且既ニ濟タ
ル検査及後ニ為スベキ検査ニ付故障ヲ述フルコトヲ得ベシ又
分散人モ全一ノ権アリトス

第四百九十五條

第六百四條 掛リ裁判官ハ債主権検査ノ始末書ヲ記スベシ○

其始末書ニハ債主又ハ其名代人ノ住所ト証書ノ大略ヲ記シ
且其証書ニ書入及塗抹ノ文アレバ其旨ト其証書ニ付キ争ノ
有無トヲ記スベシ

第六百五條 何レノ場合ニ於テモ掛リ裁判官ハ関係者ノ願ニ
依リ又ハ自己ノ職務ヲ以テ債主ノ簿冊又ハ其抜抄ヲ差出ス
ベキ旨ヲ言渡スコトヲ得ベシ

第四百九十七條

第六百六條 債主権ノ一部又ハ全部ニ付キ争ヒナキ時ハ管財

人其証書ニ何月何日幾許ノ金高ヲ分散人某ヨリ得ベキコトヲ
許スト云ヘル語ヲ附記スベシ

掛り裁判官ハ管財人ノ為シタル附記ニ檢印ヲ為スベシ
第六百七条 各債主ハ債主権檢査ノ後八日內ニ掛り裁判官又
ハ其他訴訟法ニ定メタル裁判官ノ面前ニ於テ己レノ証書ニ
記載アル所ノ得ベキ金高ハ決レテ相違ナキ旨ノ誓ヲ為スベ
シ
既ニ証書ノ檢査ヲ受ケタル債主ハ八日ノ期限ヲ過キタル後
ト雖モ其誓ヲ為スコトヲ得ベシ○未タ誓ヲ為サル債主其誓
ヲ為スニ至ルマデハ諸債主ト分散人トノ和解契約ヲ為ス訟
廷及其他ノ訟廷ニ出席シテ管涉ヲ為スヲ得ズ又分散人ノ財
産分派ヲ受クベキ債主ノ列ニ加ハリ又ハ既ニ言渡ニナリタ
ル分派ノ執行ヲ遷延セシムルヲ得ズ但シ第六百十四条ノ未
項ノ定規ニ循ヒ其誓ヲ為サル債主後ニ別ノ財産ニ付分派
ヲ受クルノ権利ハ失ハザルモノトス

掛り裁判官ハ管財人ヲ問ヒタル後伊太利國內ニ住所アラ
ザル債主ニハ其権利ノ金高ニ付誓ヲ為スベキ義務ヲ免ズル
コトヲ得ベシ但シ裁判所ニ於テ誓ヲ為スベキ旨ヲ求ムルハ
格別ナリトス○此誓ノ義務ヲ免カレタル債主権ハ誓ヲ為レ
タル証書ト看做スベシ

第六百八条 若シ商業上ノ債主権ニシテ其金高千五百リ
ト近ノモノナルハ掛り裁判官之ニ付キ生シタル争ヲ裁判ス
ベシ但シ此裁判ニ付不服ナルハ裁判所ニ訴ヘ出ツベシ又
千五百リト越ヘタル金高ノ証書ニ付争ノ生シタルハ
掛り裁判官其事件ヲ裁判所ニ廻スベシ裁判所ハ掛り裁判官
ノ申立ヲ聽キタル後之ヲ裁判スベシ
若シ争ノ生シタル債主権民事上ニ関スルモノナルハ掛り
裁判官之ヲ分散ノ事件ヲ取扱フ商法裁判所アル地ノアレテ

トシ又ハ民事裁判所ニ送附スベシ

第六百九条 債主権ノ争ヲ商法裁判所ニ於テ吟味スベキ時第六百一条及第六百七条ニ猶ヒ伊太利国内ニ居住セザル債主ノ為メ定メタル期限ノ終ラザル内ニ確定ノ裁判ヲ為シ得ベカラザルニ於テハ商法裁判所ニテ債主ト分散人トノ和解契約書ヲ作ラシムル為メ債主ヲ召集ムルコトヲ延スベキ旨又ハ之ヲ召集ムルコトニ取掛ルベキ旨ヲ言渡スベシ
若シ裁判所ニ於テ債主ヲ召集ムルコトニ取掛ルベキ旨ヲ言渡シタル所ハ債主権ノ争ヲ受ケタル債主ハ裁判所ノ言渡書ヲ以テ持ニ定メタル金高ニ付其會議ノ席ニ依リニ参加スベキコトヲ其裁判所ヨリ定ムルコトヲ得ベシ

第六百十条 前条ノ争ヲ民事裁判所又ハ「プロテール」ニ申出テタル所ハ商法裁判所ニテ債主ヲ召集ムルコトヲ延スベキ旨又

ハ之ニ取掛ルベキ旨ヲ定ムベシ若シ債主ヲ召集ムベキ旨ヲ言渡シタル所ハ民事裁判所又ハ「プロテール」ハ双方ノ者ノ願ニ依リ管財人及諸債主ノ面前ニ於テ其債主権ニ付争ヲ受ケタル債主ヲ假リニ會議ニ参加セシムベキヤ否ヲ速ニ裁判スベシ且其参加ヲ許ス時ハ幾許ノ金高ニ至ル迄之ヲ許スベキヤヲ裁判スベシ

第六百十一条 若シ債主権ニ付罪犯吟味ヲ為スベキコトアル所ハ前項ニ等シク商法裁判所ニテ債主ヲ召集ムルノ手續ニ取掛ルベキヤ否ヲ言渡スコトヲ得ベシ但シ之ニ取掛ルベキコトヲ言渡シタル時ト虽モ其争ヲ受タル債主ハ假リニ債主ノ會議ニ参加スルコトヲ得ズ又其債主ハ掛リ裁判所ニテ言渡ヲ為サハル間ハ分散ニ関シタル処置ニ干渉スルコトヲ得ズ

第六百十二条 持権又ハ書入質ノ権ノミニ付争ヲ受ケタル債

主ハ通常ノ債主ト看做シ債主ノ會議ニ参加セシムルコトヲ得
ベシ

第六百十三条 伊太利國內ニ住スル債主ニ付第六百一条及第
六百七条ニ定メタル期限ノ終リシ後ハ債主ト負債主トノ和
解契約書ヲ作ルコト及然テ分散ニ関シタル処置ニ取掛ルベシ
但シ伊太利國外ニ住スル債主ノ為メ第六百八十条及第六百
八十一条ニ定メタル場合ハ格別ナリトス

第六百十四条 定期内ニ出席セザル債主ハ其人ノ知レタルト
否トヲ問ハズ金高ノ分派中ニ加ハルベカラズ然レ其債主
ハ金高ノ全部ノ分派シ終ラザル迄ニ其分派ニ付故障ヲ述
ルコトヲ得ベシ但シ其故障ヲ述ブル費用ハ之ヲ述ブル債主自
カラ擔當スベシ

證書ノ金高ヲ得ベキヲ許スト許サバルトノ裁判ハ第六百八

条ニ循ヒ之ヲ為スベシ

債主故障ヲ述ブルト雖モ掛リ裁判官ノ言渡シタル金高分派
ノ執行ヲ止ムベカラズ然レ其故障ノ申述ヲ裁判セザル内
ニ更ニ金高分派ヲ為スベキ時ハ其故障ヲ述ブル債主裁判所
ヨリ假リニ定メタル金高ヲ得ベキノ權ヲ得其故障ノ裁判ニ
至ルマテ其金高ヲ取除ケ置クベシ

其故障申述ノ裁判ヲ為シタル上故障ヲ述べタル債主ノ証書
真正ノモノナルコト分明ナリシ時ト雖モ其債主ハ掛リ裁判官
ノ言渡ニ依リ嘗テ分派シタル金高中ヨリ己レノ部分ヲ取戻
サント求ムベカラズ然レ其債主ハ嘗テ初メノ分派ノ時已
レノ得ベキ割合ノ金高ヲ未ダ分派セザル金高中ヨリ受クベ
キノ權アリトス

第五章 分散ノ和解契約書及債主ノ連結

第一款 債主ヲ呼集ムルノ及共會議

第六百十五條 第六百七條中ニ定メタル債主ノ誓ヲ為スベキ
期限ノ後三日内ニ掛リ裁判官ハ書記官ヲシテ分散ノ和解契
約書ヲ作ルニ付キ其會議ヲ為サシムベキ為メ諸債主ヲ呼集
メシムベシ但シ其呼出ヲ受クル債主ハ其債主推ノ檢査ヲ受
ケ且誓ヲ為シタル者又ハ假リニ其債主ノ會議中ニ参加スベ
キノ許ヲ得タル者ニ限ルベシ
諸債主ヲ呼集ムルニハ書記官ヨリ其債主ニ呼出ノ書狀ヲ送
達シ且其旨ヲ第五百五十條ノ定規ニ循ヒ新聞紙ニ記入スベ
シ但シ其書狀及新聞紙ニハ其會議ノ趣旨ヲ記スベシ

第六百十六條

掛リ裁判官ノ定メタル場所ト時トニ於テ其
裁判官上席ヲ為シ債主等ノ會議ヲ為スベシ但シ其債主等ハ
自カラ出席ヲ為シ又ハ名代人ヲ出スコトヲ得ベシ

第六百十七條

管財人ハ分散ノ模様及是迄如何ナル手續ヲ行
フタルヤ又如何ナル法式ヲ遵守シタルヤニ付キ債主等會議
ノ席ニ其中立ヲ為シ其中立ノ時分散人ノ申述ヲ聴クベシ
管財人ノ申立書ハ姓名手署ヲナシタル上之ヲ掛リ裁判官ニ
渡スベシ但シ其裁判官ハ會議ノ席ニテ論辯シタル所ト決定
シタル所トヲ始末書ニ作ルベシ

第二款 分散ノ和解契約書

第一節 分散ノ和解契約書ヲ作ル事

第六百十八條 前數條ニ記シタル法式ニ循ヒ手續ヲ為シタル
上ニ非サレバ分散ノ和解契約書ヲ作ルベカラズ

其和解契約書ヲ作ルニハ債主中半以上ノ説ニ從フベク且
其中以上ノ債主ノ得ベキ金高ハ檢査ト誓トノ濟ミタル債主
権並ニ假リニ允許ヲ得タル債主権ノ總金高ノ四分ノ三ニ充
ルコトヲ必要トス若シ此規則ニ背ク時ハ其和解契約書ノ効ナ
カルベシ

第六百十九条

書入質ノ權特別ノ權或ハ動産質ノ權ヲ有スル
債主ハ分散ノ和解契約ニ関スル事件ニ付發言スルコトヲ得ズ
然レ氏其權ヲ拋棄スルニ於テハ其債主權ヲ以テ發言ノ數中
ニ算入ス可シ

其債主前項ノ事件ニ付發言シタルキハ其權ヲ拋棄シタルモ
ノト看做スベシ

第六百二十条

分散ノ和解契約書ニハ會議ノ席ニ於テ皆之ニ
手署スベシ○會議ニ出席シタル債主ノ多數或ハ諸債主ノ得

ベキ金高ノ總額ノ四分ノ三以上ニ充ル數ニ因リ其和解契約
ヲ承諾シタルキハ更ニ其會議ヲ為スベシ但シ其會議ノ日ハ
十五日間ニ掛リ裁判官之ヲ定ム可シ

又前項ノ二箇ノ多數ノモノ和解契約ヲ承諾セズトモ其
ノ債主之ヲ承諾シタルキハ例ハ十人ノ内四人或ハ三人ノ内
二人ノ承諾アルキ掛リ裁判官
ハ其議ヲ前項ノ定期内更ニナスベキ會議ニ之ヲ附スルコトヲ
得ベシ

此場合ニ於テハ前會議ニ於テナシタル決定及承諾ハ其效ナ
カルベシ

債主ハ裁判所ノ書記局ニ於テ會議ノ始末書ヲ見閱スルノ權
アリ

第六百二十一条 若シ分散人詐偽ノ倒産人タルノ言渡ヲ受ケ
タルキハ分散ノ和解契約ヲナス可ラズ

又其詐偽ノ倒産ノ吟味ニ取掛リタルキハ其無罪ノ場合ヲ待
テ分散ノ和解契約ヲナスヤ否マヲ決定スルタメ債主等會議
ヲ開ク可シ

其無罪ノ場合ヲ待ツトハ第六百十八條ニ記シタル多数ニ依
リ之ヲ決ス可シ

其無罪ノ場合ヲ待テ其和解契約ヲナスニ付會議ヲ開ク可キ
場合ニ於テハ前條ニ記シタル定規ヲ以テ此會議ニ適用ス可
シ

第六百二十二條 若シ分散人過失ノ倒産タルノ言渡シヲ受ケ
タルキハ分散ノ和解契約ヲナスコトヲ得ベシ

然レハ其吟味ニ取掛リタルキハ其吟味ノ終ル迄前條ノ定規
ニ循ヒ其和解契約ノ會議ヲ延スコトヲ得ベシ

第六百二十三條 凡テ分散和解契約ニ加ハルノ權アル債主又

ハ之ヲナレタル後其權アルノ允許ヲ得タル債主ハ其和解契
約ニ付故障ヲ述ルコトヲ得ベシ

其故障ノ申述書ニハ其理由ヲ記シ和解契約ヲナレタルヨリ
八日内ニ之ヲ管財人ト分散人トニ送達ス可シ此規ニ違フキ

ハ其申述書ノ効ナカル可シ又此申述書ニハ定メタル期日ニ
裁判所ニ出ツ可キ招キ書ヲ添ヘ置クベシ

若シ然テノ管財人和解契約ニ故障ヲ述ル時ハ更ニ他ノ管財
人ヲ任スルノ手續ヲナス可シ而シテ其任ヲ受ケタルヨリ三

日內ニ其者ニ故障ノ申述書ヲ送達ス可シ
第六百二十四條 若シ故障ノ申述書商法裁判所ノ管轄ニ屬セ

ザル事柄ニ涉リ此事柄ノ裁判ヲ經ザルニ於テハ其申述書ノ
裁判ヲナスコト能ハザルキハ其主タル事件ノ決定スル迄商法

裁判所ニ於テ其故障申述ノ裁判ヲ猶豫ス可シ又故障ヲ述ブ

債主ニ其管轄ノ裁判所ニ訟ヘ其訴訟ノ手續ヲ了スルニハ短キ期限ヲ定メ與フ可シ

第六百二十五條 分散和解契約ノ急ニ成ルコトヲ最モ希ク者ヨリ商法裁判所ニ其允許ヲ得ント訟フ可シ。○裁判所ニ於テハ第六百二十三條ニ記シタル八日ノ期限ノ終ラザル内ニ其訟ヲ裁判ス可ラズ

若シ其期限内ニ故障ヲ述フル者アルキハ裁判所ニテ其申述書ノ當否ト和解契約ヲ允許スルト否トヲ一通ノ裁判言渡書ヲ以テ定ム可シ
若シ裁判所ニテ故障ノ申述ヲ是ナリトスルキハ和解契約ニ關係アル者ニ對シ之ヲ取消ス可キコトヲ言渡ス可シ

第六百二十六條 何レノ場合ヲ問ハズ裁判所ニテ分散ノ和解契約ヲ允許ス可キヤ否ヤヲ決スル前ニ掛リ裁判官ハ分散ノ

模様ト其和解契約ヲ允許ス可キヤ否ヤトニ付裁判所ニ見込ヲ申立ツ可シ

第六百二十七條 前教条ノ定規ニ違フタル時又ハ分散和解契約ノ公益ヲ害シ又ハ債主ノ害トナルキハ裁判所ニテ其和解契約ヲ允許スベカラズ

第二節 分散和解契約ノ效

第六百二十八條 分散和解契約ヲ裁判所ニテ允許シタル時ハ積リ書ニ記シタルト否トヲ問ハズ又債主權ノ檢査ノ濟ミタルト否トヲ問ハズ凡テノ債主皆其和解契約ニ從フ可ク伊太利國外ニ住スル債主ト雖亦之ニ從フ可シ又第六百九條及第六百十條ニ循ヒ假リニ和解契約ノ會議ニ出ツ可キ免許ヲ受ケタル債主ハ後ニ確定ノ裁判ニ依リ幾許ノ金高ヲ得ベキニ關セス其和解契約ニ從フ可シ

第六百二十九條 分散和解契約ノ允許アルヲ以テ各債主ハ分散人ノ不動産ニ付第五百九十九條ノ三項ニ循ヒ登記シタル書入質ノ權ヲ保ツ可シ○之カ為ノ管財人ハ其允許ノ裁判言渡書ヲ書入質ノ登記簿冊ノ欄外ニ附記セシム可シ但シ之ニ及シタル事ヲ和解契約ニ定メタルキハ格別ナリトス

第六百三十條 分散和解契約允許ノ裁判言渡書確定ノ裁判言渡書トナリタルキハ管財人ノ職務ハ自ラ解ケタルモノトス但シ第六百三十二條及第六百三十三條ニ記シタル場合ハ此限ニ非ス

管財人ハ分散人ニ其算計書ヲ渡シ掛リ裁判官之ヲ取調べテ確定ス可シ

管財人ハ分散人ニ其財産書類及諸手形ヲ渡シ其請取書ヲ取ルベシ此等ノモノハ其和解契約ニ於テ定メタル要件ニ從フ

可シ而レテ分散人ハ其受取書ヲ渡ス可シ

掛リ裁判官ハ此等ノ諸事ヲ始末書ニ作り以テ其職ヲ罷ム可シ

此条ニ記シタル事ニ付争ヒノ生シタルキハ高法裁判所之ヲ裁判ス可シ

第六百三十一條

倒産ノ罪ヲ犯カス分散和解契約ヲ得タル分散人ハ再ヒ商人ノ職業ニ復スルコトヲ得可シ又分散人ノ帖簿中已レノ姓名ノ傍ニ和解契約ヲ得タリトノ記入ヲナサシムルコトヲ得ヘシ此記入ハ分散人ノ復権シタルヨリ十年後又ハ債主ニ全ク貸金ヲ拂フタル日ハ其最終ノ拂ヒヲ為シタル日ヨリ六ヶ月内ニ之ヲ取消スヘシ

第三節

分散和解契約ノ取消及解除ノ事

第六百三十二條

裁判所ニテ分散和解契約ノ允許ヲナシタル日ト虽モ分散人詐偽倒産ノ言渡ヲ受ケタル日ハ其和解契約ハ自ラ取消サレタルモノトス可シ

第六百三十三條

其和解契約允許ノ後分散人其財産ヲ匿シ又ハ其負債ヲ実ニ過キ迷ゲルカ如キ詐偽ノ發露シタルニ因リ管財人或ハ債主ヨリ其和解契約ヲ取消サント訴ヘ出テタル日ハ管財人ノ立

仁
五
百
三
十
三
條

併
五
百
三
十
三
條

天
藏
卷

會ニテ分散人ヲ取立シタル上裁判所ハ之ヲ取消スヘシ
其和解契約ヲ取消シタルハ和解契約ニ於テ定メタル保証
人ノ義務ハ自ラ消滅シタルモノトス
其和解契約ノ允許ノアリタル後ハ他ノ原由ヲ以テ之ヲ取消
ス可ラズ

第六百三十三條 分散人分散和解契約ニ記シタル条件ヲ執行
セサルハ債主ノ半以上ノ多数ヲ以テ其解除ヲ訴フルコトヲ
得ヘシ但シ曩ニ其和解契約ノ為メノ會議ニカリタル者ニシ
テ未ク其和解契約各ニ記シタル金高ヲ受取ラザル者ニ限ル
ベシ其多数ハ第六百十八條ニ循ヒ之ヲ定ム可シ
前項ノ訴ハ前項ノ債主ノ名前ヲ以テ分散人並ニ保証人アル
ニ於テハ其立會ニテ管財人及ニ為スベシ亦債主自ラ之ヲ訴
フルハ管財人ヲ呼出シ分散人並ニ保証人アルニ於テハ其

立會ヲ以テ之ヲ為スヘシ

分散和解契約ノ解除ハ其和解契約ニ従ヒ受取ル可キ割前ノ
一部或ハ全部ヲ受取ラザル債主一人或ハ数人各自ニ之ヲ訴
フルコトヲ得可シ但シ其者ノ利益ニ関スル一部ニ限ル可シ此
場合ニ於テ解除ヲ得タルハ其債主ハ分散人ノ身体ニ對シ
及其財産上ニ全權ヲ有スヘシ然レモ其和解契約各ニ記シタ
ル已レノ受取ル可キ割前ノ最終ノ払期日後ニ非ラザルハ其
割前高ヲ請求スルコトヲ得ス

第六百三十四條 分散和解契約ノ解除アルト雖モ其全部又ハ

一部ノ執行ニ付テノ保証人其義務ノ釈放ヲ得ベカラズ

第六百三十五條 分散和解契約解除ノ訴訟權ハ分散人トナス

ヘキ最終ノ拂期日ヨリ五年ヲ過クルハ消滅スルモノトス

第六百三十六條 若シ裁判所ニテ分散和解契約ヲ允許シタル

後分散人詐為倒産ノ罪ヲ犯シタル訴訟ヲ受ケ及拘引ヲ受ケ
タルハ裁判所ニ於テ債主ノ權利ヲ保護スルタノ相当ノ處
置ヲ定ムルコトヲ得ヘシ
其処置ハ無罪ノ裁判言渡各ノ日又ハ倒産ノ訴ノ手續ヲナス
ヲ要セザルコトヲ記シタル裁判所ノ命令各ノ日又如何ナル方
法ヲ同ハズ公訴ノ消滅シタル日ヨリ自ラ消滅スルモノトシ
又ハ犯罪人ニ對シテノ訴訟ヲ止ムル其他ノ方法ニ依リ消滅
スルモノトス

第五百三十七条 裁判所ハ詐為倒産ノ裁判言渡各ヲ見タル上
又ハ分散和解契約ノ取消或ハ解除ノ裁判言渡各ニ於テ抵り
裁判官ト管財人一員又ハ數員トヲ任ズ可シ
其管財人ハ分散人ノ財産ニ封印ヲ為サシムルヲ得ヘシ又
レテハ此役所ノ各記官ノ立合ニテ以前記レタル目錄ニ依リ

分散人ノ財産債主權及諸手形ノ調査ヲナシ又場合ニ依リ目
録及積り書ノ附録ヲ作ルヘシ
其管財人ハ任ヲ受ケタル言渡書ノ抜書ト又分散人其財産ヲ
取戻シタル後更ニ債ヲ負フタル時ハ其債主二十日間ニ検査
ノタメ其証書ヲ差出ス可キ旨トテ第五百五十二条ニ循ヒ直ニ
貼附セシメ且之ヲ新聞紙ニ記入セシムヘシ又其債主ヲシテ
其証各ヲ差出サシムル報告ハ第六百一条及第六百二条ニ循
ヒ各記官ノ書状ヲ以テ之ヲナス可シ

第六百三十八条 前条ニ循ヒ差出シタル証各ハ遲延ナリ又
検査ス可シ
以前已ニ検査ヲナシ且誓ヲ以テ真正ナリトナシタル債主權
ハ再ヒ検査スルニ及ハズ但シ以前検査シタル債主權ノ全高
ヲ分散人ヨリ全ク拂フタル時ハ其証各ヲ廢棄シ又其一部ヲ

拂フタル時ハ其証各ニ記シタル高ヲ減ス可シ

第六百三十九條 前条ニ記シタル手續ヲナシ終リシ上ニテ更

ニ又分散和解契約ヲ為サバ爾レハ債主等其管財人ヲ猶其職

ニ在ラシム可キヤ又ハ之ヲ易フヘキヤニ付意見ヲ述ルタメ

會議ヲ開ク可シ

第六百一一条及第六百七条ニ依テ利國內ニ住スル債主ノタメ

定メタル期限ノ後ニ非ザレバ新債主ニ付分派ヲナス可ラズ

第六百四十一条 分散和解契約ノ允許ノ後其取消又ハ解除ノ前

ニ分散人ノ記シタル負債ノ証各ハ債主ノ權利ヲ害スルタメ

故ラニ記シタル時ニ非ザレバ無効トナスヘラス

第六百四十一条 分散和解契約以前ノ債主ハ分散人ノ身体ノ

ミニ對シ其權利ノ全部ヲ有スヘシ其分派ノ財産ニ對シテハ

左ノ割合ノミヲ得ヘキ權アリ

若シ分散和解契約ニ付其得ヘキ分割金高ヲ全ク受取ラザル
ルレハ元貸高ノ全部

若シ其得可キ分割金高ノ幾部分ヲ受取リタルトキハ其残

高ノ部分ニ全シキ元貸高ノ部分

此条ノ定規ハ分散和解契約ノ取消及解除ノナキ前ニ再度分
散ヲナシタル場合ニモ亦通シ用可シ

第三款 債主ノ連結

第六百四十二条 分散和解契約ノナキ時ハ諸債主皆自ラ連

結シタルモノトスヘシ

抵リ裁判官ハ管財人ノ財産ノ取扱方並ニ其管財人ヲ猶其職ニ

任シ置ク可キヤ又ハ之ヲ代ヘ更ニ他人ニ任ス可キヤニ付直

チニ諸債主ト高議ヲナスヘシ

特權書入質ノ權又ハ動産質ノ權ヲ有スル債主ハ其高議ニ加

ハルコトヲ得ヘシ
債主ノ意見ハ始末各ニ記ス可シ而シテ裁判所ニテハ之ヲ見
タル上第五百六十八條以下ニ循ヒ所分ヲナスヘシ
従来ノ管財人其職ヲ退ケラレタルハ分散人ヲ呼出シタル
上掛リ裁判官ノ立合ニテ成ル矢ケ速ニ新管財人ヲ其沿革ノ
計美各ヲ渡スヘシ

第六百四十三條 抵リ裁判官ハ分散人ノ財産中ヨリ分散人及
其親屬ニ扶助料ヲ与フヘキヤ否ヲ定ムルタメ債主ト高談
スヘシ

其會議ニ出席シタル債主ノ多数之ヲ与フ可キヲ承諾シタ
ルハ之ヲ与フ可シ然ルハ管財人ヨリ其高ノ見込ヲ申述
一抵リ裁判官之ヲ決定ス可シ若シ其決定ニ不服ナルハ管
財人ヨリ裁判所ニ訴ヘ出ルコトヲ得ヘシ

第六百四十四條 若シ会社ノ分散ヲナス時ハ諸債主其社債ノ
一人又ハ数人ノタメニ分散和解ノ契約ヲ承諾スルコトヲ得
可シ

此場合ニ於テハ会社ニ属スル財産ハ債主ノ連結ノ支配ニ属
ス可シ其和解契約ヲ得タル者ノ一人ニ属スル財産ハ会社
ノ財産中ヨリ之ヲ除キ其支配ニ属セサルモノトス又其和解
契約各ニハ会社ニ属スル財産ヲ以テ分割高ヲ拂フヘキコトヲ
記ス可ラズ

第六百四十五條 管財人ハ債主ノ総代理人トシテ分散ニ付テ
ノ計算ヲナスベシ

然レモ債主ハ管財人ニ分散人ノ職業ヲ引續キ行フ可キコトヲ

委任スルヲ得可シ

第六百四十六条 債主ハ其委任ヲ与フルタメ會議ヲナシ其期限ト權限トヲ定ムヘク且管財人分散人ノ職業ヲ引續クニ付其費用ニ充ルタメ及裁判ノ費用ニ供スルタメ若干ノ金額ヲ管財人ニ預ク可キヲ定ム可シ其會議ハ抵リ裁判官ノ面前ニテナス可ク且其決定ヲナスニハ債主ノ全員中可トスル者四分ノ三以上ニシテ其四分ノ三以上ノ者ノ貸高モ亦總貸高ノ四分ノ三以上ナルヲ必要トス

第六百四十七条 若シ管財人分散人ノ職業ヲ引續キ行フタルガクメ連結ノ財産高ニ過キタル負債ヲ生シタルモ其職業

ヲ引續キ行フヲ承諾シタル債主分散人ノ財産中ヨリ已レノ得ヘキ高ニ過キタル負債ノ部分ヲ擔當ス可シ但シ管財人其債主ヨリ受ケタル委任ノ權限ニ過キズシテナル部分ニ限ルヘシ其債主之ヲ互ニ擔當スヘキ割合ハ分散人ヨリ得可キ金高ノ割合ニ準スヘシ

管財人ハ分散人ノ不動産高品及其他ノ動産ノ賣拂ノ手續ヲナシ且分散人ノ資産ト負債トハ高ノ計算ヲナス可シ但シ此等ノ事ヲナスニハ抵リ裁判官ノ監督ヲ受クヘクシテ別段分散人ヲ呼出スニ及ハズ

第六百四十八条 管財人ハ分散人ノ故障ヲ述ルニ関セズ第五百九十五条ニ循ヒ分散人ニ属スル各種ノ權利ニ付他人ト和解スルヲ得ヘシ

第六百四十九条 抵リ裁判官ハ連結シタル諸債主ヲ初メノ一

年間ニ少クトモ一度會議ヲナシメ又場合ニ依リ其翌年更ニ會議ヲカシムヘシ。此會議ニ於テ管財人ハ沿産ノ計算各ヲ差出ス可シ又第五百六十七條以下ノ定規ニ循ヒ猶月續行其職ニ任ゼラレ又ハ其職ヲ退ケラル可シ

第六百五十條 分散ノ計算ノ終リタルトキハ裁判官ヨリ諸債主ヲシテ會議ヲナサシム可シ

此最終ノ會議ノ時諸債主ハ分散人ヲ宥免スヘキヤ否ニ付互ニ意見ヲ述ブ可シ。之ガ為メ始末各ヲ作り各債主及分散人ハ其意見ヲ記シ又ヲ証スベシ

此會議ノ終リタル後ハ債主ノ連結ハ自ラ解除スルモノトス

第六百五十一條 裁判官ハ分散人ヲ宥免ス可キト否トニ付テノ諸債主ノ意見各ヲ裁判所ニ差出シ分散ノ性質ト其摸極ニ付テノ申立ヲナスベシ

然ル上ニテ裁判所ハ分散人ヲ宥免スヘキヤ否ヤヲ言渡スヘシ

第六百五十二條 若シ分散人宥免ヲ受ク可キノ言渡ヲ得サル時ハ諸債主ハ分散人ノ身体ニ對シ又ハ其財産ニ對シ各自ニ訴訟ヲナスヲ得ヘシ

若シ分散人宥免ヲ受クヘキノ言渡ヲ得タル時ハ分散ノ債主ヨリノ禁錮ヲ免カレ唯其財産ニ付テノニ訴訟ヲ受クヘシ但シ法律上列段ノ規則アルハ此限ニ非ス
分散人ハ裁判所ニ請ヒ分散ノ帖簿中己レノ姓名ノ傍ニ裁判所ノ宣告ヲ登記スルヲ得ヘシ

第六百五十三條 詐偽倒産人ニテリヨナシ仙民法ニ千五百四十九條見合ノ答アル人竊盜欺偽及刑法第六百二十六條第六百二十八條第六百二十九條第六百三十一條及第六百三十三條ニ記スル所ノ

破信ノ罪ヲ言渡サレタル者及公ケノ金高ヲ預ル者ハ宥免ノ
言渡ヲ得ヘカラス

第四款 分散人ノ財産分散ノ手續ヲナスニ足ラサ
ルニ付其手續ヲ止ムル事

第六百五十四條 分散人ノ財産不足ナルニ因リ分散ノ手續ヲ
列統テナスコトヲ得サルモハ裁判所ハ掛リ裁判官ノ申立ニ因
リ又ハ職務ヲ以テ管財人ヲ聞知シタル上ニテ分散ノ手續ヲ
止ムルコトヲ言渡スヘシ

其言渡アルトモハ諸債主ハ分散人ノ身体ニ對シ及其財産ニ
對シ各自ニ訴ヲナスコトヲ得可シ

何レノ場合ヲ問ハズ裁判所ハ管財人ヲ聞知シタル上ニテ又
ハ格別ノ取状アルニ於テハ分散人ヲ宥免シ又ハ宥免セザル
コトヲ第一項ノ裁判言渡各ヲ以テ宣告スルコトヲ得ヘシ

其言渡各ノ執行ハ其日附ヨリ一ヶ月間中止スヘシ

第六百五十五條 分散人又ハ分散ニ関係アル者ハ分散ノ手續
ヲナス可キ費用ニ充ル資本アルノ証ヲ立ツルニ因リ又ハ其
費用ニ充ツヘキ金高ヲ管財人ニ預クルニ因リ何レノ時ニ於
テモ前条ノ裁判言渡ノ取消ヲ訴フルコトヲ得ヘシ
何レノ場合ヲ問ハズ前条ニ循ヒ債主ヨリナシタル訴訟ノ費
用ハ前以テ之ヲ払フヘシ

第六章 債主ノ種類及分散ノ場合ニ於テ其權利

第一款 分散人ト共ニ義務ヲ負フタル者及保証
人ノ事

第六百五十六條 分散人及之レト共ニ義務ヲ負フタル者ノ分
散シタルトキ其曾テ連帶シテ手署裏各又ハ保証シタル証各
ヲ有スル債主ハ其諸分散人ノ財産分配ニ加入スヘク而シテ

其貸金全高ノ拂ヲ得ルマデ其元金高ノ割ヲ以テ諸分散人ヨリ其財産ノ分配ヲ受クベシ

第六百五十七條 分散人ト共ニ義務ヲ負フタル数人ノ者分散シタルトモ其払フタル分割金ノ一ニ付五ニ償ノ請求權ヲ行フコトハ其拂フタル分割金ノ總高債主權ノ元利ノ總高ヲ越ヘタル代ニアラスレバ決シテ之ヲ許サズ若シ其越高アル場合ニ於テハ其拂フタル金高ト其人數ニ準シテ之ヲ各分散人ノ財産中ニ割戻スベシ

若シ共ニ義務ヲ負フタル者次第ニ保証人タル代ハ其越高ハ其義務ヲ負フノ順序ニ從ヒ保証ヲ受ケタル者ノ分割スヘキ財産ニ割戻ス可シ

第六百五十八條 分散人及其分散人ト共ニ義務ヲ負フタル者トノ連帶ノ義務ヲ得ベキ債主其分散前ニ其貸金ノ一部ヲ受

取リタル代ハ其高ヲ減シ其餘ノ貸金ニ付分散人ノ財産中ヨリ分派ヲ得ヘシ而シテ尚ホ其受取ル可キ残高ニ付連帶ノ義務アル者又ハ其保証人ニ對シ償ノ請求權ヲ有スヘシ

分散人ト共ニ義務ヲ負フタル者又ハ其保証人ト共ニ為ノ其負債ノ一部ヲ拂フタル時ハ分散人ノ財産中ヨリ其拂フタル一部ニ付分派ヲ得ヘシ

然レモ債主ハ其貸金ノ全高ノ拂ヲ受取ルマデ其共ニ義務ヲ負フタル者又ハ保証人ノ受クヘキ分割金ヲ先取リスルコトヲ得ヘシ但シ此場合ニ於テハ債主其先取ヲナシタル後尚ホ残りタル金高ニ付其共ニ義務ヲ負フタル者又ハ保証人ニ對シ請求權ヲ行フヲ得ヘシ

第六百五十九條 分散人ト共ニ義務ヲ負フタル者又ハ保証人豫メ其償ヒノ請求權ヲ確定ニスル為メ分散人ノ財産ニ付各

入質ノ權ヲ有シ又ハ動産ヲ質トシテ取リタルハ其各入質
又ハ質トシタル金高ニ付分散人ノ財産中ヨリ分派ヲ得ヘシ
○其元金高ハ債主ヨリ分散人ニ對シ請求シタル金高ト混同
スヘシ而シテ其質或ハ各入質トシテ取リタル財産ノ代價ハ
其質或ハ書入質ノ金高ニ準シ其債主ニ屬スヘシ

第六百六十条 債主ハ分散和解契約ニ関セズ又又承諾シタ
ルニ関セズ其質高ノ全部ニ付分散人ト共ニ義務ヲ負フタル
者又ハ保証人ニ對シ請求權ヲ有スヘシ

第二款 動産ノ質ヲ有スル債主及ヒ動産上ニ特權
ヲ有スル債主

第六百六十一条 法ニ適シ分散人ノ動産ヲ質トスル債主ノ姓
名ハ覺エノクナリニ債主ノ全貸中ニ記入セラル、可シ

第六百六十二条 管財人ハ分散人ノ為ノ何時ニ限ラズ掛り裁
判官ノ允許ヲ得タル上借金ヲ掛フテ質物ヲ取戻スヘヲ得ヘ
シ

第六百六十三条 若シ債主其貸金高ヨリ高ク質物ヲ賣タルハ
ハ其越高ハ管財人ヨリ之ヲ取戻スヘシ若シ其賣掛高貸金高
ニ充タガハルハ拾当ナキ債主ノ名義ヲ以テ其受取ル可キ残
リ高ニ付分割金ヲ受クルヘヲ得ヘシ

第六百六十四条 分散人ヨリ直ニ使用サレタル工下ノ得ヘキ
分散公告前一月ノ給料ハ雇下給料ノ為メ民法第千九百五十
条ニ定メタル特權ト等シキ特權債主高ノ部中ニ入ル可シ
又分散人ノ使用セシ手代ノ得可キ分散公告前六月間ノ給料
ハ前項ト同シキ特權債主高ノ部中ニ入ルヘシ

第六百六十五条 管財人ハ分散人ノ動産上ニ特權ヲ有スルト
申述シ諸債主ノ表ヲ掛り裁判官ニ差出シ其許可ヲ得テ動産

ノ賣拂ヒヨリ得タル金高ヲ以テ押ヒヲナスヘシ
若シ其事ニ付争アルハ掛リ裁判官又ハ其掛リ裁判所ハ第
六百八条ニ循ヒ之ヲ裁判スヘシ

第三款 不動産ニ付書入質ノ権及特権ヲ有スル債
主ノ権利ノ事

第六百六十六条 不動産代金ノ配當ヲ動産代金ノ配當ヨリ先
ニナシ又ハ同時ニナス時其不動産ニ付特権及各入質ノ権ヲ
有スル債主其不動産代金ノ配當ヲ以テ全ク貸金ノ押ヲ得ガ
ルハ其残余金高ノ割合ヲ以テ通常債主ノ得可キ財産中ヨリ其
債主ト共ニ其押ヲ得ヘシ但シ其債主権ノ以前ニ定メタル規
則ニ循ヒ真正ナリト誓ヒ且其検査ヲ受ケタルトテ必要トス
第六百六十七条 若シ動産ノ代金ノ配當ヲ不動産ノ代金ノ配
當ヨリ先ニナシタルハ已ニ誓ヲ以テ慥ノ且検査ヲ受ケタ

ル債主権ヲ有スル書入質ノ債主又ハ特権アル債主ハ其貸高
ノ割合ヲ以テ其動産ノ代金ノ分配ヲ依リニ受クルヘヲ得ヘ
シ但シ後ノ数条ニ記シタル場合ニ於テハ差列計算ヲ受クベ
シ

第六百六十八条 書入質ヲ有スル債主又ハ特権ヲ有スル債主
ノ順序ニ從ヒ不動産ノ代金ヲ以テ其貸高ノ全額ヲ得ルハ前条
ニ從ヒ得タル金高ハ通常債主代リテ之ヲ受クヘシ

第六百六十九条 書入質ヲ有スル債主又ハ特権ヲ有スル債主
ノ順序ニ從ヒ不動産ノ代金ヲ以テ其貸高ヲ全ク得サルハ其通
常債主ノ受クヘキ財産ニ参加ス可キ程ハ其不動産ノ代金配
當ノ後猶債主トナル可キ金高ノ割合ニ準シ之ヲ定ムベシ若
シ第六百六十七条ニ循ヒ動産代金ノ配當ヲ依リニ受ケタル
者ハ其配當金ヲ分散人ニ返シ而シテ後通常債主ト同一ニ更

ニ其分配ヲ受クベシ

第六百七十条 各人質ヲ有スル債主又ハ特權ヲ有スル債主順
序ニ從ヒ不動産ノ代金ヲ以テ其債高ノ^全額得ル者ハ通常
債主ト看做シ分散和解契約及通常債主ノ事件ニ循フベシ

第四款 分散人ノ婦ノ權利ノ事

第六百七十一条 夫ノ分散シタル^其婦婚姻ノ時ニ有シタ
ル嫁資ノ不動産及嫁資ニ非ラザル不動産又ハ婚姻中遺囑相
続遺物相続又ハ贈与ニ因リ得タル不動産ヲ取戻ス^{コト}ヲ得ヘ
シ

第六百七十二条 又婦婚姻ノ時已レニ属シタル財産ヲ賣リ^私
コトヲ得タル金又ハ前条ニ記シタル相続又ハ贈与ニ因リ得タ
ル金高ヲ以テ得タル不動産ヲ取戻ス^{コト}ヲ得ヘシ但シ此場合
ニ於テハ不動産買入ノ契約各ニ其金高ヲ^仕払フタルノ記入

ヲナシ且其金高ノ出所ヲ目錄又ハ其他確定ノ日付ヲ有スル
証各ヲ以テ^儘ムル^{コト}ヲ必要トス

第六百七十三条 婚姻ヲ結ビタル方法ノ如何ナルヲ問ハズ又
ハ夫婦間ニ^コン^ニテ^ドア^ケル^ノ契約^後ニ^得タル^財
産^ハ夫^ノ時^ト並^ニ前^ノ条^ニ記^シタル^外婦^ノ得^{タル}財産^ハ皆^夫ニ
属シ且夫ノ金高ヲ以テ之ヲ拂フタルモノト思量シ分散ノ財
産中ニ入ル可キモノトス

但シ婦其反對ノ証アル^ハ格別ナリトス

第六百七十四条 婦ハ婚姻契約各ニ於テ定メタル嫁資又ハ嫁
資外ノ不動産又ハ相続或ハ贈与ニ因リテ已レニ得タル不動産ヲ
取戻ス^{コト}ヲ得可シ但シ此場合ニ於テハ其不動産ニ相違ナキ^{コト}
ヲ目錄又ハ確定ノ日附アル証各ニ依リ之ヲ記スル^{コト}ヲ必要
トス

婦已レノ動產ヲ賣ルモ又ハ其賣掛代金ヲ以テ他物ヲ買入レ
又ハ其他ノ方法ニ依リ其動產ヲ以テ他ノ動產或ハ不動產ト
交換シタルトアル時ハ婦之ヲ取戻スルヲ訴テナスコトヲ得ヘ
シ此場合ニ於テハ其物品ノ變易シタルコトヲ確定ノ日附アル
証書ニ依リ之ヲ証スルコトヲ必要トス
此条ニ定メラル確定ノ日附ハ債主權ノ証書公ケノ役所ノ登
記無名會社ノ登記及株式差金會社ノ登記ニ依リ之ヲ証スヘ
シ但シ民法ニ定メタル方法ヲ以テ之ヲ証スルモ妨ナシ
若シ其証據ナキハ夫ト婦トノ有テ同ハス又コソニシテ
ドアケルノ契約アルヲ同ハズ之ニ屬スル動產ハ皆債主ノ受
クヘキ財產ニ屬スヘシ但シ裁判官ハ管財人ノ申立ト分
散人ノ婦ノ願ニ依リ其使用ニ必要ナル衣服及^レシ^レ觀^レ衣^レ子^レ
類^レ布^レヲ渡ス可キコトヲ管財人ニ許スコトヲ得ヘシ且第五百六十

四條ノ定規ハ格別ナリトス

第六百七十五條

其不動產ヲ取戻スルハ其不動產ニ屬スル義務ヲ擔當スベシ

第六百七十六條

夫ノ金高ヲ以テ之ヲ拂フタルモノト思量シ婦ハ夫ノ分散ノ
時償ノ請求權ヲ行フコトヲ得ズ但シ第六百七十三條ニ記シタ
ル如ク反對ノ証アルハ格別ナリトス

第六百七十七條

夫婚姻ヲ結フ時商人トナリ又ハ別段ノ業ヲ
シガタノ其時ヨリ一年內商人トナリタルハ其婚姻中贈与
及相續ノ外他ノ方法ニ依テ得タル財產上ニハ婦ノ嫁資ノタ
ノ法律上ノ各入贅ノ權ヲ有ス可ラス

夫婚姻ヲ結フ時商人トナリ又ハ別段ノ業ヲ
シガタノ其時ヨリ一年內商人トナリタルハ其婚姻中贈与
及相續ノ外他ノ方法ニ依テ得タル財產上ニハ婦ノ嫁資ノタ
ノ法律上ノ各入贅ノ權ヲ有ス可ラス

第六百七十八條 夫誓姻ヲ結フ時商人トナリ又ハ其時別段ノ業ナキガタノ其時ヨリ一年內ニ商人トナリタルハ其夫ノ分散ノ時ニ於テ其婦誓姻ノ契約昏ニ記シタル已レニ受クベキ領收物ヲ得ントスルノ訴ヲナス可ク又債主ハ誓姻契約昏ニ婦ヨリ夫ニ領收物ヲ授クベキ旨ヲ記シタルト雖モ之ヲ以テ已レノ利益トナスヘカラス

第七章 各債主ノ間ニ金高ヲ分派スル事及動産ヲ賣却シテ負債ヲ仕払フ事

第六百七十九條 動産價高ノ中ヨリ裁判入費及分散人ノ財産ヲ支配スル費用及分散人ト其家族トニ給与スベキ扶助料及特權ヲ有スル債主ニ払フヘキ金高等ヲ列去リ其餘ハ誓ヲ為シテ真正ノ債主ヲ証シタル債主ニ各其貸高ニ應シテ之ヲ分派ス可シ

之カ為ノ管財人ハ分散人財産ノ摸樣各ト第五百九十七條ニ記スル所ノ預リ役所ニ納メタル金高ノ各付トヲ毎月掛リ裁判官ニ差出シ置キ金高ヲ債主數人ノ間ニ分派ス可キ時ニ至リ其掛リ裁判官ヨリ之ヲ公告シ其分派ノ高ヲ定メ且其旨ヲ債主各員ニ洩レサル様告知ス可シ

第六百八十条 金高ヲ分派スヘキ時ニ至リ外國ニ住スル債主ノ權利ヲ未ク確認セサル時ハ其債主ノ為メ見積各ニ記載シタル貸高ニ應シ金額ヲ備ヘタル後ニ非ザレバ内國ニ住スル債主ノ間ニ金高ヲ分派ス可キ事

外國ニ住スル債主ノ貸高若シ之ヲ見積各ニ詳記セサル時ハ掛リ裁判官之ガ為メ備ヘ置クヘキ金額ヲ定ムルヲ得但シ管財人其定メニ不服ナルハ裁判所ニ訴出ルヲ得ベシ

第六百八十一条 外國ニ住スル債主ノ為メ備ヘ置キタル金額

ハ之ヲ第六百一條ニ記スル所ノ期限ノ終ニ至ル迄第五百九十七條ニ記スル所ノ預リ役所ニ納メ置キ若シ其債主前數条ニ述ル所ノ規則ニ循ヒ其債主権検査ノ手續ヲ為サザル時ハ之ヲ他ノ債主ノ間ニ分派スルコトヲ得ベシ

又証各ヲ真正ナルモノト認ムルヤ否ヤニ付争ノ起ルアルテ未タ其確定ノ裁判言渡ヲ為サザル時ハ其証各ニ記載シタル金高ニ充ツハセ額ヲ備ヘ置ク可シ

若シ其備ヘ金額ヨリ利子ヲ生スル時ハ各債主其權利ノ高ニ應シ之ヲ分派スベシ但シ何レノ場合ニ於テモ依托中ニ生シタル損亡及其費用等ハ總テ之ヲ各債主ニ歸スルモノトス

第六百八十二條 管財人ハ証各ヲ檢視シタル上ニ非サレバ債主ニ金額ヲ渡ス可ラズ

管財人第五百九十八條ニ記スル所ノ規則ニ循ヒ金額ヲ債主

ニ押フ時ハ其由ヲ証各ニ附記ス可シ但シ債主其証各ヲ出スコト能ハザル時ハ抵リ裁判官ハ債主権検査ノ調各ヲ檢視シタル上ニテ其債主ニ金額ヲ払フ可キコトヲ管財人ニ許スコトヲ得ヘシ

債主ハ其金額ヲ受取シ由ヲ分派各ノ端ニ記載スヘシ

第六百八十三條 連結シタル債主ハ裁判所ノ允許ヲ得タル上分散人ヲ呼出シ其分散人ノ人ヨリ得可キ權利又ハ其庫中ニ残シ置キタル動産ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ賣渡ス可キコトヲ論決スルヲ得可シ

連結ノ各債主前項賣渡シノコトニ付連結中ノ評議ヲ要セン為ノ抵リ裁判官ニ願出ルコトヲ得ベシ

第八章 分散人ノ不動産ヲ賣却事

第六百八十四條 分散ヲ公告ス可キ裁判言渡ノ有リシ上ハ債

主分散人ノ不動産ヲ差押ヘ之ヲ賣拂フ可キノ訴ヲ為ス可ラ
ス但シ其不動産ニ付特権或ハ各入質ノ権ヲ有スル者ハ此限
ニ非ス

然レモ其特権或ハ各入質ノ権ヲ有スル者ハ負債者其義務ノ
執行ヲ遲滞セシ時ニ非ザレハ其不動産ヲ差押ヘ之ヲ賣拂フ
可キノ訴ヲ為ス可ラズ

第六百八十五条

特権或ハ各入質ノ権ヲ有ス者他ノ債主連結
ヲ為ス前ニ分散人ノ不動産ヲ差押ヘ之ヲ賣拂フヘキノ訴ヲ
為サセル時ハ管財人ノ其不動産ヲ賣払フ可キノ訴ヲ為ス
ヲ得可シ但シ其管財人ハ裁判官ノ允許ヲ得ケル後ハ
日内ニ幼者ノ財産賣拂フノ為メ定メタル法式ニ循ヒ民事裁
判所ニ於テ賣拂フヲ為スヘシ

第六百八十六条

右ノ賣拂ヒ再度ノ競賣ニ至ルコトアルハ管
財人トモニ猶ホ其買主ト為ルヲ得ベシ

第九章

手形又ハ商品ノ取戻ス事

第六百八十七条

手形又ハ証券所有者其手形又ハ証券ニ記シ
タル金額ヲ唯己レニ代リテ他人ヨリ受取り之ヲ預リ置カシ
ムル為メ又ハ其所有者他人ニ對シ尽ス可キ義務ヲ己レニ代
リテ尽サシム可キ為メ分散人ニ渡シ置タル手形又ハ証券ヲ
其分散ノ時分散人猶ホ之ヲ其終所持スルニ於テハ其所有者
ヨリ之ヲ取戻スコトヲ得ベシ

第六百八十八条

所有者ヨリ分散人ニ附託シタル商品又ハ自
己ノ計算ニテ賣払ハシムル為メ分散人ニ渡シ置タル商品ノ
全部又ハ一部分ノ時猶ホ其係存在スルニ於テハ所有者之
ヲ取戻スコトヲ得ヘシ
又所有者自己ノ計算ニテ賣払ハシムル為メ商品ヲ渡シ置キ

大 債 目

分散人既ニ之ヲ他人ニ賣拂ヒ未タ其代金ヲ受取ラサル時ハ
亦有者ヨリ其代金ノ金額又ハ残額ヲ取戻スヲ得可シ但シ
分散人其買主ニ拂フ可キ負債アリテ差引計算既ニ相立シ時
ハ此限ニ非ズ

第六百八十九条 分散人ニ送リタル商品未タ其分散人ノ倉庫
又ハ其分散人使用シ得ル所ノ公ケノ倉庫又ハ其分散人ノ計
算ニテ其商品ヲ賣拂フコトニ任シタル仲買人ノ倉庫中ニ入ラ
ザル時ハ其商品ヲ取戻スコトヲ得ベシ
然レ其商品未タ到着セザル前ニ其運送状又ハ積荷目録ヲ
証トシテ分散人ヨリ詐偽ナク之ヲ他人ニ賣払シ時ハ其商品
ヲ取戻スコトヲ得可ラス

此条ニ記スル商品取戻ヲ為ス者ハ分散人ヨリ嘗テ受取り置
タル内金共ニ運送賃世話料海上請合賃及其他ノ費用ノ為メ

前以テ分散人ヨリ受取タル金高ヲ分散人ノ債主ニ償フヘシ
又此等ノ費用ノ為メ拂フ可キ金高有ル時ハ其取戻ヲ為ス者
自ラ之ヲ拂フコトニ任スヘシ

第六百九十条 分散人ニ賣リタル商品未タ之ヲ其分散人ニ引
渡サズ又ハ其分散人或ハ其分散人ニ代ル可キ者ニ送ラザル
時ハ賣主其商品ヲ送ラザルコトヲ得ベシ

第五百七十八条 第六百九十一条 前二条ノ場合ニ於テハ管財人掛リ裁判官ノ
允許ヲ得タル上ニテ嘗テ分散人ト賣主トノ間ニ定メタル代
金ヲ拂ヒテ賣主ヨリ其商品ヲ引取ルコトヲ得可シ

第五百九十二条 管財人ハ掛リ裁判官ノ允許ヲ得タル上ニテ
此章ニ記スル取戻ノ請求ヲ許スコトヲ得但シ此事ニ付管財人
又ハ債主ノ一方ニ異論故障ガアル時ハ裁判所ニテ掛リ裁判
官ノ意見ヲ聴タル上其裁判ヲ為ス可シ

第十章 分散人事ニ付為シタル裁判言渡ニ故障ヲ述
ブル事及控訴スル事

第六百九十三條 分散公告ノ裁判言渡又ハ押方停止ノ期日ヲ
前以テ定メタル裁判言渡ニ付其裁判言渡ヲ為シタル裁判所
ヘ故障ヲ述ブル事ヲ得ベシ

但シ分散人ヨリ其故障ヲ述ル時ハ其裁判言渡ヲ公告シ及之
ヲ新聞紙ニ記載シタルヨリ八日以内ニ之ヲ為スヘク又總テ他
ノ関係者ヨリ其故障ヲ述ブル時ハ之ヲ其期日ヨリ三十日以内
ニ為ス可シノ故障ニ付テハ裁判言渡ハ管財人ノ面前ニ之
ヲ言渡スヘシ

第六百九十四條 分散人ノ債主ヨリ分散公告ノ裁判言渡又ハ
其後ニ為シタル他ノ裁判言渡ヲ以テ定メタル押方停止ノ期
日ヲ他ノ日ニ更ニ定メシトテ願フノ訴ハ債主権ノ検査ヲ為

シ及々債主ヨリ誓ヲ為ス可キ為メ備ヘタル期限ノ内ニ非ラ
ザレハ之ニ為スヘカラス但シ其期限ノ終リシ後ハ裁判言渡
ヲ以テ定メタル押方停止ノ期日ハ債主ニ對シ確定ノモノト
ス

第六百九十五條 分散ノ事ニ関スル裁判言渡ニ付控訴ヲ為ス
時ノ手續及期限ハ總テ訴訟法ニ定ムルモノトス

第六百九十六條 左ノ裁判言渡ニ付テハ故障ヲ述ヘ又ハ控訴
スルコトヲ得ベカラス

第一 概リ裁判官ヲ撰任シ又ハ之ヲ改任スルコト及
管財人ヲ撰任シ又ハ之ヲ改任シ又ハ之ヲ退クルコトニ関
シタル裁判言渡

第二 分散人ノ宥免状又ハ分散人及其家族ノ為メ
扶助料ヲ得ント願フノ訴ニ関スル裁判言渡

第三 分散人ノ勤産又ハ商品ヲ賣拂フヲ許シタル裁判言渡

第四 分散和解契約ヲ取結ブニ付猶豫ヲ與ヘ又ハ債主権ノ驗査ニ付争アル債主ヲ仮リニ債主ノ全質中ニ加ハラシムルヲ命シタル裁判言渡

第五 掛リ裁判官其権限内ノ事ニ付為シタル裁判ヲ取消シトスル訴ニ関スル裁判言渡

第二卷 倒産ノ事

第一章 通常倒産

第六百九十七條 通常ノ倒産ヲ為ス者ハ管財人債主又ハ檢事ノ訴ニ因リ掛リ裁判所ニテ之ヲ裁判シ刑法ニ記シタル罰ヲ受ク可シ

第六百九十八條 左ノ場合ニ於ケル分散人ハ通常倒産人タル

ノ罰ヲ受ク可シ

第一 自己ノ費用又ハ家内ノ費用過度ナリトシテ言渡ヲ受ケシ時

第二 冒險ノ所為又ハ投機高賣等ヲ為シテ夥多ノ金高ノ消失セシ時

第三 分散ノ期ヲ遅緩ナラシメントスルノ意ヲ以テ時價ヨリ下直ニ賣拂フ可キ為メ商品ヲ買入レシ時又ハ全上ノ意ヲ以テ金高ヲ借入レテ形ヲ發出シ又ハ其他總テ資本ヲ得ント欲シテ却テ産業ヲ衰敗セシム可キ所為ヲ為シタル時

第四 柳方停止ノ後債主中ノ一人ニ負債ヲ償還シ他ノ債主ニ害ヲ為シタル時

第六百九十九條 會社ノ支配人商法第一編第七卷第一章第八

款ニ定メタル法式ヲ遵守セザルヨリ其會社ノ分散ヲ致シ又ハ自己ノ過失ヨリ其會社ノ分散ヲ致シ時ハ通常倒産人タル可シ

第七百条 公ケル世話人ニシテ分散スルモノハ通常倒産人タルベシ

第七百一条 左ノ場合ニ於ケル分散人ハ其時ノ模様ニ因リ通常倒産人タルノ言渡ヲ受ク可シ

第一 列當物ヲ取ラズシテ他人ノ為メニ其家産不適當ノ義務ヲ負ヒタル時

第二 最初ノ分散和解契約ノ義務ヲ履行セズシテ再ヒ分散公告ノ言渡ヲ受ケタル時

第三 第十三条ニ記載シタル規則ヲ遵守セザル時

第四 拂方停止ノ日ヨリ三日内ニ第五百四十四条及

第五百四十五条ニ記スル如ク公告ヲ為サバリシ時又ハ其公告ヲ為スト雖モ其公告中ニ連帶シタル者全負ノ姓名ヲ記載セザル時

第五 相當ノ差支ナクシテ出席スヘキ場合並定期内ニ自ラ管財人ノ面前ニ出席セザル時又ハ宥免状ヲ得タル後裁判所ノ呼出ニ出席セザル時

第六 詐偽ノ意ナシト雖モ分散人其商業簿冊ノ設ケナキ時並ニ其財産ノ目録ヲ詳細ニ記セザル時又ハ其簿冊及目録ノ不十分ナル時並ニ不規則ナル時又ハ其簿冊及目録ヲ以テ其債ト負債トノ真ノ模様ヲ知ルニ足ラザル時

第七百二条 通常ノ倒産ニ付訴ヲ為スノ費用ハ官府ニテ之ヲ辨償スベシ但シ管財人債主ノ全負ニ代リテ其訴ヲ為シ又ハ

其債主中ノ一人自ラ其訴ヲ為シテ分散人其罪ナシノ裁判
言渡ヲ受ケシ時ハ全負ノ債主又ハ其訴ヲ為レタル一人ノ債
主ヨリ其費用ヲ辨償ス可シ
管財人ハ會議ニ出席ノ債主半数以上ヨリ許可ヲ得タル後チ
ニ非ザレハ全負ノ債主ニ代リ通常倒産ニ付テノ訴ヲ為ス可
ラス
官府ニテ分散人ニ對スル詐訟入費償還ノ訴ヲ為スハ債主全
負ノ費用ニテ之ヲ為ス可ラス但シ債主全負ニテ其費用ヲ負
擔スヘキ場合ハ此限ニ非ス
分散人債主全負ヨリ分散和解契約ヲ得シ時ハ其延期定約ニ
定メタル拂方ノ期日經過セシ後ニ非ザレバ官府ニテ其分散
人ニ對シ詐訟入費償還ノ訴ヲ為ス可ラス

第二章 詐偽倒産

第七百三条 分散ノ際其高業簿冊ヲ匿シ又ハ其財産及貸高ノ
一部ヲ匿シ又ハ其簿冊書類公私ノ証書或ハ其見積書ヲ己
レノ負ハガル義務ヲ偽テ負ヒタリト記載シタル分散人ハ詐
偽倒産人ト為シ刑法ノ罰ヲ受ク可シ

第七百四条 會社分散ノ時左ノ所為アル支配人ハ之ヲ詐偽倒
産人ト為シ刑法ニ依テ罰セラル可シ

第一 法律上ニ定メタル法式ニ循ヒ結社契約書ヲ公
告スルヲ失念セシ者又ハ態ト之ヲ公告セザリシ
者

第二 各社員ノ會社ニ出スヘキ資本又ハ各社員ヨリ
現ニ會社ニ納メタル資本ノ高ヲ偽リシ者

第三 各社員ニ分散スヘキ割附金ノ不足スル而已ナ
ラス會社ノ資本ヲ減セシタル者

第四 詐偽ヲ以テ結社契約書中ニ定メタルヨリ多夥ノ豫備金ヲ為シタル者

第五 詐偽ヲ以テ會社ノ分散ヲ為シタル者又ハ詐偽ノ所為ヨリシテ會社ヲ分散スルニ至ラシメシ者

第七百五條 詐偽倒産ニ付詐ヲ為スノ費用ハ如何ナル場合ニ於テモ之ヲ債主ノ全負ヨリ辨償セシム可ラズ但シ債主ノ一人又ハ數人ヨリ其詐ヲ為シテ分散人其罪ナシトノ裁判言渡ヲ受ケシ時ハ其詐ヲ為シタル者ヨリ其費用ヲ弁償スヘシ

第三章 分散人ニ非ザル者分散ノ事ニ付テ犯シタル罪

第七百六條 左ノ者ハ詐偽倒産人ニ等シキ罰ヲ受クベシ

第一 情ヲ知テ分散人ト為メ其動産又ハ不動産ヲ匿シタル者但シ刑法中首犯又ハ附從ニ係ル条ト相觸

ル、ヲナカルヘシ

第二 自己ノ名称ヲ用テ又ハ他人ノ名称ヲ用テ貸金ノ証書ヲ贋造シ之ヲ分散人ノ負債中ニ加入シ且之ヲ真正ナリト誓ヒタル者

第三 他人ノ名称ヲ用テ又ハ自己ノ名ヲ偽リテ商業ヲ為シ第七百三條ニ記載シタル罪ヲ犯セシ者

第七百七條 分散人ノ配偶者又ハ其血屬及姻屬ノ尊卑屬ノ親分散人ノ所有物タルトテ知テ其貸財物品ヲ匿スト魚尾分散人ト通シテ之ヲ為シタルニ非ザレハ竊盜罪ヲ以テ論ス可シ

第七百八條 前二條ノ場合ニ於テハ裁判所ニテ犯罪人ヲ無罪ナリト判決シタル時ト雖モ猶モ左件ノ言渡ヲ為ス可シ

第一 匿シタル物品又ハ其物品ノ代價ヲ債主ノ全負ニ返還ス可キ事

第五百九十二条

第二 本件ヨリ生シタル償金ノ事但シ償金ノ高ハ之
ヲ其裁判言渡昏中ニ定ム可ク本件ノ外ヨリ生シタ
ル償金ハ此限ニ非ズ

第七百九条 管財人其職務ヲ行フニ當リ不正ノ所行ヲ為シタ
ル時ハ刑法第六百二十九条及ヒ第六百三十条ニ循ヒ之ヲ罰
スベシ

第五百九十七条

第七百十条 債主中ノ一人分散會議ノ時不正ノ投言ヲ為自己
ノ利益ヲ得ントスルヲ分散人又ハ其他ノ者ト約シタル時
又ハ自己ノ利益ノ為メ分散人ヨリ金高ヲ得ヘキ別段ノ契約
ヲ為シタル時ハ一年ヨリ多カラザル時間ノ禁錮二千リール
ヨリ多カラザル罰金ニ所セラルベシ
若シ其罰金ハ債主管財人タル時ハ二年ヨリ多カラザル時間
ノ禁錮ニ處セラル可シ

第五百八十八条

第七百十一条 前条ノ罰ニ所セラルベキ不正ノ契約ハ何人ニ
對スルモ其効ナク分散人ニ對スルモ亦其効ナカルベシ
債主ハ其不正ノ契約ニ依リ受取タル金高又ハ物品ヲ当然之
ヲ得ベキ者ニ返還ス可シ
右契約ヲ取消シト求ムル民事上ノ訴ハ商法裁判所ニ訴出ス
ベシ

第五百八十二条

第七百十二条 此章ト前章トニ記載シタル事件ニ付刑事上ノ
罰アル由ヲ言渡シタル裁判言渡ハ第五百五十条ニ記載シタ
ル法式ニ循ヒ之ヲ公告スヘシ

第四章 倒産ノ場合ニ於テ其倒産人ノ財産ヲ支配ス
ル事

第五百八十三条

第七百十三条 倒産訴訟申又ハ倒産人其罪アル由ノ言渡ヲ受
ケシ後ハ其者ニ関スル民事裁判所ハ刑事ノ訴ト分テ之ヲ為

ス可シ但シ第七百八条ニ記載シタル場合ハ此限ニ非ズ且其分散ノ財産ニ関スル法律ハ民事裁判所ニ於テ倒産ノ訴ヲ受ケタル裁判所ノ認許ヲ待ズシテ之ヲ執行スルコトヲ得ヘシ
第七百十四条 管財人ハ檢事ノ求メニ従テ分散ノ模様ヲ知り得ヘキ諸件ヲ告
其他ノ書類ヲ渡シ且總テ分散ノ模様ヲ知り得ヘキ諸件ヲ告知ス可シ

管財人ノ渡シタル証書其他ノ書類ハ犯罪糾問ノ間檢事之ヲ保有シ管財人ニテ檢視セシト欲スルニハ其旨ヲ願出タル上檢視スルコトヲ得ヘシ且管財人ハ其証書書類ノ私ノ寫或ハ公正ノ寫ヲ得ント求ムルコトヲ得ル其公正ノ寫ハ登記官ヨリ之ヲ受取ルベシ

裁判言渡リ後チ裁判所ニ貯ヘ置クコトヲ要セザル証書及其他ノ書類ハ之ヲ管財人ニ還付シ管財人其受取書ヲ差出スベシ

第三卷 復権ノ事

第七百十五条 分散人其負コタル債ノ元金利息費用ノ總高ヲ返済シタル時ハ其權ヲ復スルコトヲ得ヘシ

高社ノ分散シタル中ハ其社員ハ別段分散和解契約ヲ得タルニト雖モ其社ノ負コタル債ノ元金利息費用ノ總高ヲ返済シタルノ証ヲ立タル後チニ非ザレバ其權ヲ復スルコトヲ得ス

第七百十六条 復権ノ願昏ハ家資分散ヲ言渡シタル裁判所ヲ管轄スル控訴院ニ差出ス可シ其願昏ニハ其願ヲ為スニ付テノ証書トナルヘキ請取書及其他ノ証書ヲ添フ可シ

控訴院ノ檢事長ハ其願ヲ受取リタル上ニテ其寫ヲ取リ之ヲ認メ又之ヲ分散ヲ為シタル所ノ高法裁判所長ト檢事トニ送達スベシ分散人他ノ裁判所ノ管轄地ニ寄留スルキ氏ハ其寄留地ノ高法裁判所長ト檢事トニ其寫ヲ送達シ願人ハ述ヘタ

大 裁 省

七百七条

ル所ノ実否ヲ糾カシムベシ

第七百七条 其實否ヲ糾カシガ為メ高法裁判所長及檢事ノ注意ヲ以テ復権願書ノ寫ヲ其高法裁判所ノ訟庭邑廳商人集會所ニ二月間貼附シ置キ且其願書ノ抜抄ヲ裁判記事新聞ニ記入スヘシ

七百八条

貸金利息入賞ノ全額ヲ未タ受取ラザル債主又ハ其他関係アル者ハ其貼附ノ時間ニ復権ニ付故障ヲ申立ルタメ願書ヲ裁判所ノ書記局ニ送スヲ得ヘシ但此願書ニハ故障ヲ述ルノ証トナル可キ書類ヲ添フベシ

其故障ヲ述ベタル債主ハ復権ノ訴訟ニ参加スルヲ得ス

七百九条

第七百八条 前条ニ記シタル二月ノ期限終リシ後ハ高法裁判所ノ上席人及檢事ハ復権ノ願ヲ述ベタル者ノ実否ヲ糾シタル模様ノ書面ト故障ヲ述タル書面トヲ各自ニ控訴院ノ檢

七百十条

事長ニ差出シ且其復権ノ願ヲ許スマ否マニ付其見込ヲ書面ニ記シテ又マ差出ス可シ

控訴院ハ檢事長ノ見込ヲ聞キタル上ニテ復権ノ願ヲ許スマ否マニ付裁判ヲナス可シ○若シ其願ヲ許サレザルハ其時ヨリ一年ノ後ニ非ザレバ再ビ其願ヲ為ス可ラス

七百十一條

第七百九条 若シ復権願ノ寫ヲ許シタルハ曩ニ其寫ヲ送達シタル所ノ高法裁判所ノ上席人及檢事ニ其言渡書ヲ送達ス可シ○其裁判所ハ訟庭ニ於テ控訴院ノ言渡書ヲ讀聞セ且又テ其簿冊ニ登記スルヲ書記官ニ命ス可シ

復権ヲ為シタル分散人ノ姓名ハ第五百五十一条ニ記シタル家資分散人ノ簿冊ヨリ除去ス可シ

七百十二條

第七百二十条 詐偽ノ倒産人破信竊盜欺偽ノ罪ノ言渡ヲ受タル者第六百二十六条第六百二十八条第六百二十九条第六百

三十一條及第六百三十三條ニ記シタル罪ノ言渡ヲ受タル者若シクハ後見人又ハ財産ノ支配人又ハ其他ノ許算人全ク正美ヲ濟マザル者ハ復権ヲ為スヲ得ス

第七百二十一条 通常ノ倒産人ハ其言渡ノ刑ニ所セラレシ上又ハ其刑ヲ宥ルハレタル時ハ復権ヲ為スヲ得ヘシ

第七百二十二条 分散人ハ其死後ニ至テモ復権ヲ為スヲ得可シ

第四篇 商法裁判所ノ管轄及民事上拘留ノ事

第一卷 裁判所ノ管轄ノ事

第七百二十三条 商法裁判所ハ左ノ諸件ヲ裁判ス可シ

第一 何人ニ限ラズ商事ニ関シタル訴訟

第二 商人ト商人ニアラザルモノトノ間ノ為替手取若クハ切手ニ関シタル訴訟但シ此等ノ手取通常ノ義務ニ違

シタルハト雖モ皆同一ナリトス

第三 船長商人ノ手代手傳人及其他附属人ニ對シ其商業ノ事ニ付テノ訴訟又ハ其手代等ノ属スル者身ニ関スル

事ニ付テノ訴訟

第四 船長商人ノ手代手傳人及其他ノ附属人ヨリ船總支配人及商人ニ對シ商事ニ付テノ訴訟又其手代等ノ属ス

ル者ノ身ニ関スル事ニ付テノ訴訟

第五 船客ヨリ船長及船總支配人ニ對シ又ハ船長及船總

支配人ヨリ船客ニ對スルノ訴訟

第六 戲場ノ座元ヨリ其藝人ニ對シ又ハ其藝人ヨリ座元

ニ對スルノ訴訟

第七 此商法第三編ニ記載シタル總テ家資分散ニ関係シ

タル案件

第八 商人ノ分限若クハ商業會社ニ関シタル訴訟
若シ其訴訟相續人ニ及フ時ハ其相續人ヲ管轄スル民事裁判
所ニ於テス可シ

第七百二十四条 土地ノ所有者土地ヲ耕作スル者又ハ葡萄ヲ
作ル者土地ヨリ生シタル物ハ其自ラ耕作シ得タルト否トヲ
問ハズ其賣却ノトニ付此等ノ者ニ對シナス所ノ訴訟及商人
自用ノ為ノ若クハ其親屬ノ為ノ買入レタル商品又ハ日用品
ノ代價拂方ニ付其商人ニ對シテ為ス所ノ訴訟ハ商法裁判
所ノ管轄ニ屬セズ

第七百二十五条 一箇ノ事件契約者双方ノ一方ノミニ對シ商
事タルハ其事ニ付訴訟ヲナサントスル者ハ其相手方ノ商
人ナルハ之ヲ商法裁判所ニ訴ヘ商人ニアラザルモノナル
ハ之ヲ民事裁判所ニ訴フ可シ

第七百二十六条 大市又ハ小市ノ時ニ争訟起リ直ニ之ヲ判ス
可キヲ要スル場合アルハ^レポレテ^ルハ其事件已レ^ル權限
外ノ事タルト雖モ^レ返リニ之ヲ受理シ相當ノ處分ヲナシ然ル
後其原被双方ヲ裁^クリ^テ裁判所ニ附ス可シ
若シ^レアレ^ル別段故障ヲ述ベタルニ於テハ其市アル場所
ノ^レシ^テア^リト^ル和解^ス返リニ其所分ヲナス^ルヲ得可シ

第二卷 民法上拘留ノ事

第七百二十七条 左ノ者ニ限リ民法上ノ拘留ヲ言渡スヘシ

- 第一 高法上負債ヲ拂フヘキ裁判言渡ヲ受タル商人
- 第二 商人ニアラズシテ商法裁判所ニ於テ裁判言渡ヲ
受ケタル者但シ民法ノ定規ニ循ヒ商法裁判所ニ於テ
之ヲ裁判シ得キ時ニ限ル可シ
- 第三 商人ニアラズシテ為替手取及其保証裏書承諾返

シ為接或ハ如キノ事ニ付裁判言渡ヲ受ケタル者但シ
其事柄ノ原因ノ商事タル時ニ限ル可

第七百二十八条 高法裁判所ニ於テハ前後ノ事情ニ因リ海上

ノ商事又ハ其他ノ商事ニ付商人ニアラスシテ裁判言渡ヲ受

ケタルモノヲ拘留スルコトヲ得ヘシ但シ其者ノ逃亡ノ恐レテ

ルカ又ハ其義務ヲ償還セサルノ恐レアルハニ限ルヘシ

第七百二十九条 女又ハ幼年ノ商人ハ其職掌トシテ常ニ行フ

所ノ商業事件ニ関シテノニ拘留ヲ受ク可シ

第七百三十条 仲裁人ヲ撰テ裁判ヲ任シタルハ其裁判言渡執

行ニ付拘留ヲ受クルハ商人タル者ニ限ルヘシ

第七百三十一条 第七百二十七条ノ三項及第七百二十八条ニ

記載シタル場合ニ於テ拘留ノ言渡ヲ受ケタル商人ニ非サル

負債主ハ已レノ受ケタル拘留言渡ノ執行前後ヲ問ハズ實ニ

許サルヘキ証又ハ實ニ無産ナルノ証ヲ立ツルニ於テハ其拘
留ヲ免ル可シ

其願セハ拘留ノ言渡ヲ為シタル裁判所ニ於テス可シ其時ハ
別段定メタル日ニ債主ヲ法庭ニ呼出シアランコトヲモ願フベ

第七百三十二条 茲テ民法中拘留ノ規則ハ高法ニモ適用スヘ

ビクトール正マニウエール (手署)

セグワカ (手署)

大 蔵 省

